志木市の文化財　第96集

中道遺跡第97地点
田子山遺跡第173地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

2024

埼玉県志木市教育委員会

は　じ　め　に

志木市教育委員会
教育長　柚木　博

ここに刊行する『中道遺跡第97地点　田子山遺跡第173地点　埋蔵文化財発掘調査報告書』は、教育委員会が令和４・５年度に受託事業として実施した、２地点分の発掘調査の成果をまとめたものです。

中道遺跡第97地点では、縄文時代の土坑やピット、平安時代の土坑、中世以降の段切状遺構や土坑、ピット、畝状遺構が発見されました。特に、中世の土坑である346号土坑からは、当時の埋葬方法が分かる状態で人の全身骨が出土しました。

田子山遺跡第173地点では、縄文時代の土坑やピット、平安時代の住居跡やピット、中世以降の土坑やピットが発見されました。

このように、今回の調査においても本市の歴史を知る上で欠くことのできない貴重な資料を得ることができました。この成果が郷土史研究をはじめ、多くの人々に幅広く活用されることを切に願っております。

最後になりましたが、本書の刊行にあたり、格別の御理解と御協力を頂いた事業主体者、そして深い御理解と御協力を賜りました地元の多くの方々並びに関係者の皆様に対し、心から感謝申し上げます。

例　言

1．本書は、令和４・５年度に発掘調査を実施した、埼玉県志木市に所在する遺跡である中道遺跡第97地点、田子山遺跡第173地点の発掘調査報告書である。

2．発掘作業及び整理作業は、志木市教育委員会の受託事業として、以下の土木工事主体者から委託を受け実施した。

中道遺跡第97地点：個人

田子山遺跡第173地点：埼玉県朝霞市東弁財３丁目16番５号

マックホーム株式会社　代表取締役　吉野　満

3．本書の作成において、編集は木村結香が行い、執筆は下記以外は木村が行った。なお、中世以降の遺物については、和光市教育委員会文化財調査指導員の野澤　均氏にご教示を頂いた。

尾形則敏　第１章

藤田　尚・伊藤　茂・加藤和浩・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・Zaur Lomtatidze・森　将志（株式会社パレオ・ラボ）　第４章

4．遺物の実測は、星野恵美子・松浦恵子が行った。遺構・遺物のデジタルトレースは深井恵子・青木修・池野谷有紀が行った。写真撮影は青木が行った。

5．中道遺跡第97地点の自然科学分析については、株式会社パレオ・ラボ（取締役社長　中村賢太郎）に委託した。

6．本書に掲載した石製品については、有限会社アルケーリサーチ（取締役社長　藤波啓容）に実測を委託した。

7．発掘作業における表土剥ぎ作業については、株式会社大塚屋商店（代表取締役　綱島正人）に委託し、重機オペレータは小林貴司が担当した。。

8．本報告に係る出土品及び記録図面・写真等は、志木市立埋蔵文化財保管センターで一括して保管している。

9．調査組織（令和４・５年度）

【志木市教育委員会組織】

調査主体者	志木市教育委員会
教育長	柚木　博
教育政策部長	今野美香
生涯学習課長	土崎健太
生涯学習課副課長	吉成和重
生涯学習課主幹	浅見千穂（～令和４年度）
生涯学習課主査	徳留彰紀
〃	大久保　聡
生涯学習課主任	尾形則敏
〃	石川千尋
〃	塚原会理（令和５年４～６月）

生涯学習課主事　塚原会理（～令和4年度）
〃　木村結香（令和5年度～）
生涯学習課主事補　木村結香（～令和4年度）
〃　吉田優奈（令和5年8月～）
調査担当者　徳留彰紀
〃　大久保　聡
〃　尾形則敏
〃　木村結香
志木市文化財保護審議会　井上國夫（会長）
〃　深瀬　克（委員）
〃　上野守嘉（委員）
〃　新田泰男（委員）
〃　金子博一（委員）（～令和4年度）
〃　大木雄平（委員）（令和5年度～）

10. 発掘作業及び整理作業参加者

〈中道遺跡第97地点〉

○発掘作業

調査担当者　大久保　聡・木村結香・徳留彰紀・尾形則敏
調査員　青木　修
調査補助員　星野恵美子
作業員　秋山良友・池野谷有紀・片山　望・小林詠美子・二階堂美知子・福田浩明・松浦恵子

○整理作業

調査員　青木　修
調査補助員　星野恵美子
作業員　秋山良友・池野谷有紀・片山　望・二階堂美知子・福田浩明・松浦恵子・山口優子

〈田子山遺跡第173地点〉

○発掘作業

調査担当者　徳留彰紀・木村結香・大久保　聡・尾形則敏
調査補助員　星野恵美子
作業員　片山　望・小林詠美子・二階堂美知子・福田浩明

○整理作業

調査員　深井恵子・青木　修
調査補助員　星野恵美子
作業員　池野谷有紀・片山　望・小林詠美子・二階堂美知子・福田浩明・山口優子

11. 各遺跡の発掘調査及び整理作業・報告書作成には、以下の諸機関・諸氏のご教示・ご援助を賜っ

た。記して感謝する次第である（敬称略）。

埼玉県教育局市町村支援部文化資源課・（公財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団・

朝霞市教育委員会・朝霞市博物館・新座市教育委員会・和光市教育委員会・富士見市教育委員会・

富士見市立水子貝塚資料館

12. 本報告に係る文化財保護法に基づく各種届出等及び指示通知については、下記の通りである。

〈中道遺跡第97地点〉

○周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）

令和5年4月3日付け　教文資第5－41号

○埋蔵物の文化財認定について（通知）

令和5年8月15日付け　教文資第7－68号

〈田子山遺跡第173地点〉

○周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）

令和4年8月26日付け　教文資第5－1040号

○埋蔵物の文化財認定について（通知）

令和5年1月20日付け　教文資第7－118号

凡　例

1．本報告書で使用した地図は以下のとおりである。

第1図　1：10,000「志木市全図」株式会社パスコ調製

第2・18図　1：2,500　ゼンリン電子住宅地図　デジタウン「埼玉県志木市」平成27年4月発行　株式会社ゼンリン

2．本書の国家座標、緯度、経度は、世界測地系に則している。

3．挿図版の縮尺は、それぞれに明記した。

4．遺構挿図版中の水糸レベルは、海抜標高を示す。

5．ピット・掘り込み内の数値は、床面もしくは確認面からの深さを示し、単位は㎝である。また、同一遺構内にあるピットでも、おそらく後世のピットと思われるものには、数値を省略した。

6．遺構挿図版中のドットは遺物出土位置を示すが、遺物が密集する場合は個体別にドットマークを換えて表示した。番号は遺物挿図版中の遺物番号と一致する。

7．挿図版中のスクリーントーンについては、各挿図版内に内容を示した。

8．土器一覧表「法量」項中にある表記については、以下のとおりである。また、現存値は［　］、推定値は（　）を付した。

高：器高　　口：口径　　底：底径　　厚：器厚

9．遺構の略記号は、以下のとおりである。

H＝平安時代の住居跡　　D＝土坑　　P＝ピット　　畝＝畝状遺構

目　　次

はじめに
例　言／凡　例／目　次／挿図目次／表 目 次／図版目次
第１章　遺跡の立地と環境 …… 1
　第１節　市域の地形と遺跡 …… 1
第２章　中道遺跡第97地点の調査 …… 9
　第１節　遺跡の概要 …… 9
　第２節　調査の経緯 …… 9
　第３節　縄文時代の遺構 …… 23
　第４節　平安時代の遺構 …… 24
　第５節　中世以降の遺構・遺物 …… 25
　第６節　遺構外出土遺物 …… 39
第３章　田子山遺跡第173地点の調査 …… 40
　第１節　遺跡の概要 …… 40
　第２節　調査の経緯 …… 40
　第３節　検出された遺構・遺物 …… 48
第４章　自然科学分析 …… 58
　第１節　中道遺跡第97地点から出土した人骨について …… 58
　第２節　中道遺跡出土人骨の放射性炭素年代測定 …… 59
第５章　調査のまとめ …… 64
　第１節　中道遺跡第97地点の調査成果 …… 64
　第２節　田子山遺跡第173地点の調査成果 …… 67

図　版
報告書抄録

挿図目次

第１図　市域の地形と遺跡分布（1／20,000）…… 2
第２図　中道遺跡の調査地点（1／3,000）…… 10
第３図　確認調査時の遺構分布（1／200）…… 18
第４図　遺構分布図（1／150）…… 19
第５図　基本層序（1／300・1／60）…… 22
第６図　縄文時代の遺構（1／60）…… 23
第７図　347号土坑（1／60）…… 25
第８図　段切状遺構（1／60）…… 27
第９図　土坑１（1／60）…… 28
第10図　土坑２（1／30・1／60）…… 29
第11図　ピット１（1／60）…… 31
第12図　ピット２（1／60）…… 32
第13図　ピット３（1／60）…… 33
第14図　ピット４（1／60）…… 34
第15図　畝状遺構（1／100）…… 37
第16図　348号土坑出土遺物（1／4・1／5）…… 38
第17図　遺構外出土遺物（1／3）…… 39
第18図　田子山遺跡の調査地点（1／3,000）…… 41
第19図　確認調査時の遺構分布（1／150）…… 47
第20図　遺構分布図（1／150）…… 47
第21図　89号住居跡・遺物出土状態（1／60）…… 50
第22図　89号住居跡カマド（1／30）…… 51
第23図　89号住居跡出土遺物（1／4・1／3）…… 51
第24図　土坑（1／60）…… 53
第25図　ピット（1／60）…… 55
第26図　ピット出土遺物（1／4・1／3）…… 56
第27図　遺構外出土遺物（1／4・1／3）…… 57
第28図　人骨コラーゲンの炭素・窒素同位体比と推測されるタンパク質源 …… 61
第29図　暦年較正結果 …… 62
第30図　中道遺跡・新邸遺跡の段切造成面範囲及び土坑墓・火葬墓分布（1／2,000）…… 65
第31図　田子山遺跡の平安時代遺構分布（1／2,000）…… 69

表 目 次

第１表　志木市埋蔵文化財包蔵地一覧 …… 1
第２表　中道遺跡調査一覧（１） …… 11
　　中道遺跡調査一覧（２） …… 12
　　中道遺跡調査一覧（３） …… 13
第３表　志木市の発掘調査報告書一覧（１） …… 14
　　志木市の発掘調査報告書一覧（２） …… 15
　　志木市の発掘調査報告書一覧（３） …… 16
　　志木市の発掘調査報告書一覧（４） …… 17
第４表　中道遺跡第97地点の発掘調査工程表 …… 20
第５表　中世以降のピット一覧（１） …… 35
　　中世以降のピット一覧（２） …… 36
第６表　中世以降の遺構出土陶器・土器一覧 …… 38
第７表　遺構外出土縄文土器一覧 …… 39
第８表　田子山遺跡調査一覧（１） …… 42
　　田子山遺跡調査一覧（２） …… 43
　　田子山遺跡調査一覧（３） …… 44
　　田子山遺跡調査一覧（４） …… 45
第９表　田子山遺跡第173地点の発掘調査工程表 …… 46
第10表　89号住居跡出土土器・陶器一覧 …… 52
第11表　ピット一覧 …… 54
第12表　平安時代のピット出土土器・陶器一覧 …… 56
第13表　遺構外出土土器一覧 …… 57
第14表　人骨の試料№とその所見 …… 58
第15表　測定試料及び処理 …… 59
第16表　炭素・窒素安定同位体比測定結果 …… 60
第17表　放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果 …… 62
第18表　市内の長方形土坑墓一覧 …… 65
第19表　田子山遺跡の平安時代住居跡一覧（１） …… 70
　　田子山遺跡の平安時代住居跡一覧（２） …… 71

図版目次

図版１　中道遺跡第97地点
１．調査前風景　２．確認調査風景　３．表土剥ぎ風景　４．前半調査区遺構検出状況
５．後半調査区遺構検出状況　６．TP１基本土層　７．TP２基本土層　８．345号土坑
図版２　中道遺跡第97地点
１．19号ピット　２．38号ピット　３．40号ピット　４．347号土坑　５．段切状遺構
図版３　中道遺跡第97地点
１．344号土坑　２～４．346号土坑人骨出土状態　５．346号土坑調査風景
６．346号土坑　７・８．348号土坑竪坑部牛の歯出土状態
図版４　中道遺跡第97地点
１．348号土坑調査風景　２．348号土坑竪坑部　３．348号土坑　竪坑部側から
４．348号土坑　主体部側から　５．348号土坑竪坑部　主体部側から
図版５　中道遺跡第97地点
１．349号土坑　２．350号土坑　３．66号ピット　４．67号ピット
５．前半調査区調査風景　６．後半調査区調査風景　７．前半調査区全景
８．後半調査区全景
図版６　中道遺跡第97地点
１．段切状遺構出土遺物　２．348号土坑出土遺物　３．ピット出土遺物
４．遺構外出土遺物
図版７　田子山遺跡第173地点
１．調査前風景　２．確認調査風景　３．表土剥ぎ風景　４．遺構検出状況
５．89号住居跡遺物出土状態
図版８　田子山遺跡第173地点
１．89号住居跡　２．89号住居跡カマド袖部　３．89号住居跡カマド
４．89号住居跡Ｐ１　５．89号住居跡Ｐ２
図版９　田子山遺跡第173地点
１．89号住居跡貯蔵穴　２・３．89号住居跡掘り方　４．89号住居跡調査風景
５．338号土坑　６．339号土坑　７．340・341号土坑土層断面　８．340・341号土坑
図版10　田子山遺跡第173地点
１．1号ピット遺物出土状態　２．1号ピット　３．10号ピット遺物出土状態
４．10号ピット　５．14号ピット　６．19号ピット　７．調査風景　８．調査区全景
図版11　田子山遺跡第173地点
１．89号住居跡出土遺物　２．ピット出土遺物　３．遺構外出土遺物
図版12　中道遺跡第97地点
346号土坑出土人骨

第１章　遺跡の立地と環境

第１節　市域の地形と遺跡

（１）地理的環境と遺跡分布

志木市は、埼玉県の南西部に位置し、市域はおおよそ南北4.71km、東西4.73kmの広がりをもち、面積は9.05㎢、人口約７万６千人の自然と文化の調和する都市である。

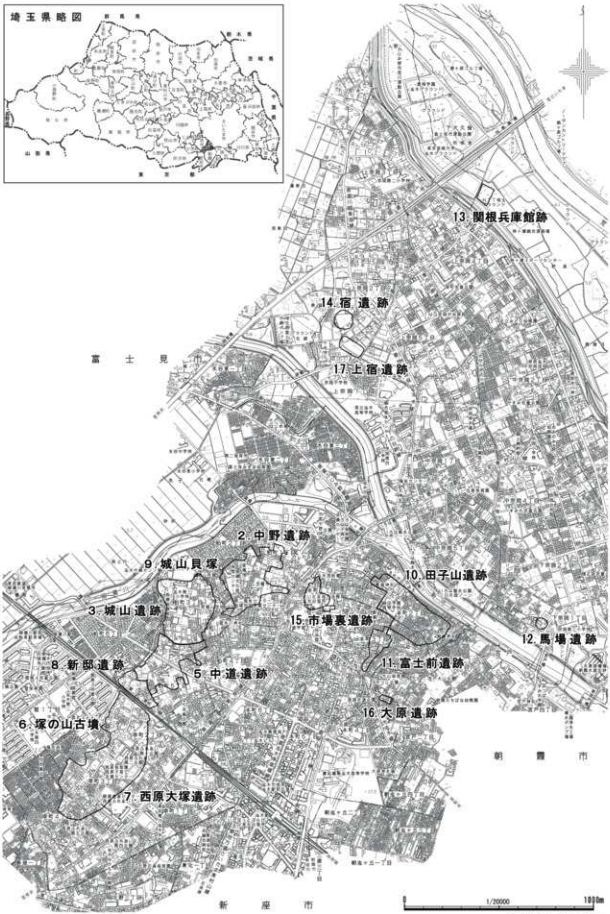
地理的景観を眺めて見ると、市域東部の宗岡地区は、荒川（旧入間川）の形成した沖積低地が拡がり、市域西部の本町・柏町・幸町地区は、古多摩川によって形成された武蔵野台地の上にある。また、市内には東部に荒川、中央に古くは舟運で利用された新河岸川、そして西部から中央に新河岸川と合流する柳瀬川の３本の川が流れている。

こうした自然環境の中で、市内遺跡の大部分は、柳瀬川・新河岸川右岸流域の台地縁辺部に帯状に分布している。遺跡は柳瀬川上流から順に、西原大塚遺跡（７）、新邸遺跡（８）、中道遺跡（５）、城山

№　遺跡名	遺跡の規模	地　目	遺跡の種類	遺跡の時代	主な遺構	主な遺物
2　中　野	71,220㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄(早～晩)、弥(後)、古(前～後)、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、地下式坑、井戸跡、溝跡、段切状遺構等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器等
3　城　山	82,520㎡	畑・宅地	貝塚・城館跡・集落跡・墓跡	旧石器、縄(草創～晩)、弥(中・後)、古(前～後)、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、土坑墓、地下室、井戸跡、溝跡、柏城跡関連、鋳造関連等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、土師質土器、古銭、鋳造関連遺物等
5　中　道	55,600㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄(早～後)、弥(後)、古(前～後)、平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、土坑墓、地下式坑、溝跡、道路状遺構等	石器、縄文土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭、人骨等
6　塚の山古墳	800㎡	林	古墳?	古　墳?	古　墳?	なし
7　西原大塚	164,960㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄(前～晩)、弥(後)、古(前・後)、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、地下式坑、井戸跡、溝跡、段切状遺構等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭等
8　新　邸	18,900㎡	畑・宅地	貝塚・集落跡・墓跡	縄(早～中)、古(前・後)、中・近世、近代	貝塚、住居跡、土坑、方形周溝墓、井戸跡、溝跡、段切状遺構、ピット群等	石器、貝、縄文・弥生土器、土師器、陶磁器、古銭等
9　城山貝塚	900㎡	林	貝　塚	縄(前)	斜面貝塚	石器、縄文土器、貝
10　田子山	74,030㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	縄(草創～晩)、弥(後)、古(後)、奈・平、中・近世、近代	住居跡、土坑、方形・円形周溝墓、ローム採掘遺構、溝跡等	縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、炭化種子等
11　富士前	14,830㎡	宅　地	集落跡	縄文、弥(後)～古(前)、平安、近世以降	住居跡、土坑?、溝跡?	弥生土器、土師器
12　馬　場	2,800㎡	畑	集落跡	古(前)	住居跡?	土師器
13　関根兵庫館跡	4,900㎡	グランド	館　跡	中世	不明	なし
14　宿	7,700㎡	水　田	館　跡	中世	溝跡、井桁状構築物	木・石製品
15　市場裏	15,120㎡	宅　地	集落跡・墓跡	縄文、弥(後)～古(前)、中世以降	住居跡、方形周溝墓、土坑	弥生土器、土師器、土師質土器
16　大　原	1,700㎡	宅　地	集落跡	近世以降?	溝跡	なし
17　上　宿	8,600㎡	水田・宅地	集落跡・墓跡	平安、中・近世	住居跡、土坑、溝跡、井戸跡	土師器、須恵器、陶磁器、板碑等
合　計	524,580㎡					

令和６年１月31日現在

第１表　志木市埋蔵文化財包蔵地一覧



令和６年１月31日現在

第１図　市域の地形と遺跡分布（1／20,000）

遺跡（3）、中野遺跡（2）、市場裏遺跡（15）、田子山遺跡（10）、富士前遺跡（11）、大原遺跡（16）と名付けられている。また、荒川・新河岸川が形成した沖積低地でも、馬場遺跡（12）、宿遺跡（14）、関根兵庫館跡（13）が認められる。最新では、平成30年12月、新たに新河岸川左岸流域で上宿遺跡（17）が発見され、自然堤防上に位置する遺跡の存在も明らかにされつつある。なお、現在市内の遺跡総数は、前述した13遺跡に塚の山古墳（6）、城山貝塚（9）を加えた15遺跡である（第1図・第1表）。

（2）歴史的環境

次に市内の遺跡を時代順に概観してみることにする。

1．旧石器時代

旧石器時代の遺跡は、柳瀬川右岸の中野・城山・中道・西原大塚遺跡で確認されている。

中道遺跡では、昭和62（1987）年の富士見・大原線（現ユリノキ通り）の工事に伴う発掘調査により、立川ローム層の第Ⅳ層上部・第Ⅵ層・第Ⅶ層で、礫群や石器集中地点が検出されている。これにより、黒曜石製のスクレイパーやナイフ形石器、安山岩や凝灰岩の石核や剥片などが発見されている。

西原大塚遺跡では、西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査により、石器集中地点が検出されている。石器集中地点は、平成6（1994）年度には2か所、平成7（1995）年度には1か所が検出され、ナイフ形石器・剥片などが発見されている。令和元（2019）年に第224地点で立川ローム層の第Ⅳ層下部～第Ⅴ層上部・第Ⅶ層から石器集中地点と礫群が検出されている。

平成11～14（1999～2002）年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第49地点では、立川ローム層の第Ⅳ層下部から、黒曜石・頁岩の石核・剥片が約60点出土している。平成28（2016）年に発掘調査された中野遺跡第91㊷地点からは、礫群1基が検出された。令和元～2（2019～2020）年にかけて発掘調査された中野遺跡第109地点では、立川ローム層第Ⅳ層下部～第Ⅴ層を中心とする石器集中地点が検出されており、石核調整剥片の良好な接合資料が出土している。

また、城山遺跡では、平成13（2001）年に発掘調査が実施された第42地点から、立川ローム層の第Ⅳ層上部と第Ⅶ層の2か所で石器集中地点が検出されている。平成20・21（2008・2009）年に調査が実施された第62地点（道路・駐車場部分）でも1か所の石器集中地点が検出され、ナイフ形石器・剥片が出土している。平成23（2011）年に発掘調査が実施された第71地点では、立川ローム層の第Ⅳ層下部～第Ⅴ層上部で石器集中地点2か所、礫群9基が検出された。令和元（2019）年には第96地点で立川ローム層の第Ⅳ層下部～第Ⅴ層上部・第Ⅵ層・第Ⅶ層で石器集中地点や礫群が検出されている。

2．縄文時代

縄文時代では、西原大塚遺跡を中心に中期後葉の遺跡が集中し、城山貝塚の周辺の城山遺跡からは、前期末葉（諸磯式期）の住居跡や土器がやや多く検出される傾向にある。

ここでは、時代の推移に従って説明することにする。まず、草創期では、平成4（1992）年に発掘調査が実施された城山遺跡第16地点から爪形文系土器1点、平成6（1994）年に発掘調査が実施された城山遺跡第21地点から多縄文系土器3点、第22地点から爪形文系土器1点、平成10（1998）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第51地点から有茎尖頭器1点が出土している。

早期では、遺構の検出例はまだ少ないが、住居跡としては、令和4（2022）年に田子山遺跡第172

地点で市内初となる撚糸文期の住居跡が１軒検出された。また、平成18（2006）年に発掘調査が実施された中道遺跡第65地点では、早期末葉（条痕文系）の10号住居跡が検出されている。土器としては、田子山遺跡で撚糸文・沈線文・条痕文系土器が出土しているが、御嶽神社を中心とする東側でやや多く出土する傾向がある。平成23（2011）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第121地点のローム上層の遺物包含層から撚糸文系土器・石器がまとまって出土している。また、城山・中野・田子山遺跡からは、条痕文系土器が炉穴に伴い出土している。

前期では、西原大塚・新邸遺跡で前期中葉の黒浜式期の住居跡が検出され、新邸遺跡のものは貝層をもつ住居跡である。令和元（2019）年度に発掘調査が実施された城山遺跡第96地点、令和３～４（2021～2022）年に実施された中野遺跡第116①地点では、前期後葉の諸磯ａ式期の住居跡が検出されている。そのうち、城山遺跡第96地点では貝層を持つ住居跡が３軒検出された。住居内貝層からヤマトシジミ・マガキが検出されている。平成２年度に市指定文化財に認定された城山貝塚も縄文海進期にあたるこの頃の時代に形成された斜面貝塚と考えられる。

中期になると遺跡が最も増加する。特に、中期中葉から後葉の勝坂式～加曽利Ｅ式期にはその傾向が強くなり、中野・城山・中道・西原大塚・田子山遺跡で住居跡を中心に土坑が検出されている。特に西原大塚遺跡では、現時点で200軒以上の住居跡が環状に分布していることが判明しつつある。中期末葉からは遺跡が減少し、現在のところ西原大塚遺跡から敷石をもつ住居跡１軒が確認されているが、平成28（2016）年に発掘調査された中道遺跡第76地点からは、加曽利ＥⅣ式の両耳壺を出土する住居跡１軒が検出された。

後期では、西原大塚遺跡から堀之内式期の住居跡２軒と加曽利Ｂ式期の住居跡１軒、遺物集中地点１か所、平成25（2013）年度に発掘調査が実施された中野遺跡第85地点からは、称名寺式期の市内初の柄鏡形住居（敷石住居）１軒が検出されている。また、その他の遺構としては、平成６（1994）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点で、土坑１基が検出され、称名寺式期の土器が出土している。その他、平成26（2014）年に発掘調査された西原大塚遺跡第204地点や平成27・28（2015・2016）年に発掘調査された中野遺跡第91地点から、包含層出土遺物として、縄文時代後期（称名寺式～堀之内式期）の遺物が比較的まとまって出土している。最新資料として、平成30（2018）年に発掘調査が実施された西原大塚遺跡第216地点で、堀之内１式期の住居跡が１軒検出されている。

晩期では、中野・田子山遺跡から安行ⅢＣ式・千網式の土器片が少量発見されている。また、令和３（2021）年に発掘調査が実施された西原大塚遺跡第234地点で、遺構外出土ではあるが、縄文時代晩期～弥生時代初頭に位置づけられる土器片が１点発見されている。以降、市内では弥生時代中期まで空白の時代となる。

３．弥生時代～古墳時代前期

弥生時代では、前期の遺跡は検出されていないが、中期については令和元（2019）年に発掘調査された城山遺跡第96地点で市内初となる宮ノ台式期の住居跡１軒、方形周溝墓１基が検出された。住居跡からは壺、甕、高坏、抉入柱状片刃石斧、扁平片刃石斧、石包丁が良好な状態で出土している。なお、これらの資料のうち、土器、石器、土製品計44点の城山遺跡10号住居跡出土遺物は、考古資料として、市指定文化財（令和３年７月１日付け）に指定されている。

弥生時代後期から古墳時代前期と考えられる遺跡は数多く検出されている。中でも、平成27・28

（2015・2016）年に発掘調査された中野遺跡第91地点からは、弥生時代後期前葉に比定される久ヶ原式土器を出土する住居跡が発見されている。平成６（1994）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点の21号住居跡は後期中葉に比定される可能性があり、その住居跡からは、多数の土器をはじめ、大量の炭化種子（イネ・アワ・ダイズなど）、炭化材が出土し、当時の食糧事情を考える上で重要である。富士前遺跡では、『志木市史』にも掲載されているが、不時の発見に伴い、籠目痕をもつ壺形土器をはじめとした多くの土器が発見されている。

西原大塚遺跡では弥生時代後期末葉から古墳時代前期にかけての住居跡が670軒以上確認されており、市内最大の集落跡であることが判明している。特に、122号住居跡からは全国的にも稀な「イヌ」を象ったと思われる動物形土製品が出土している。平成24（2012）年に発掘調査が実施された第179地点からは、遺存状態は良好ではないが、市内初の銅鏡が出土している。

昭和62（1987）年以降、西原大塚・田子山・市場裏遺跡の３遺跡において、方形周溝墓が検出されてきたが、平成15（2003）年に発掘調査が実施された新邸遺跡第８地点と平成18（2006）年に実施された中道遺跡第65地点でも、それぞれ１基が確認されている。これにより当時の墓域が、集落と単位のなまとまりをもって存在することが明らかになってきたと言えるであろう。

市内で最も多く方形周溝墓が検出されている西原大塚遺跡では、10号方形周溝墓の溝底から一括出土した中に畿内系の庄内式の長脚高坏が出土していることに注目される。また、平成11（1999）年に発掘調査が実施された西原大塚遺跡第45地点では、一辺20ｍを超える市内最大規模の17号方形周溝墓が発見され、この方形周溝墓の溝からは、珍しい鳥形土製品をはじめ、畿内系の有段口縁壷、吉ヶ谷式系の壷、在地系の壷などと大きく畿内・比企地域・在地の３要素の特徴を示す壺形土器が出土している。なお、鳥形土製品１点と壺形土器４点の計５点は、考古資料として、市指定文化財（平成25年3月１日付け）に指定されている。こうした地域に関わる被葬者の人物像が浮き彫りにされたことで、当地域の弥生時代後期から古墳時代前期の歴史を紐解く手がかりになったことは重要である。

４．古墳時代中・後期

古墳時代でも前期末葉から中期になると、遺跡が減少する傾向にある。その中で、西原大塚遺跡に隣接する新邸遺跡で検出されている第２地点の１号住居跡と平成15（2003）年に発掘調査が実施された第８地点の２～８号住居跡は、古墳時代前期でも比較的に新しい段階に比定される可能性がある。このことから、新邸遺跡で検出された住居跡は、隣接する西原大塚遺跡から継続して広がった集落跡ではないかと推測される。

中期の遺跡では、中道・城山・中野遺跡から住居跡が発見されている。その中でも、平成７（1995）年に発掘調査が実施された中道遺跡第37地点19号住居跡は、５世紀中葉に比定され、カマドをもつ住居跡としては市内最古のものである。

５世紀末葉になると、遺跡が増加傾向にあり、特に６世紀後葉から７世紀後葉にかけては、縄文中期を越えるほどの爆発的な増加をみる。こうした集落跡は現在、中道・城山・中野遺跡に比較的に古い５世紀代の住居跡が確認されていることから、柏町地区を中心に存在した集落が、６世紀後葉以降、周辺の地域に拡散するという動きを読み取ることができる。

なお、新邸遺跡では第８地点で初めて古墳時代後期（７世紀中葉）の住居跡が１軒検出されている。この住居跡は、３×3.5ｍの小型の長方形を呈するもので、焼失住居であり、床面上からは土器・炭化

材の他ベンガラ塊が出土している。

現在、５世紀後葉から７世紀後葉にかけての時期に比定できる住居跡の軒数は、最も多い城山遺跡で270軒、次いで中野遺跡で67軒、中道遺跡で20軒、田子山遺跡で18軒、新邸遺跡で１軒を数える。

また住居跡以外では、平成５（1993）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第24地点から、６世紀後葉以降のものと考えられる4.1×4.7ｍの不整円形で２か所にブリッジをもつ小型の円形周溝墓が１基確認されている。さらに、平成14（2002）年に発掘調査された田子山遺跡第81地点を契機に御嶽神社を取り囲むように外周で推定約33ｍの巨大な溝跡の存在が明らかになり、現時点では古墳の周溝ではないかと考えられ、今後この一帯での古墳の発見に期待されている。

５．奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺跡は、古墳時代後期以降に拡散した集落内で確認される傾向にあり、現在のところ、中野・城山・中道・西原大塚・田子山・富士前遺跡で検出されている。中でも城山・田子山遺跡はこの時代を代表とする遺跡として挙げることができる。城山遺跡では、平成８（1996）年に発掘調査が実施された第35地点の128号住居跡から、印面に「冨」１文字が書かれた完形品の銅印が出土しているが、これは県内でも稀少な例として貴重な資料であろう。この住居跡からはその他、須恵器坏や猿投産の緑釉陶器の小破片１点、布目瓦の小破片２点などが出土している。平成20・21（2008・2009）年の城山遺跡第62地点の調査では、平安時代の241号住居跡から皇朝十二銭の一つである富壽神寶（ふじゅしんぽう）が２枚とその近くからは鉄鎌１点と土錘１点が出土しており、祭祀行為が行われたと考えられる貴重な例として、県内でも重要な発見につながっている。

田子山遺跡では、平成５（1993）年に発掘調査が実施された第24地点からは、住居跡の他、掘立柱建築遺構・溝跡、そして100基を越える土坑群が検出されている。平成６（1994）年に発掘調査が実施された第31地点の44号住居跡からは、腰帯の一部である銅製の丸鞆が出土している。さらにカマド右横の床面上からは、東金子窯跡群と南比企窯跡群の製品という生産地の異なる須恵器坏が共伴して出土したことにより、土器編年の基本資料として貴重であると言える。

最新では、令和元（2019）年と令和３（2021）年に一般国道254号和光富士見バイパス事業に伴い発掘調査が実施された上宿遺跡により、平安時代の住居跡・土壙・溝跡などが検出され、宗岡地区における自然堤防上に立地する遺跡の存在が明らかになりつつある。

なお、以上のうち、城山遺跡128号住居跡出土の銅印ほか９点の遺物と城山遺跡第241号住居跡出土の冨壽神寶ほか２点の遺物は、考古資料として、市指定文化財（平成25年３月１日付け）に指定されている。

６．中・近世

中・近世の遺跡は、「柏の城」を有する城山遺跡と大塚千手堂関連である新邸・中道遺跡、そして関根兵庫館跡・宿遺跡が代表される遺跡と言える。城山遺跡では、数次にわたる発掘調査により、『舘村旧記』（註１）にある「柏之城落城後の屋敷割の図」に相当する堀跡などが多数発見されている。近年では、『廻国雑記』（註２）に登場する「大石信濃守館」が「柏の城」に相当し、「大塚十玉坊」についても市内の「大塚」に由来があるという説が有力と言えるであろう（神山　1978・2002）。

また、平成７（1995）年に発掘調査が実施された第29地点の127号土坑からは、馬の骨が検出され

ている。この土坑からは、板碑と土師質土器の他、炭化種子（イネ・オオムギ・コムギなど）も出土しており、イネの塊状のものは「おにぎり」あるいは「ちまき」のようなものであるという分析結果が報告されている。

さらに、平成８（1996）年度に発掘調査が実施された第35地点から、鋳造関連の遺構が検出されている。130号土坑については鋳造遺構、134号土坑については溶解炉に該当し、遺物としては、大量の鉄滓（スラッグ）、鋳型、三叉状土製品、砥石などが出土している。最新資料では、平成27・28（2015・2016）年に発掘調査された第89地点の調査により、第35地点の鋳造関連の捨て場が明らかになった。この調査により、鍋本体の大型鋳型、鍋の耳部分の小型鋳型、三叉状・四叉状土製品・トリベ・砥石などの道具類や鉄滓（スラッグ）などの大量の遺物が斜面に流れ込むように出土した。

平成13（2001）年度の第42地点からは、多くの土坑・地下室・井戸跡が検出される中、234号土坑から、鉄鍋の完形品が出土したことは特筆すべきである。この鉄鍋は、土坑の坑底面に伏せてある状況で出土しており、「鍋被り葬」と呼ばれる風習が志木市でも実在していた可能性が高い。

戦国期の資料としては、平成６（1994）年度に発掘調査が実施された第21地点から、当市では初めて、鎧（よろい）の札（さね）である鉄製品１点と鉄鏃１点が出土している。出土した遺構は、19世紀前半の86号土坑であるため混入品となるが、「柏の城」に関連する資料として大変重要な資料に加わったと言える。

平成11～14（1999～2002）年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第49地点からは、段切状遺構の坑底面から頭を北に向け横臥屈葬された人骨を出土した67号土坑、その他、ピット列・土坑・井戸跡・溝跡などが検出された。その後、平成27（2015）年度に第49地点の北側に隣接する第95地点の調査が実施され、段切状遺構の坑底面より、新たに土坑45基・井戸跡２基・溝跡１本・ピット231本などが検出された。特に、土坑のうち、市内で初めて「Ｔ字形」の火葬土坑５基が検出されたことは特筆すべきである。こうした墓域的な様相が僅かながら判明しつつある中、この一帯が『舘村旧記』に記載がある「村中の墓場」関連に相当する遺構ではないかとの見方がある。

中道遺跡では、昭和62（1987）年の第２地点から人骨を伴う地下式坑、掘立柱建築遺構が検出され、平成７（1995）年の第37地点からは、人骨と古銭５枚を出土した土坑墓１基と13世紀に比定される青磁盤１点を出土した道路状遺構１条が検出されている。

新邸遺跡では、昭和60（1985）年の第１地点から段切状遺構の平場から多数の土坑・地下式坑が検出され、平成15（2003）年の第８地点からは、人骨と六文銭を伴う火葬墓２基が検出されている。おそらく、この新邸遺跡から中道遺跡一帯は、『舘村旧記』に記載がある「大塚千手堂」であり、古くは天台宗の「七堂大伽藍」を誇る「松林山観音寺大受院（しょうりんざんかんのんじだいじゅいん）」関連遺構と考えられる。その後、平成25（2013）年には、中道遺跡第74地点の発掘調査が実施され、段切状遺構の平場から多数のピットや溝跡などが検出され、上記を裏付ける追加資料となった。

最新資料としては、令和２・３年度に発掘調査を実施した西原大塚遺跡第234地点の地下式坑（912号土坑）から、人骨（女性２体）と完形品の擂鉢が共伴する良好な資料が発見された。人骨は「通常とは異なる状況」で埋葬されたと考えられ（田中　2022）、擂鉢は古瀬戸後期Ⅳ古～新段階（藤澤　2008）に比定されることから、時期は中世（15世紀中葉～後葉）のものと考えられる。

また、令和元（2019）年と令和３（2021）年に一般国道254号和光富士見バイパス事業に伴い発掘調査が実施された上宿遺跡により、中・近世の土壙・井戸跡・溝跡などの多くの遺構が検出され、中世における『宗岡宿』の様相や近世における千光寺に関連する墓域群などを知ることができる貴重な成果

につながった。

７．近代以降

近代以降の遺跡では、平成５（1993）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点から、敷島神社境内に存在する富士塚の築造（明治２～５年）に関連するローム採掘遺構が検出されている。この遺構の坑底面からは、鋤・鍬などの無数の工具痕が観察され、採掘作業がかなり組織的な単位で行われていたこともわかり、地域研究の重要な資料と言える。

平成15（2003）年の新邸遺跡第８地点からは、野火止用水跡が検出され、市内初の発掘調査例となった。用水路の基盤面からは水付きの銹着面が確認され、底面からは大量の陶磁器が出土した。

［註］

註１　『館村旧記』は、館村（現在の志木市柏町・幸町・館）の名主宮原仲右衛門仲恒が、享保12～14（1727～1729）年にかけて執筆したものである。

註２　『廻回雑記』は、左大臣近衛房嗣の子で、京都聖護院門跡をつとめた道興准后が、文明18（1486）年６月から10か月間、北陸路から関東各地をめぐり、駿河甲斐にも足をのばし、奥州松島までの旅を紀行文にまとめたものである。

［引用文献］

神山健吉　1978「「廻回雑記」に現れる　大石信濃守の館と十玉坊の所在についての一考察」『郷土志木』第７号　志木市郷土史研究会

2002「道興をめぐる二つの謬説を糾す」『郷土志木』第31号　志木市郷土史研究会

田中　信　2022「第４章　調査のまとめ　第3節　中世以降について」『西原大塚遺跡第234地点　埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第86集　埼玉県志木市教育委員会

藤澤良祐　2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院

第２章　中道遺跡第97地点の調査

第１節　遺跡の概要

中道遺跡は、志木市柏町５丁目を中心に広がる遺跡で、東武東上線志木駅の１㎞に位置している。本遺跡は、南北方向に約300ｍ、東西方向に約330ｍの広がりをもち、面積55,600㎡を有している。

遺跡を地勢的に見ると、武蔵野台地の北端部にあたり、標高は北端で約13ｍ、南端で約14ｍ、低地との比高差は約７ｍである。遺跡の現況は都市計画道路富士見・大原線（ユリノキ通り）の開通とともに各種開発が盛んに行われ、畑地は急激に減少している。

本遺跡は、これまでに102地点の調査（令和６年１月31日現在）が実施され（第２図、第２・３表）、旧石器時代、縄文時代、弥生時代後期～古墳時代前期、古墳時代中・後期、平安時代、中・近世に至る複合遺跡であることが判明している。

第２節　調査の経緯

（１）調査に至る経過

令和４年３月、工事の施工責任者であるパナソニックホームズ埼玉西株式会社（代表取締役　三木由紀郎。以下、工事施工者）から志木市教育委員会（以下、教育委員会）へ開発計画地内における埋蔵文化財の有無及び取り扱いについての照会があった。計画は志木市柏町５丁目2978番１・３（面積316.91㎡）地内に鉄骨造３階建共同住宅建設を行うというものである。

これに対し、教育委員会は、当該開発予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である中道遺跡（コード11228－09－005）に該当するため、大旨下記のとおり回答した。

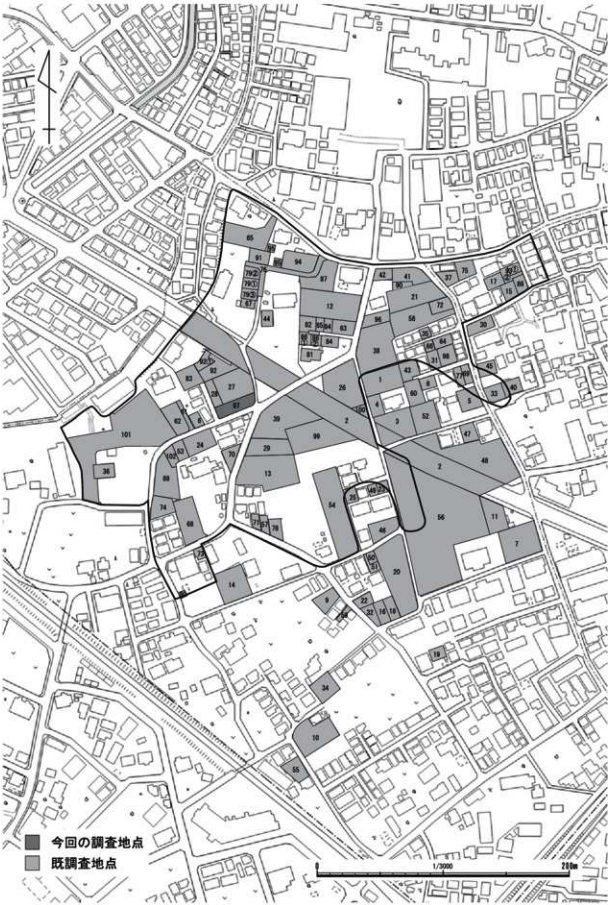
１．埋蔵文化財確認調査（以下、確認調査）を実施して、その結果に基づき、当該開発予定地の埋蔵文化財の有無及び取り扱いについて回答する。

２．上記１の調査の結果、埋蔵文化財が確認された場合、埋蔵文化財の保存措置を講ずること。また、やむを得ず埋蔵文化財に影響を与える工事を実施する場合は、記録保存のための発掘調査を実施する必要があること。

令和５年１月24日、教育委員会は、土地所有者兼土木工事主体者である個人（以下、工事主体者）より確認調査依頼書を受理し、中道遺跡第97地点として、２月２・３日に確認調査を実施した。確認調査は、第３図に示すように調査区内に北東－南西方向に２本のトレンチ（１・２Tr）を設定し、バックホーで表土を剥ぎ、同時に遺構確認作業を行った。その結果、中世以降の段切状遺構１か所・土坑２基・溝跡２本・ピット23本を確認した。

教育委員会は、この結果をただちに工事施工者に報告し、保存措置について検討を依頼した。

工事施工者と埋蔵文化財の保存措置について協議を重ねた結果、共同住宅の外構部分は盛土保存とし、建物部分（226.57㎡）については地盤改良工事が実施され、十分な文化財保護層が確保できない



令和６年１月31日現在

第２図　中道遺跡の調査地点（1／3,000）

調査地点	面積(㎡)	確認調査日	発掘調査期間	調査原因	遺構の概要	報告書No.(第３表)
第１地点	不明	昭和60年	－	共同住宅建設	検出されなかった	－
第２地点	6,468.18	－	昭和62年４月８日～11月５日	道路改良工事	(旧石器)石器集中地点３か所(縄文)集石２基(縄文中期)住居跡３軒・土坑９基(古墳後期)住居跡５軒(弥・近世)掘立柱建築遺構４棟・土坑４基・土坑墓２基・地下式坑２基・溝跡14本・掘立柱建築遺構４棟・ピット群	No.６
第３地点	448.00	昭和62年５月20日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第４地点	95.00	昭和62年５月20日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第５地点	157.40	昭和62年５月26日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第６地点	115.94	昭和62年９月18日	昭和62年９月21日～29日	個人住宅建設	(中世)土坑１基	No.８
第７地点	869.25	昭和63年１月26日	－	共同住宅建設	検出されなかった	－
第８地点	53.82	昭和63年７月30日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第９地点	234.45	平成元年３月10日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第10地点	937.05	平成元年６月21日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第11地点	300.00	平成元年９月８日	－	宅地造成	検出されなかった	－
第12地点	997.96	平成元年９月14日	平成元年９月18日～10月２日	宅地造成	(縄文中期)住居跡２軒(古墳後期)住居跡４軒(平安)住居跡２軒	No.13
第13地点	1,209.00	平成元年10月５日	平成元年10月12日～31日	宅地造成	(縄文中期)住居跡１軒・土坑３基(古墳後期)住居跡１軒(近世)土坑１基	No.13
第14地点	230.00	平成元年11月７日	－	共同住宅建設	検出されなかった	－
第15地点	125.99	平成２年６月19日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第16地点	141.22	平成２年７月24日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第17地点	104.11	平成２年７月26日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第18地点	141.22	平成２年８月４日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第19地点	197.64	平成２年10月３日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第20地点	1,199.66	平成２年11月16日	－	児童公園造成	検出されなかった	－
第21地点	487.00	平成３年１月16日	平成３年１月21日～２月６日	共同住宅建設	(古墳後期)住居跡２軒・溝跡１本(平安)住居跡２軒・溝跡１本	No.17
第22地点	125.00	平成３年１月22日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第23地点	81.24	平成３年３月28日	－	共同住宅建設	検出されなかった	－
第24地点	338.37	平成３年６月13日	－	共同住宅建設	検出されなかった	－
第25地点	131.89	平成３年６月26日	－	共同住宅建設	検出されなかった	－
第26地点	897.02	平成３年10月９日	平成３年10月14日～11月６日	ガソリンスタンド建設	(中・近世)土坑４基・土坑墓２基・溝跡１本・ピット	No.17
第27地点	632.90	平成４年９月９日	平成４年９月21日～28日	墓地造成	(中世)地下式坑２基・土坑１基	No.22
第28地点	162.51	平成４年９月28日	－	墓地造成	検出されなかった	－
第29地点	287.74	平成４年10月５日	－	共同住宅建設	検出されなかった	－
第30地点	236.76	平成４年10月30日	－	共同住宅建設	検出されなかった	－
第31地点	116.00	平成５年８月23日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第32地点	141.23	平成５年10月５日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第33地点	132.92	平成６年５月31日	平成６年６月２日～22日	個人住宅建設	(古墳後期)住居跡１基	No.16
第34地点	270.00	平成６年９月21日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第35地点	55.61	平成７年３月20日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第36地点	179.51	平成７年５月31日	平成７年６月２日～21日	個人住宅建設	(古墳前期)住居跡１軒(近世)溝跡２本・ピット群	No.18
第37地点	154.44	平成７年８月３日	平成７年８月７日～９月７日	個人住宅建設	(古墳中期)住居跡１軒(中世)土坑墓１基・道路状遺構１本	No.18

第２表　中道遺跡調査一覧（１）

調査地点	面積(㎡)	確認調査日	発掘調査期間	調査原因	遺構の概要	報告書No.(第3表)
第38地点	1,019.82	平成７年12月８日	平成８年３月13日～５月17日	共同住宅建設	(旧石器)石器集中地点１か所(古墳後期)住居跡３軒(平安)溝跡１本(近世)土坑46基・地下室１基・溝跡１本・井戸跡１基・ピット群	№70
第39地点	1,209.91	平成７年12月７日	平成８年２月６日～３月14日	共同住宅建設	(縄文)住居跡１軒・土坑７基(近世)土坑42基・地下室２基・井戸跡１基	№70
第40地点	212.06	平成８年５月15日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第41地点	394.54	平成８年６月25日	平成８年６月26日～７月４日	個人住宅建設	(平安)住居跡１軒・溝跡１本	№20
第42地点	98.52	平成９年５月16日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第43地点	280.55	平成９年８月８日	－	共同住宅建設	盛土保存適用	－
第44地点	221.28	平成９年９月18日	平成９年９月24日～10月２日	個人住宅建設	(平安～中世)土坑１基(近世)溝跡２本	№21
第45地点	131.86	平成９年10月20日	－	個人住宅建設	盛土保存適用	－
第46地点	257.55	平成11年３月９日	－	分譲住宅建設	検出されなかった	－
第47地点	112.39	平成11年６月22日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第48地点	1,483.63	平成11年６月29日	－	店舗建設	検出されなかった	－
第49地点	89.05	平成11年７月16日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第50地点	66.12	平成11年８月２日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第51地点	83.31	平成11年８月２日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第52地点	461.98	平成11年７月30日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第53地点	132.25	平成12年８月21日	－	個人住宅建設	盛土保存適用	－
第54地点	1,590.52	平成12年９月25日	－	共同住宅建設	盛土保存適用	－
第55地点	287.86	平成13年１月22日	－	共同住宅建設	検出されなかった	－
第56地点	4,918.56	平成13年２月20・21日	平成13年４月９日～12日	店舗建設	(弥生後期～古墳初期)土坑１基(古墳後期)溝跡１本(近世)土坑２基・溝跡１本	№67
第57地点	124.24	平成13年11月22日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第58地点	757.32	平成14年８月27日	－	共同住宅建設	検出されなかった	－
第59地点	560.07	平成14年10月22日	－	分譲住宅建設	検出されなかった	－
第60地点	259.69	平成15年２月25日	－	共同住宅建設	検出されなかった	－
第61地点	132.67	平成16年９月24日	－	道路建設工事	盛土保存適用	－
第62地点	626.99	平成16年11月25日	－	分譲住宅建設	盛土保存適用	－
第63地点	251.75	平成17年10月11日	－	分譲住宅建設	盛土保存適用	－
第64地点	118.80	平成17年12月１日	－	個人住宅建設	盛土保存適用	－
第65地点	556.76	平成18年５月８日	平成18年７月20日～８月12日	共同住宅建設	(縄文)住居跡３軒・炉穴１基・集石１基・土坑７基・ピット10本(弥生後期～古墳前期)方形周溝墓１基(奈良・平安)住居跡１軒・土坑３基・掘立柱建築遺構１棟・ピット17本(近世以降)土坑16基・ピット15本	No.36
第66地点	59.85	平成18年８月18日	－	分譲住宅建設	検出されなかった	－
第67地点	118.00	平成18年８月18日	－	個人住宅建設	盛土保存適用	－
第68地点	556.40	平成22年７月26・27日	－	分譲住宅建設	盛土保存適用	－
第69地点	73.15	平成22年11月24日	－	駐車場建設	検出されなかった	－
第70地点	150.64	平成22年４月18日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第71地点	85.96	平成22年９月14日	－	分譲住宅建設	盛土保存適用	－
第72地点	198.34	平成22年８月６日	－	分譲住宅建設	盛土保存適用	－
第73地点	84.45	平成22年８月23日	－	店舗建設	盛土保存適用	－
第74地点	269.93	平成25年10月11日	平成25年11月18日～ 平成26年１月24日	個人住宅建設	(縄文)土坑２基・ピット26本(中世以降)段切状遺構・土坑19基・溝跡４本・ピット371本	No.96
第75地点	228.54	平成25年12月19日	－	個人住宅建設	盛土保存適用	－

第２表　中道遺跡調査一覧（２）

調査地点	面積(㎡)	確認調査日	発掘調査期間	調査原因	遺構の概要	報告書No.(第3表)
第76地点	403.68	平成27年1月13・14日	平成28年5月17日～7月30日	道路及び給排水の開設	(縄文)住居跡2軒・炉穴2基・土坑13基・ピット9本(平安)住居跡1軒・ピット27本(中世以降)土坑27基・溝跡6本・ピット296本	No.73
第77地点	2,319.19	平成27年2月18日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第78地点	200.00	平成27年8月25日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第79地点	326.61	平成29年5月22日	－	宅地造成	－	－
第79①地点	108.36		－	個人住宅建設	盛土保存適用	－
第79②地点	109.89		－	個人住宅建設	盛土保存適用	－
第79③地点	108.35		－	個人住宅建設	盛土保存適用	－
第80地点	37.60	平成29年6月27日	－	車庫建設	盛土保存適用	－
第81地点	119.24	平成29年7月7日	－	個人住宅建設	盛土保存適用	－
第82地点	185.85	平成29年9月22日	－	分譲住宅建設	盛土保存適用	－
第83地点	270.20	平成29年11月15・16日	－	分譲住宅建設	盛土保存適用	－
第84地点	225.14	平成30年2月8日	－	分譲住宅建設	検出されなかった	－
第85地点	92.02	平成30年5月8日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第86地点	149.06	平成30年8月24日	－	分譲住宅建設	－	－
第86①地点	80.57		－	分譲住宅建設	検出されなかった	－
第86②地点	68.49		平成30年12月17・18日	個人住宅建設	発掘調査実施	未報告
第87地点	416.00	平成30年10月22・23日	第1期:平成31年1月28日～3月26日 第2期:平成31年4月15日～令和元年5月25日	分譲住宅建設	(縄文)土坑7基・ピット1本(古墳)住居跡2軒(平安)住居跡4軒(中世以降)土坑60基・溝跡11本・ピット62本	No.77
第88地点	107.44	令和元年9月25日	－	個人住宅建設	盛土保存適用	－
第89地点	496.15	令和元年12月9・10日	－	分譲住宅建設	盛土保存適用	－
第90地点	314.35	令和2年3月27日	－	分譲住宅建設	盛土保存適用	－
第91地点	187.81	令和2年7月9日	－	個人住宅建設	盛土保存適用	－
第92地点	433.66	令和2年7月15・16日	令和2年11月10日～12月17日	宅地造成及び道路新設工事	(縄文)住居跡1軒(中世以降)土坑10基・土坑墓1基・井戸跡1基・溝跡4本・段切状遺構・ピット70本・畝状遺構31本	No.88
第92①地点	103.19		－	分譲住宅建設	盛土保存適用	－
第93地点	180.10	令和2年9月30日	－	分譲住宅建設	－	－
第93①地点	73.93		－	個人住宅建設	盛土保存適用	－
第93②地点	106.17		令和2年11月16日～20日	個人住宅建設	発掘調査実施	未報告
第94地点	386.99	令和3年4月26・27日	令和3年6月10日～7月29日	共同住宅建設	(縄文)土坑2基・ピット4本(平安)土坑7基・ピット8本(中世以降)土坑28基・溝跡2本・ピット103本	No.94
第95地点	68.06	令和3年4月20日	－	物置及び車庫建設	盛土保存適用	－
第96地点	234.60	令和4年6月1日	－	分譲住宅建設	－	－
第96①地点	126.32		－	分譲住宅建設	盛土保存適用	－
第96②地点	108.27		－	分譲住宅建設	盛土保存適用	－
第97地点	316.91	令和5年2月2・3日	令和5年4月3日～5月18日	共同住宅建設	(縄文)土坑1基・ピット3本(平安)土坑1基(中世以降)段切状遺構・土坑5基・ピット86本・畝状遺構30本	本報告
第98地点	158.12	令和5年9月11日	－	個人住宅建設	盛土保存適用	－
第99地点	638.00	令和5年6月20～22日	－	月極駐車場設置工事	盛土保存適用	－
第100地点	54.47	－	－	ガソリンスタンド屋根増築工事	工事立会	－
第101地点	2,533.15	令和5年11月13～16日		分譲住宅建設及び道路新設工事	保存協議中	
第102地点	105.21	令和6年1月17日		個人住宅建設	保存協議中	

第２表　中道遺跡調査一覧（3）

№	報告書名（所収遺跡地点名）	刊行年	シリーズ名	発　行　者	編　著　者
1	西原・大塚遺跡発掘調査報告	1975	志木市の文化財４集	志木市教育委員会	井上國夫・落合静男 谷井　彪・宮野和明
2	西原大塚遺跡第３地点　中野遺跡第２地点 発掘調査報告書	1985	志木市遺跡調査会調査報告第１集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・尾形則敏
3	新邸遺跡発掘調査報告書	1986	志木市遺跡調査会調査報告第２集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・尾形則敏
4	新邸遺跡第２地点　西原大塚遺跡第４地点 発掘調査報告書	1987	志木市遺跡調査会調査報告第３集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・尾形則敏
5	城山遺跡発掘調査報告書	1988	志木市遺跡調査会調査報告第４集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・尾形則敏 神山健吉
6	中道遺跡発掘調査報告書 （中道遺跡第２地点）	1988	志木市遺跡調査会調査報告第５集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・尾形則敏
7	城山遺跡長勝院地点発掘調査報告書 （城山遺跡第３地点）	1987	志木市の文化財11集	志木市教育委員会 志木市遺跡調査会 志木ロータリークラブ	佐々木保俊
8	志木市遺跡群Ⅰ （城山遺跡第４地点　中野遺跡第６地点　中道遺跡第６地点　西原大塚遺跡第６地点）	1989	志木市の文化財13集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏
9	志木市遺跡群Ⅱ （西原大塚遺跡第８地点　田子山遺跡第１地点 西原大塚遺跡第９地点　西原大塚遺跡第10地点　中野遺跡第９地点）	1990	志木市の文化財14集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏
10	西原大塚遺跡第７地点　新邸遺跡第３地点 中野遺跡第７地点　中野遺跡第８地点　城山遺跡第６地点　発掘調査報告書	1991	志木市の文化財15集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏
11	志木市遺跡群Ⅲ （西原大塚遺跡第11地点　城山遺跡第７･９地点）	1991	志木市の文化財16集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏
12	志木市遺跡群Ⅳ （城山遺跡第11地点　中野遺跡第12地点　田子山遺跡第６･７地点）	1992	志木市の文化財17集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏
13	中道遺跡第12地点　中道遺跡第13地点　田子山遺跡第４地点　田子山遺跡第５地点　発掘調査報告書	1992	志木市の文化財18集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏
14	志木市遺跡群Ⅴ （市場裏遺跡第３地点　中野遺跡第18地点）	1993	志木市の文化財20集	志木市教育委員会	尾形則敏
15	志木市遺跡群Ⅵ （中野遺跡第31地点　田子山遺跡第29地点 城山遺跡第20地点）	1995	志木市の文化財21集	志木市教育委員会	尾形則敏
16	志木市遺跡群Ⅶ （西原大塚遺跡第32地点　中道遺跡第33地点 城山遺跡第25地点　田子山遺跡第32地点 田子山遺跡第37地点）	1996	志木市の文化財23集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏 深井恵子
17	城山遺跡第12地点　城山遺跡第13地点　西原大塚遺跡第14地点　中野遺跡第11地点 中野遺跡第16地点　市場裏遺跡第１地点　田子山遺跡第10地点　中道遺跡第21地点　田子山遺跡第13地点　西原大塚遺跡第21地点 市場裏遺跡第２地点　中道遺跡第26地点　発掘調査報告書	1996	志木市の文化財24集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏
18	志木市遺跡群Ⅷ （城山遺跡第29地点　城山遺跡第32地点　田子山遺跡第39地点　田子山遺跡第41地点 田子山遺跡第42地点　中道遺跡第36地点 中道遺跡第37地点　西原大塚遺跡第34地点 中野遺跡第41地点）	1997	志木市の文化財25集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏
19	西原大塚の遺跡　西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査概報	1998	－	志木市遺跡調査会 西原特定土地区画整理組合	佐々木保俊
20	志木市遺跡群9 （中野遺跡第43地点　富士前遺跡第15地点 田子山遺跡第47地点　田子山遺跡第48地点 田子山遺跡第49地点　中道遺跡第41地点 城山遺跡第34地点　城山遺跡第35地点　西原大塚遺跡第36地点）	1999	志木市の文化財27集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子
21	志木市遺跡群10 （西原大塚遺跡第37地点　西原大塚遺跡第39地点　中道遺跡第44地点）	2000	志木市の文化財28集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子
22	埋蔵文化財調査報告書Ⅰ （田子山遺跡第19地点　田子山遺跡第21地点 田子山遺跡第25地点　中道遺跡第27地点 大原遺跡第１地点）	2000	志木市の文化財29集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子

第３表　志木市の発掘調査報告書一覧（１）

№	報告書名（所収遺跡地点名）	刊行年	シリーズ名	発　行　者	編　著　者
23	西原大塚遺跡第45地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2000	志木市遺跡調査会調査報告第6集	志木市遺跡調査会 小松フォークリフト㈱	佐々木保俊・内野美津江 宮川幸佳・上田　寛
24	志木市遺跡群11 (中野遺跡第50地点　西原大塚遺跡第43地点)	2001	志木市の文化財第30集	志木市教育委員会	尾形則敏・佐々木保俊 内野美津江
25	埋蔵文化財調査報告書2 (中野遺跡第25地点)	2001	志木市の文化財第31集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子
26	志木市遺跡群12 (田子山遺跡第69地点　西原大塚遺跡第47地点)	2002	志木市の文化財第32集	志木市教育委員会	尾形則敏・佐々木保俊 深井恵子
27	埋蔵文化財調査報告書3 (城山遺跡第15地点　城山遺跡第16地点)	2002	志木市の文化財第34集	志木市教育委員会	尾形則敏・佐々木保俊 深井恵子・佐々木　潤
28	志木市遺跡群13 (田子山遺跡第78地点　西原大塚遺跡第54地点)	2003	志木市の文化財第35集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子
29	中野遺跡第49地点－東京電力志木変電所の埋蔵文化財発掘調査報告－	2004	志木市遺跡調査会調査報告第7集	志木市遺跡調査会	尾形則敏・深井恵子 青木　修
30	志木市遺跡群14 (田子山遺跡第81地点　西原大塚遺跡第65地点)	2004	志木市の文化財第36集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子 青木　修
31	西原大塚遺跡第111地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2005	志木市遺跡調査会調査報告第8集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・内野美津江 宮川幸佳
32	西原大塚遺跡第110地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2005	志木市遺跡調査会調査報告第9集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・内野美津江 宮川幸佳
33	城山遺跡第42地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2005	志木市遺跡調査会調査報告第10集	志木市遺跡調査会	尾形則敏・深井恵子 青木　修
34	志木市遺跡群15 (西原大塚遺跡第67地点)	2006	志木市の文化財第37集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子
35	新邸遺跡第8地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2007	志木市遺跡調査会調査報告第11集	志木市遺跡調査会	尾形則敏・深井恵子 青木　修
36	中道遺跡第65地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2007	志木市遺跡調査会調査報告第12集	志木市遺跡調査会	尾形則敏・藤波啓容 青柳美雪
37	西原大塚遺跡Ⅰ～Ⅲ　西原特定土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2009	志木市遺跡調査会調査報告第13集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・内野美津江 宮川幸佳
38	志木市遺跡群16 (城山遺跡第46地点　城山遺跡第55地点)	2008	志木市の文化財第38集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子 青木　修
39	西原大塚遺跡第138地点　西原大塚遺跡第154地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2008	志木市遺跡調査会調査報告第14集	志木市遺跡調査会	尾形則敏・深井恵子 青木　修
40	西原大塚遺跡第120地点　西原大塚遺跡第131地点　田子山遺跡第97地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2008	志木市遺跡調査会調査報告第15集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・内野美津江 宮川幸佳
41	志木市遺跡群17 (城山遺跡第49地点　城山遺跡第57地点　西原大塚遺跡第113地点　西原大塚遺跡第124地点)	2008	志木市の文化財第39集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子 青木　修
42	城山遺跡第61地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2008	志木市遺跡調査会調査報告第16集	志木市遺跡調査会	尾形則敏・深井恵子 青木　修
43	城山遺跡第58・60地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2008	志木市遺跡調査会調査報告第17集	志木市遺跡調査会	尾形則敏・藤波啓容 鈴木　徹・中村真理
44	埋蔵文化財調査報告書4 (城山遺跡第18地点　城山遺跡第19地点　城山遺跡第21地点　城山遺跡第22地点)	2009	志木市の文化財第40集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子 青木　修
45	志木市遺跡群18 (田子山遺跡第93地点　田子山遺跡第96地点　西原大塚遺跡第137地点　西原大塚遺跡第155地点)	2009	志木市の文化財第41集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子 青木　修
46	西原大塚遺跡第108地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2009	志木市の文化財第42集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏 坂上直嗣・青池紀子 高瀬克範・鈴木伸哉 能城修一
47	中野遺跡第71地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2010	志木市の文化財第43集	志木市教育委員会	佐々木保俊・内野美津江
48	市場裏遺跡第13地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2011	志木市の文化財第44集	志木市教育委員会	徳留彰紀・尾形則敏 青木　修
49	志木市遺跡群19 (城山遺跡第59地点)	2011	志木市の文化財第45集	志木市教育委員会	尾形則敏・徳留彰紀 深井恵子・青木　修
50	城山遺跡第63地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2011	志木市の文化財第46集	志木市教育委員会	尾形則敏・徳留彰紀 坂上直嗣・青池紀子 鈴木伸哉

第3表　志木市の発掘調査報告書一覧（2）

№	報告書名（所収遺跡地点名）	刊行年	シリーズ名	発　行　者	編　著　者
51	西原大塚遺跡第169地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2012	志木市の文化財第47集	志木市教育委員会	徳留彰紀・尾形則敏
52	城山遺跡第62地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2012	志木市の文化財第48集	志木市教育委員会	尾形則敏・徳留彰紀 深井恵子・青木　修
53	城山遺跡第72地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2012	志木市の文化財第49集	志木市教育委員会	尾形則敏・徳留彰紀 村上孝司・青沼紀子 矢作健二・石附賀武
54	田子山遺跡第121地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2012	志木市の文化財第50集	志木市教育委員会	徳留彰紀・尾形則敏 藤波啓容
55	志木市遺跡群20 (田子山遺跡第107地点　新邸遺跡第10地点 西原大塚遺跡第159地点)	2013	志木市の文化財第51集	志木市教育委員会	尾形則敏・徳留彰紀 深井恵子・青木　修
56	城山遺跡第76地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2013	志木市の文化財第52集	志木市教育委員会	尾形則敏・大久保聡 白崎智隆
57	城山遺跡第64地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2013	志木市の文化財第53集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子 青木　修
58	城山遺跡第71地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2013	志木市の文化財第54集	志木市教育委員会	尾形則敏・大久保聡 中山哲也・二階秀幸 稲村太郎・加藤夏姫
59	西原大塚遺跡第174①地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2013	志木市の文化財第55集	志木市教育委員会	尾形則敏・徳留彰紀 藤波啓容・松木綾子
60	西原大塚遺跡第179地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2014	志木市の文化財第56集	志木市教育委員会	尾形則敏・大久保聡 二階秀幸・本山直子
61	中野遺跡第78地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2014	志木市の文化財第57集	志木市教育委員会	大久保聡・尾形則敏 青木　修
62	志木市遺跡群21 (城山遺跡第62①～⑪地点　西原大塚遺跡第165地点　西原大塚遺跡第166地点　西原大塚遺跡第171地点)	2014	志木市の文化財第58集	志木市教育委員会	尾形則敏・大久保聡 深井恵子・青木　修
63	埋蔵文化財調査報告書5 (城山遺跡第26地点)	2014	志木市の文化財第59集	志木市教育委員会	尾形則敏・徳留彰紀 深井恵子・青木　修
64	城山遺跡第82地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2014	志木市の文化財第60集	志木市教育委員会	尾形則敏・大久保聡 宮下孝優
65	田子山遺跡第131地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2015	志木市の文化財第61集	志木市教育委員会	尾形則敏・徳留彰紀 宮下孝優
66	富士前遺跡第23地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2015	志木市の文化財第62集	志木市教育委員会	尾形則敏・徳留彰紀 清水理史・川田馨秋 鎌田　翔
67	埋蔵文化財調査報告書6 (城山遺跡第27地点　城山遺跡第28地点　中道遺跡第56地点)	2015	志木市の文化財第63集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子 青木　修
68	志木市遺跡群22 (西原大塚遺跡第172①～④地点)	2015	志木市の文化財第64集	志木市教育委員会	徳留彰紀・尾形則敏 深井恵子
69	田子山遺跡第132①地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2016	志木市の文化財第65集	志木市教育委員会	尾形則敏・徳留彰紀 深井恵子
70	埋蔵文化財調査報告書7 (中道遺跡第38地点　中道遺跡第39地点)	2016	志木市の文化財第66集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子 青木　修
71	中野遺跡第91地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2017	志木市の文化財第67集	志木市教育委員会	尾形則敏・徳留彰紀 宅間清公・田中浩江 石崎岳彦
72	市場裏遺跡第23地点　城山遺跡第87地点 西原大塚遺跡第207地点　中野遺跡第95地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2017	志木市の文化財第68集	志木市教育委員会	徳留彰紀・尾形則敏 青木　修
73	中道遺跡第76地点　城山遺跡第91①地点 西原大塚遺跡第211地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2018	志木市の文化財第69集	志木市教育委員会	尾形則敏・大久保聡 深井恵子・青木　修
74	志木市遺跡群23 (西原大塚遺跡第180地点　西原大塚遺跡第182地点　西原大塚遺跡第183地点　西原大塚遺跡第184地点)	2018	志木市の文化財第70集	志木市教育委員会	大久保聡・尾形則敏 深井恵子
75	埋蔵文化財調査報告書8 (田子山遺跡第51地点　中野遺跡第55地点 中野遺跡第57地点)	2018	志木市の文化財第71集	志木市教育委員会	尾形則敏・大久保聡 深井恵子
76	西原大塚遺跡第213地点　中野遺跡第102地点　中野遺跡第104地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2019	志木市の文化財第72集	志木市教育委員会	尾形則敏・大久保聡 深井恵子・青木　修
77	中道遺跡第87地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2020	志木市の文化財第73集	志木市教育委員会	尾形則敏・大久保聡 林　邦雄

第３表　志木市の発掘調査報告書一覧（３）

№	報告書名（所収遺跡地点名）	刊行年	シリーズ名	発　行　者	編　著　者
78	西原大塚遺跡第224地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2020	志木市の文化財第74集	志木市教育委員会	尾形則敏・大久保聡 成島一成・西川忠春
79	西原大塚遺跡第220地点　西原大塚遺跡第222地点　西原大塚遺跡第227地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2020	志木市の文化財第75集	志木市教育委員会	大久保聡・尾形則敏
80	西原大塚遺跡第216地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2020	志木市の文化財第76集	志木市教育委員会	尾形則敏・大久保聡 青木　修
81	田子山遺跡第160地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2020	志木市の文化財第77集	志木市教育委員会	尾形則敏・大久保聡 石川安司・小林陽子 清水理史
82	城山遺跡第96地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2021	志木市の文化財第78集	志木市教育委員会	尾形則敏・大久保聡 徳留彰紀・遠竹陽一郎 坂下貴則・宅間清公
83	西原大塚遺跡第228地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2021	志木市の文化財第79集	志木市教育委員会	尾形則敏・徳留彰紀 大久保聡・宅間清公 小森晴生
84	西原大塚遺跡第231地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2021	志木市の文化財第80集	志木市教育委員会	大久保聡・尾形則敏
85	志木市遺跡群24 （市場奥遺跡第21地点　西原大塚遺跡第199地点　城山遺跡第79地点）	2021	志木市の文化財第81集	志木市教育委員会	大久保聡・尾形則敏 徳留彰紀
86	中野遺跡第109地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2021	志木市の文化財第82集	志木市教育委員会	尾形則敏・徳留彰紀 大久保聡・市川康弘 梶ケ山真理・植月　学
87	西原大塚遺跡第223地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2021	志木市の文化財第83集	志木市教育委員会	尾形則敏・徳留彰紀 大久保聡・坂下卓則 遠藤知成・小森晴生
88	城山遺跡第99地点　中野遺跡第114地点 中道遺跡第92地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2022	志木市の文化財第84集	志木市教育委員会	尾形則敏・大久保聡
89	志木市遺跡群25 （西原大塚遺跡第174②～⑤地点）	2022	志木市の文化財第85集	志木市教育委員会	徳留彰紀・尾形則敏 大久保聡・木村結香
90	西原大塚遺跡第234地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2022	志木市の文化財第86集	志木市教育委員会	尾形則敏・徳留彰紀 大久保聡・小林陽子 福泉　藍・石川安司
91	中野遺跡第116地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2022	志木市の文化財第87集	志木市教育委員会	尾形則敏・徳留彰紀 大久保聡・木村結香 石川安司・小林陽子
92	中野遺跡第117地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2022	志木市の文化財第88集	志木市教育委員会	尾形則敏・徳留彰紀 大久保聡・木村結香 小林陽子・清水理史
93	西原大塚遺跡第235地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2023	志木市の文化財第89集	志木市教育委員会	徳留彰紀・大久保聡 尾形則敏・木村結香 市川康弘
94	中野遺跡第121地点　中野遺跡第123地点 中道遺跡第94地点　田子山遺跡第172地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2023	志木市の文化財第90集	志木市教育委員会	木村結香・大久保聡 徳留彰紀・尾形則敏
95	埋蔵文化財調査報告書9 （西原大塚遺跡第70地点）	2023	志木市の文化財第91集	志木市教育委員会	尾形則敏・徳留彰紀 大久保聡・深井恵子
96	志木市遺跡群26 （中野遺跡第87地点　中道遺跡第74地点　田子山遺跡第129地点）	2023	志木市の文化財第92集	志木市教育委員会	大久保聡・徳留彰紀 尾形則敏
97	城山遺跡第101地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2023	志木市の文化財第93集	志木市教育委員会	徳留彰紀・大久保聡 尾形則敏　木村結香 遠竹陽一郎・坂下貴則 遠藤知成
98	中野遺跡第122地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2023	志木市の文化財第94集	志木市教育委員会	大久保聡・尾形則敏 木村結香 原野真祐・石橋佳奈 黒沼保子・伊藤　茂 加藤和浩　廣田正史 佐藤正教・山形秀樹 Zaur Lomtatidze 辰巳晃司・佐伯史子 奈良貴史
99	埋蔵文化財調査報告書10 （西原大塚遺跡第72地点）	2023	志木市の文化財第95集	志木市教育委員会	大久保聡・尾形則敏 深井恵子

第3表　志木市の発掘調査報告書一覧（4）

ことから、発掘調査を実施することに決定した。

２月27日には、志木市埋蔵文化財保存事業受託要綱の規定により、工事主体者から志木市埋蔵文化財保存事業委託申請書が提出された。

３月27日、教育委員会は、志木市埋蔵文化財保存事業受託要綱第２条第２項に基づき、工事主体者及び工事施工者と発掘調査実施に向けた事前協議を実施した。

同日、志木市と工事主体者の間で志木市埋蔵文化財保存事業に係る協議書が取り交わされ、４月３日に委託契約を締結した。

教育委員会は、３月31日付けで埋蔵文化財発掘の届出及び発掘調査通知を埼玉県教育委員会に提出し、４月３日から発掘調査を実施した。

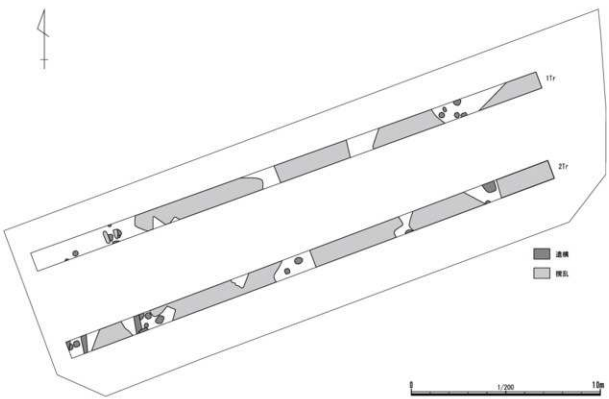
（２）発掘調査の経過

ここでは、発掘調査の経過について説明し、各遺構の精査経過については、第４表の発掘調査工程表にも示した。

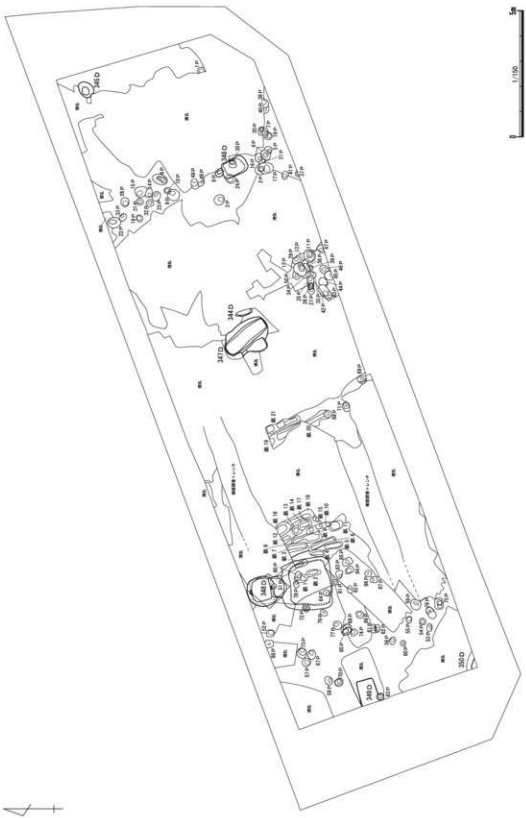
４月３日　発掘調査を開始する。残土置場の都合上、調査区を東西で二分割し、東半分を前半の調査区とした。重機（バックホー）による表土剥ぎ作業を開始する。併せて、調査地周辺の整備も行い、残土置場は調査区外の西側で処理した。

４日　引き続き表土剥ぎ作業を行う。

５日　表土剥ぎ作業を完了する。本日から人員導入をし、調査器材の搬入、調査区の整備を行う。遺構の検出作業も行う。調査区内の大半が攪乱されていたが、第４図のように、縄文時代の土坑、中世以降の土坑などを確認した。



第３図　確認調査時の遺構分布（1／200）



第４図　遺構分布図（1／150）

６日　縄文時代の土坑（345 D）、中世以降の土坑（344 D）・ピット（１～３Ｐ）の精査を開始する。基準点移動を実施する。

７日　中世以降のピット（４～13 Ｐ）の精査を開始する。

10日　縄文時代のピット（19 Ｐ）、中世以降の土坑（346 D）・ピット（14～18・20～23 Ｐ）の精査を開始する。346 Dから人骨が出土することを確認した。

11日　引き続き346 Dの精査を行う。北側に頭骨、南側に大腿骨が位置し、北頭位であることを確認した。セクションベルトの写真撮影を行う。中世以降のピット（24～28 Ｐ）の精査を開始する。

12日　346 Dのセクションの実測図作成を行い、引き続き人骨の検出作業を行う。平安時代の土坑（347 D）の精査を開始した結果、想定より深いことが判明した。中世以降のピット（29～33 Ｐ）の精査を開始する。調査区の中央北壁沿いに基本層序を確認するためのTP１を設定し、ロームの掘削を開始する。

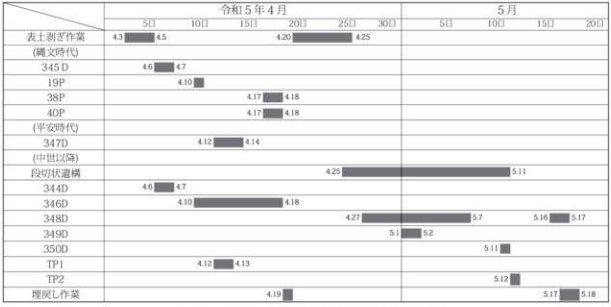
13日　347 Dは遺構検出面から底面まで約1.8ｍを測ることを確認した。セクションの写真撮影、実測図作成を行う。中世以降のピット（34～36 Ｐ）の精査を開始する。TP１のセクション写真撮影、実測図作成を行う。

14日　346 Dの人骨の検出状態の写真撮影及び取り上げ作業を行う。歯の出土状態から、顔面は西側を向いていることが判明した。347 Dの完掘状況の写真撮影を行う。底面に硬化面・貼床土があることを確認した。中世以降のピット（37 Ｐ）の精査を開始する。

17日　縄文時代のピット（38・40 Ｐ）、中世以降のピット（39・41～46 Ｐ）の精査を開始する。

18日　346 Dの完掘状況の写真撮影を行う。中世以降のピット（47～50 Ｐ）の精査を開始する。前半の調査区全体の遺構完掘状況の写真撮影を行い、本日で前半の調査を完了する。

19日　重機による前半の調査区の埋め戻し作業を行う。



第４表　中道遺跡第97地点の発掘調査工程表

20日　重機による、後半の調査区の表土剥ぎ作業を開始する。残土置場は調査区外の東側で処理した。

21日　引き続き表土剥ぎ作業を行う。

25日　表土剥ぎ作業を完了する。本日から再び人員を導入し、調査区の整備・遺構の検出作業を行う。調査区内の半分ほどが攪乱されていたが、段切状遺構や土坑・ピットが存在するのを確認した。段切状遺構にセクションベルトを設定し、覆土の掘削を開始する。

27日　中世以降の土坑（348 D）・ピット（51～59 P）の精査を開始する。348 Dは地下式坑であることが判明し、主体部が南方向へ延びることを確認した。安全面の観点から、竪坑部の覆土の半裁掘削は、遺構検出面から約1.2ｍまでに留めた。セクションの写真撮影を行う。

28日　348 D竪坑部のセクションの実測図作成を行う。覆土の掘り下げ時に牛の歯３本分を検出した。中世以降のピット（60～62 P）の精査を開始する。

5月1日　348 D竪坑部の完掘状況の写真撮影を行う。中世以降の土坑（349 D）・ピット（63・64 P）の精査を開始する。

2日　349 Dの完掘状況の写真撮影を行う。中世以降のピット（65～70 P）の精査を開始する。

9日　段切状遺構のセクションベルトの写真撮影を行う。中世以降のピット（71～77 P）の精査を開始する。

10日　段切状遺構のセクションベルトの実測図作成を行う。中世以降のピット（78～89 P）の精査を開始、完了する。後半の調査区全体の遺構完掘状況の写真撮影を行う。

11日　段切状遺構の記録作業を終える。中世以降の土坑（350 D）の精査を開始、完了する。

12日　調査区の西端に基本層序を確認するためのTP２を設定し、ロームの掘削をし、セクションの写真撮影、実測図作成を行う。

16日　348 Dの精査を再開する。重機を用いて主体部の天井付近のロームの掘削を行う。併せて、人力による覆土の掘削を行う。完掘状況の写真撮影、エレベーション図作成を行う。

17日　348 Dの平面図作成を行う。本日で後半の調査を完了する。重機による埋め戻し作業、調査器材の搬出を行う。

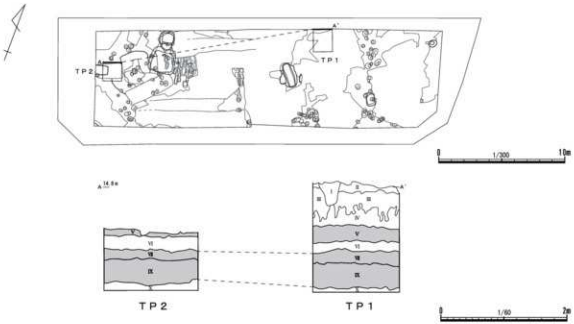
18日　引き続き重機による埋め戻し作業を行い、本日で発掘作業を終了する。

（３）基本層序

本地点の基本層序の確認及び自然地形を確認するため、テストピット（以下、TP）を調査区前半・後半でそれぞれ一か所（前半調査区：TP１、後半調査区：TP２）を設定し、深掘りを行い、土層の記録を行った（第５図）。TP１では第Ⅰ～Ⅹ層を確認した。TP２では第Ⅴ～Ⅹ層を確認した。本地点で確認された第Ⅲ～Ⅹ層は、立川ローム第Ⅲ～Ⅹ層と対応する。TP１・TP２ともに第Ⅶ層・第Ⅸ層の中間層である第Ⅷ層は確認されなかった。

第Ⅰ層：表土及び攪乱。

第Ⅱ層：暗褐色土。赤色・黒色スコリア、白色粒子を僅かに含む。いわゆる黒ボク土とローム層との中間の漸移層である。後世に削平されている可能性も考えられるが、現況の層厚は10～20



第５図　基本層序（１／300・１／60）

㎝程度である。TP２には残存しない。

第Ⅲ層：明褐色土。赤色・黒色スコリアを僅かに含む。いわゆるソフトロームである。層厚は40㎝程度である。第Ⅲ層と第Ⅳ層の境界にインボリューションがみられる。TP２には残存しない。

第Ⅳ層：明褐色土。赤色・黒色スコリアを多く含む。いわゆるハードロームである。層厚は30㎝程度である。TP２には残存しない。

第Ⅴ層：褐色土。赤色・黒色スコリアを含み、白色粒子を僅かに含む。いわゆる第一黒色帯である。TP１での層厚は20㎝程度である。TP２での本層の上位は削平を受けていると考えられる。

第Ⅵ層：明褐色土。赤色スコリアを僅かに含み、黒色スコリアをやや多く含む。白色粒子を含む。いわゆるAT包含層準である。層厚は15～20㎝程度である。

第Ⅶ層：褐色土。赤色スコリアを含み、黒色スコリアを多く含む。白色粒子を僅かに含む。いわゆる第二黒色帯上部である。層厚は15～20㎝程度である。

第Ⅸ層：褐色土。赤色スコリアを多く含み、黒色スコリアを含む。いわゆる第二黒色帯下部である。層厚は40㎝程度である。

第Ⅹ層：黄褐色土。赤色・黒色スコリアを僅かに含む。層厚は、掘削深度が本層上位までのため不明。

以上、それぞれのTPにおいて確認できなかった層もあるが、本地点での基本層序は武蔵野台地で確認される立川ローム層の標準的な層序といえる。

本地点は、柳瀬川右岸に位置しており、台地縁辺部にあたる。TP１・TP２における基本層序の深度を比較すると、第Ⅵ層と第Ⅶ層の境目の傾斜角が１°、第Ⅸ層と第Ⅹ層の境目の傾斜角が３°程度で、自然地形は概ね平坦地であったことが判明した。

そして、TP２で第Ⅱ～Ⅳ層が確認されなかったこと、後述するように本地点で段切状遺構が検出されたことを踏まえると、本地点では中世以降の地形の人工改変、いわゆる段切造成が行われていたと考えられ、平場形成のためTP２周辺では第Ⅴ層上位まで削平されたと考えられる。

第３節　縄文時代の遺構

（1）概　要

縄文時代の遺構として、土坑１基（345Ｄ）、ピット３本（19・38・40Ｐ）が検出された。

（2）土　坑

345号土坑

遺　構（第６図）

［位　置］調査区北東端。

［検出状況］撹乱を受ける。

［構　造］**平面形：**楕円形。**規模：**現況長軸0.67m／現況短軸0.53m／深さ27㎝。**壁：**約60°の角度で立ち上がる。**長軸方位：**Ｎ－31°－Ｅ。

［覆　土］２層に分層された。しまりの強い暗褐色土を主体とする。

［遺　物］出土しなかった。

［時　期］覆土の観察から縄文時代と判断した。

（3）ピット

19号ピット

遺　構（第６図）

［位　置］調査区南東端。

［検出状況］７Ｐに切られる。

［構　造］**平面形：**楕円形か。**規模：**長軸30㎝／現況短軸18㎝／深さ27㎝。

［覆　土］２層に分層された。しまりの強い暗褐色・暗黄褐色土を主体とする。

［遺　物］出土しなかった。

［時　期］覆土の観察から縄文時代と判断した。

第６図　縄文時代の遺構（1／60）

38号ピット

遺　構（第６図）

［位　　置］調査区南東端。

［検出状況］40 P を切る。撹乱を受ける。

［構　　造］**平面形：**楕円形か。**規模：**長軸36㎝／現況短軸20㎝／深さ43㎝。

［覆　　土］３層に分層された。しまりの強い暗褐色土を主体とする。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から縄文時代と判断した。

40号ピット

遺　構（第６図）

［位　　置］調査区南東端。

［検出状況］38 P に切られる。撹乱を受ける。

［構　　造］**平面形：**楕円形か。**規模：**現況長軸22㎝／現況短軸19㎝／深さ33㎝。

［覆　　土］２層に分層された。しまりの強い暗褐色土を主体とする。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から縄文時代と判断した。

第４節　平安時代の遺構

（１）概　要

平安時代の遺構として、土坑１基（347 D）が検出された。

（２）土　坑

347号土坑

遺　構（第７図）

［位　　置］調査区中央。

［検出状況］撹乱を受ける。

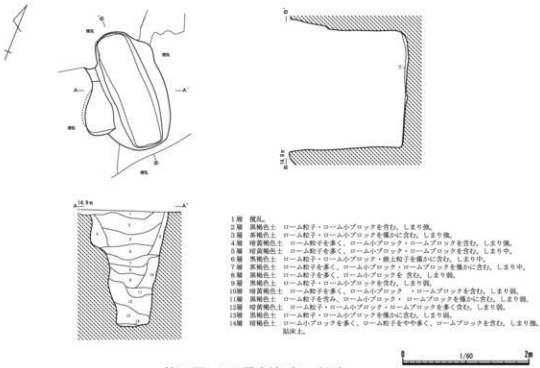
［構　　造］**平面形：**隅丸長方形。底面は平坦である。**規模：**現況長軸1.95m／現況短軸1.05m／深さ1.84m。**断面形：**長軸方向の壁はほぼ垂直に立ち上がる。短軸方向の壁はオーバーハングする箇所もあるが、65～70°で立ち上がる。**長軸方位：**N－28°－W。

［覆　　土］13層（２～14層）に分層された。黒褐色土を主体とする。底面直上には貼床土と考えられる、しまりの強い暗褐色土（14層）が５㎝程堆積する。また、貼床土上面には硬化面が観察された。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察及び類例から平安時代と推測される。

［所　　見］本遺構に類似するものとして、市内では城山遺跡第62地点の636号土坑（尾形・德留・深井・青木　2012）、中道遺跡第44地点の136号土坑（尾形・深井　2000a）、田子山遺跡第81地点の



第７図　347号土坑（１／60）

212号土坑（尾形・深井・青木　2004a）が挙げられる。これらは隅丸長方形で、長軸1.65～2.50m・短軸0.82～1.23m・深さ1.75～2.00mと近似する。城山遺跡の636号土坑は平安時代の住居跡（235H）の貼床下から検出され、田子山遺跡の212号土坑も平安時代の住居跡（65H）に切られていることから、本遺構も平安時代を遡る可能性が高い遺構として判断した。

第５節　中世以降の遺構・遺物

（1）概　要

中世以降の遺構として、段切状遺構１か所、土坑５基（344・346・348～350Ｄ）、ピット86本（１～18・20～37・39・41～89Ｐ）が検出された。

本地点は、調査区中央付近から西端にかけて緩やかに傾斜が低くなり、約8.0mの距離で標高差約60cmの平場面が調査区西半部で形成される。平場面において基本層序を確認するために掘削したTP２では、立川ローム第Ⅲ～Ⅴ層上部まで削平されている状況が確認され、調査区中央以西は段切造成を受けていると考えられる。そして、全体的な段切造成面内で特に面的に深く掘削されている箇所を段切状遺構として捉えることとした。

また、346Ｄからは人骨が出土したことから土坑墓として判断し、348・350Ｄは遺構の形態から地下式坑として扱った。

そして、耕作による畝跡については、通常であれば攪乱扱いとするが、今回は検出状況及び近隣の中道遺跡第92地点の成果を踏まえ（尾形・大久保　2022）、本地点周辺において段切造成後に構築された一連の畝状遺構として扱った。

なお、各遺構の時代設定は、遺物が出土した場合は、陶磁器・土器などの年代を中心に詳細年代を明示したが、それ以外は中世以降と表記した。

（２）段切状遺構

遺　　構（第８図）

［位　　置］調査区西半。

［構　　造］**遺構の広がり：**今回の調査では、調査区中央付近で西方向へ傾斜面が見られ、西半部で平場面が認められた。傾斜角は10°程度で、緩やかな傾斜である。**地形の標高：**段切状遺構の最も高い標高は、段切状遺構東端の14.5ｍであり、その東端から西方向へ約２ｍの間で緩やかに傾斜し、その以西で形成される平場面の標高は平均14.2mとなる。**掘り方：**調査区で検出した範囲の段切状遺構の中心部で確認された（第８図において青線で示した）。不整円形に掘り窪められている。

［覆　　土］12層に分層された。覆土の堆積過程としては、①79Ｐといった遺構が掘り込まれる段階が存在する。②段切状遺構が掘削され、茶褐色土を主体とする６～12層が段切状遺構の中心部に堆積する。６～12層はローム粒子・ブロックを多く含み、掘り方の範囲内で確認されたことから、段切状遺構の平場面の貼床土と考えられる。③その後、黒褐色土を主体とする１～５層が堆積し、④畝状遺構が掘り込まれる。

［遺　　物］陶器・土器・板碑が出土した。

［時　　期］出土遺物と覆土の観察から、中・近世（16～18世紀）と考えられる。

遺　　物（図版６－１、第６表）

［陶　　器］（図版６－１－１・２、第６表）

１は碗、２は擂鉢である。

［土　　器］（図版６－１－3、第６表）

３は焙烙である。

［石 製 品］（図版６－１－４）

４は板碑である。残存長9.0㎝、残存幅4.8㎝、厚さ1.2㎝である。文字等の彫り込みは見られない。緑泥片岩製。覆土中から出土した。

（３）土　坑

344号土坑

遺　　構（第９図）

［位　　置］調査区中央。

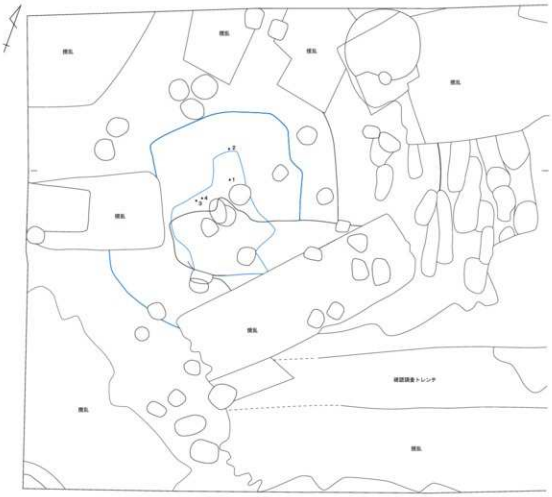
［検出状況］撹乱を受ける。

［構　　造］**平面形：**楕円形か。**規模：**現況長軸0.69ｍ／現況短軸0.21ｍ／深さ10㎝。**断面形：**55°の角度で立ち上がる。**長軸方位：**Ｎ－20°－Ｗ。

［覆　　土］黒褐色土の単層である。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から中世以降と考えられる。



1層　黒褐色土　ローム粒子を微かに含む。しまりや。
2層　黒褐色土　ローム粒子を多く、ロームブロックを含み、ロームブロックを微かに含む。しまりや。
3層　茶褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまりや。
4層　茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり強。
5層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。
6層　茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまりや。
7層　茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを微かに含む。しまりや。
8層　茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまりや。
9層　黒褐色土　ローム粒子・ロームブロックを含み、ローム小ブロックを微かに含む。しまりや。
10層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
11層　茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや。
12層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。

1/60　2m

第８図　段切状遺構（1／60）

346号土坑

遺　構（第10図）

［位　置］調査区東側。

［検出状況］８・30Ｐに切られ、24Ｐと重複する。撹乱を受ける。

［構　造］土坑墓である。**平面形：**隅丸長方形。**規模：**長軸1.05m／短軸0.67m／深さ38㎝。**断面形：**45～60°の角度で立ち上がる。**長軸方位：**Ｎ－20°－Ｗ。

［覆　土］６層に分層された。黒褐色土を主体とする。

［遺　物］人骨１体分が出土した。取り上げ時に１～25の番号を付した（第４章の第14表と対応）。頭骨・四肢の骨が確認でき、比較的残りが良い。頭骨は北側に位置し、顔面は西を向き、頭北面西の姿勢を取る。上腕骨（25）・橈骨（24）及び大腿骨（８・12）・脛骨（11）の位置関係から腕・下肢は折り畳まれて屈葬されていたものと考えられる。人骨の自然科学分析を行い、結果は第４章に記した。

［時　期］覆土の観察及び人骨の自然科学分析の結果から、中世（14～15世紀代）と考えられる。

348号土坑

遺　構（第10図）

［位　置］調査区西側北端。

［検出状況］51Ｐに切られる。撹乱を受ける。

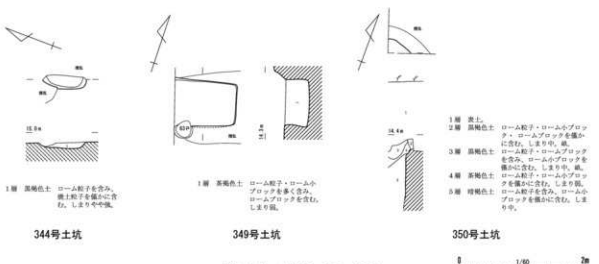
［構　造］地下式坑の形態をもつ。

［竪坑部］**平面形：**上部は円形で、下部は方形。北・東・南の壁面の１か所ずつに幅13～21㎝の足掛け穴が掘り込まれている。底面は平坦である。主体部への連絡は一段下がり、比高差は70㎝である。**規模：**長軸1.19m／短軸1.08m／深さ1.62m。**断面形：**オーバーハングしつつも90°の角度で立ち上がる。**長軸方位：**Ｎ－17°－Ｗ。

［主体部］**平面形：**方形。底面は平坦である。**規模：**長軸2.03m／短軸1.89m／推定高さ1.39m。**断面形：**80～90°の角度で立ち上がる。**長軸方位：**Ｎ－８°－Ｗ。

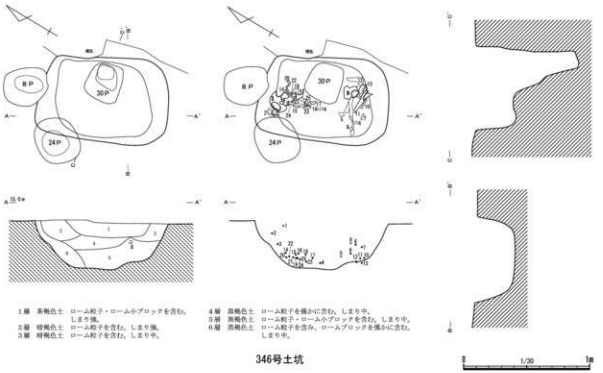
［覆　土］竪坑部は13層まで分層された。黒褐色・茶褐色土を主体とする。

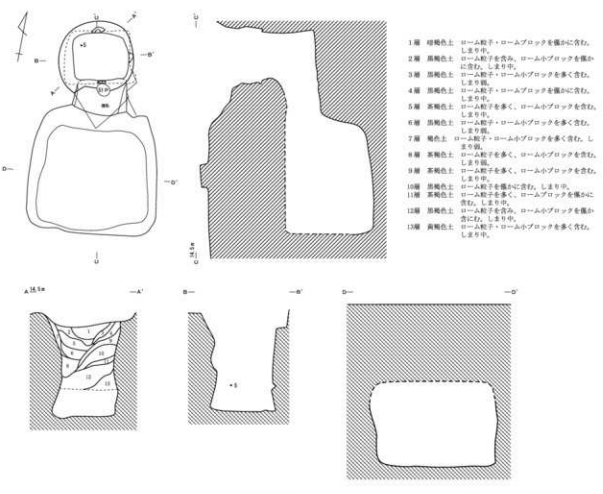
［遺　物］土器３点、石製品１点、牛の歯１点（３本分）が出土した。



344号土坑　349号土坑　350号土坑

第９図　土坑１（１／60）





第10図　土坑２（1／30・1／60）

［時　　期］出土遺物から中世（16世紀代）に埋没したと考えられる。

遺　　物（第16図、図版６－２、第６表）

［土　　器］（第16図１、図版６－２－１～３、第６表）

１は皿で、２・３は土鍋である。

［石 製 品］（第16図４、図版６－２－４）

４は砥石である。完形品で、正面に平坦な砥面がみられる。長さ20.3㎝、幅13.8㎝、厚さ17.1㎝、重量は3.32kgである。凝灰岩製である。

［そ の 他］（図版６－２－５）

５は牛の歯３本である。まとまって出土した。右上顎臼歯と考えられる。

349号土坑

遺　　構（第９図）

［位　　置］調査区西端。

［検出状況］東西方向に延び、西側の立ち上がりは調査区外にある。63Ｐに切られる。攪乱を受ける。

［構　　造］**平面形：**長方形。**規模：**現況長軸0.99m／現況短軸0.72m／深さ36㎝。**断面形：**90°の角度で立ち上がる。**長軸方位：**Ｎ－75°－Ｅ。

［覆　　土］単層である。ロームブロックを多く含む茶褐色土を主体とする。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から中世以降と考えられる。

350号土坑

遺　　構（第９図）

［位　　置］調査区南西端。

［検出状況］地下式坑の竪坑部の一部と考えられる。大半が調査区外である。

［構　　造］地下式坑の形態をもつと考えられる。

［竪 坑 部］**平面形：**円形か。**規模：**現況長軸0.22m／現況短軸0.36m／深さ1.13m以上。**断面形：**90°の角度で立ち上がる。

［主 体 部］不明。

［覆　　土］竪坑部は２層（４・５層）まで分層された。暗褐色土を主体とする。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から中世以降と考えられる。

（４）ピット（第11～14図）

中世以降のピットは、全部で86本（１～18・20～37・39・41～89Ｐ）である。時期は出土遺物、覆土の観察から判断した。

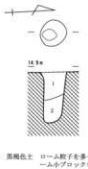
ここでは、66・67Ｐから出土した遺物の記述にとどめた。ピット基本内容については第５表に示した。

66Ｐからは、陶器の甕が出土した（図版６－３－１、第６表）。

67Ｐからは、陶器の擂鉢が出土した（図版６－３－１、第６表）。

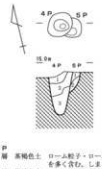
1層　暗褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり中。

1号ピット



1層　黒褐色土　ローム粒子を多く、ロームかブロックを僅かに含む。しまり中。
2層　暗褐色土　ローム粒子を含む。しまり強。

3号ピット



4P
1層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまり中。
2層　黒褐色土　ローム粒子を多く含む。しまり中。
3層　黒褐色土　ローム粒子を含む。しまり強。
5P
1層　暗褐色土　ローム粒子を含む。しまり中。
2層　暗黄褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまり強。

4・5号ピット

1層　暗褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまり強。
2層　暗褐色土　ローム粒子を含む。しまり強。
3層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
4層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
5層　黄褐色土　ローム粒子を多く含む。しまり強。
6層　黄褐色土　ローム粒子を多く含む。しまり強。

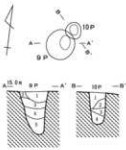
6号ピット

1層　黒褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり中。
2層　黒褐色土　ローム粒子を含む。しまり中。
3層　黒褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまり中。
4層　黒褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり強。

7号ピット

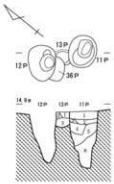
1層　黒褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまり強。
2層　暗褐色土　ローム粒子を多く含む。しまり強。
3層　暗褐色土　ローム粒子を含む。しまり中。
4層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまり強。

8号ピット



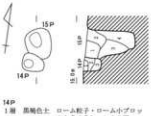
9P
1層　黒褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり強。
2層　暗褐色土　ローム粒子を含む。しまり強。
3層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまり強。
5層　暗褐色土　ローム粒子を含む。しまり強。
10P
1層　暗褐色土　ローム粒子を含む。しまり強。
2層　暗黄褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまり中。
3層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり強。
4層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまり強。

9・10号ピット



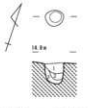
11P
1層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
2層　黒褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり中。
3層　黒褐色土　ローム粒子を多く含む。しまり強。
4層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
5層　黒褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり強。
6層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり強。
12P
1層　黒褐色土　ローム粒子を含む。しまり中。
2層　黒褐色土　ローム粒子を多く含む。しまり中。
3層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまり中。

11・12・13号ピット



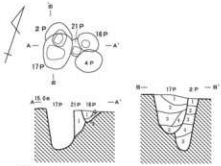
14P
1層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまり強。
2層　黒褐色土　ローム粒子を含む。しまり中。
3層　暗黄褐色土　ローム粒子を多く含む。しまり強。
15P
1層　黒褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり中。
2層　黒褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
3層　黒褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり強。
4層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまり強。

14・15号ピット



1層　黒褐色土　ローム粒子を含む。しまり中。
2層　黒褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり強。
3層　暗黄褐色土　ローム粒子を多く含む。しまり強。

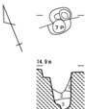
18号ピット



16P
1層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
2層　黒褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまり中。
3層　黒褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまり中。

2P
1層　灰黄褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまり強。
2層　黒褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまり中。
3層　黒褐色土　ローム粒子を含む。しまり強。
4層　黒褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまり強。
5層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまり強。
17P
1層　黒褐色土　ローム粒子を含む。しまり強。
2層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
3層　黒褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり強。
4層　黒褐色土　ローム粒子を含む。しまり中。
5層　黒褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまり強。
21P
1層　黒褐色土　ローム粒子を含む。しまり強。

2・16・17・21号ピット

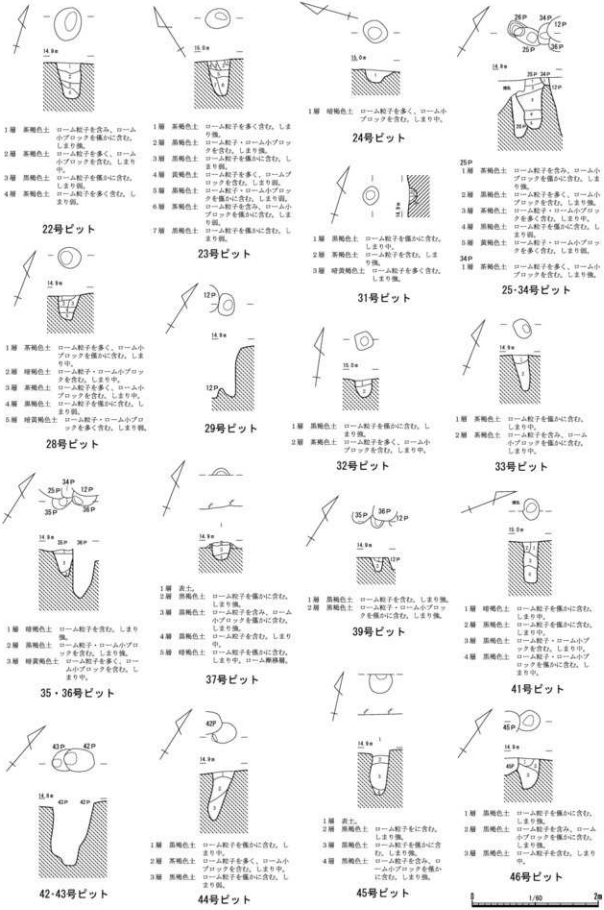


1層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり強。
2層　黒褐色土　ローム粒子を含む。しまり強。
3層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。

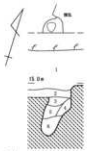
20号ピット

1/60

第11図　ピット１（１／60）

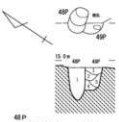


第12図　ピット2（1／60）



1層　表土。
2層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまりや。
3層　茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや。
4層　黒褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまりや。
5層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまりや。
6層　茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり弱。

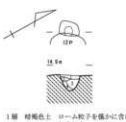
47号ピット



48P
1層　茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや。

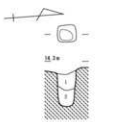
49P
1層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまりや。
2層　茶褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。
3層　黒褐色土　ローム粒子を含む。しまりや。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり弱。

48・49号ピット



1層　暗褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまりや。
2層　暗黄褐色土　ローム粒子を多く含む。しまりや。
3層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを含む。しまりや。
4層　暗褐色土　ローム粒子を含む。しまりや。

50号ピット

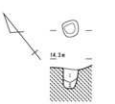


1層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや。
2層　暗黄褐色土　ローム小ブロック・ローム小ブロックを多く含む。しまり弱。

52号ピット

1層　黒褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまりや。
2層　暗黄褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり弱。

53号ピット

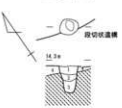


1層　黒褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまりや。
2層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ローム小ブロックを含む。しまり弱。

54号ピット

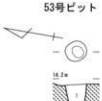
1層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまりや。
2層　黒褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり弱。

55号ピット



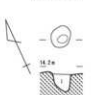
1層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや。
2層　黒褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまりや。
3層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ローム小ブロックを含む。しまり弱。
4層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや。
段切状遺構埋土。

56号ピット



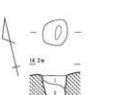
1層　茶褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。

57号ピット



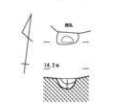
1層　茶褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまり弱。

58号ピット



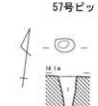
1層　茶褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまりや。
2層　黒褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまりや。
3層　暗黄褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまり弱。

59号ピット



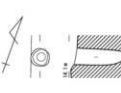
1層　黒褐色土　ローム小ブロック・ローム小ブロックを多く、ローム粒子を含む。しまり弱。
2層　黒褐色土　ローム粒子を含む。しまり弱。

61号ピット



1層　黒褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり弱。

62号ピット

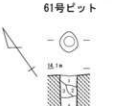


1層　茶褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ローム小ブロックを含む。しまり弱。

63号ピット

1層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり弱。

64号ピット

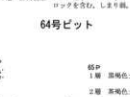


1層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまりや。
2層　茶褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり弱。
3層　茶褐色土　ローム粒子を含む。しまり弱。
4層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり弱。

66号ピット

1層　黒褐色土　ローム粒子、ローム小ブロック・ローム小ブロックを含む。しまり弱。
2層　黒褐色土　ローム粒子、ローム小ブロックを含む。しまり弱。
3層　暗黄褐色土　ローム粒子を多く含む。しまり弱。

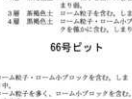
67号ピット



65P
1層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや。
2層　茶褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまりや。

68P
1層　黒褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまりや。
2層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまり弱。
3層　暗黄褐色土　ローム粒子を多く含む。しまり弱。
4層　黒褐色土　ローム小ブロックを含み、ローム粒子を僅かに含む。しまり弱。

65・68号ピット



第13図　ピット3（1／60）

1 層　黒褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり中。

69号ピット

1 層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。微。
2 層　黒褐色土　ローム粒子・ロームブロックを含む。しまりやや。
3 層　暗黄褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり弱。
4 層　黒褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり弱。
5 層　茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまり弱。段状状連構層上。

70号ピット

1 層　黒褐色土　ローム小ブロックを含み、ローム粒子を僅かに含む。しまり中。

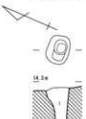
71号ピット

1 層　暗褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり弱。
2 層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり弱。

72号ピット

1 層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまり弱。

73号ピット

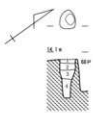


1 層　黒褐色土　ローム小ブロックを含み、ローム粒子を僅かに含む。しまり中。

75号ピット

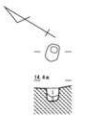
1 層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや。
2 層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまり弱。

76号ピット



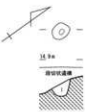
1 層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含むしまりやや。
2 層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり弱。
3 層　黒褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり弱。
4 層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり弱。

74号ピット



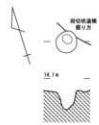
1 層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり弱。
2 層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまり弱。

78号ピット

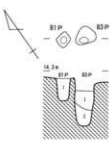


1 層　茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。

79号ピット



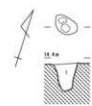
77号ピット



81P
1 層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりや。

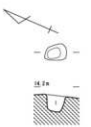
83P
1 層　黒褐色土　ローム小ブロックをやや多く、ローム粒子・ロームブロックを含む。しまりや。
2 層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまりや。

81・83号ピット



1 層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり弱。

80号ピット

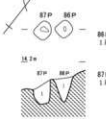


1 層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりや。

84号ピット

1 層　黒褐色土　ローム小ブロック・ロームブロックを多く、ローム粒子を含む。しまりや。

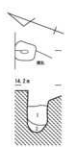
85号ピット



86P
1 層　黒褐色土　ローム小ブロックを多く、ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり弱。

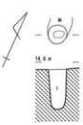
87P
1 層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりや。

86・87号ピット



1 層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまり弱。
2 層　黄褐色土　ローム小ブロックを多く含む。しまりや。

88号ピット



1 層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり弱。

89号ピット

第14図　ピット4（1／60）

遺構名	平面形	規模(cm)			覆土及び特徴	主な遺物及び備考	時　期
		長軸	短軸	深さ			
1 P	楕円形か	30	(19)	11	単層／撹乱を受ける	遺物なし	中世以降
2 P	隅丸方形か	(42)	(17)	84	5 層／17Pに切られ、撹乱を受ける	遺物なし	中世以降
3 P	楕円形	43	39	80	2 層／単独で検出	遺物なし	中世以降
4 P	楕円形	43	36	74	3 層／5Pを切り、16・21Pと重複	遺物なし	中世以降
5 P	楕円形か	31	(16)	42	2 層／4Pに切られる	遺物なし	中世以降
6 P	長楕円形	62	40	49	6 層／単独で検出	遺物なし	中世以降
7 P	隅丸方形か	37	(20)	53	4 層／19Pを切り、20Pと重複、撹乱を受ける	遺物なし	中世以降
8 P	楕円形か	36	(30)	54	4 層／346Dを切る、撹乱を受ける	遺物なし	中世以降
9 P	円形	50	47	72	5 層／10Pと重複	遺物なし	中世以降
10 P	楕円形	28	(22)	52	4 層／9Pと重複	遺物なし	中世以降
11 P	楕円形	(52)	45	102	6 層／13Pを切り、撹乱を受ける	遺物なし	中世以降
12 P	楕円形	59	45	94	4 層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む、黒褐色土を主体とする／13・34Pを切り、36・50Pと重複	遺物なし	中世以降
13 P	円形	(24)	20	(20)	3 層／11・12Pに切られ、36Pと重複	遺物なし	中世以降
14 P	不整楕円形	35	28	46	3 層／15Pを切る	遺物なし	中世以降
15 P	不整楕円形	50	40	80	4 層／14Pに切られる	遺物なし	中世以降
16 P	不整楕円形	33	29	15	3 層／21Pを切り、4Pと重複	遺物なし	中世以降
17 P	不整楕円形	58	(45)	62	5 層／2・21Pを切り、撹乱を受ける	遺物なし	中世以降
18 P	楕円形	29	26	35	3 層／単独で検出	遺物なし	中世以降
20 P	楕円形か	(35)	(20)	52	3 層／7Pと重複、撹乱を受ける	遺物なし	中世以降
21 P	隅丸方形か	28	(12)	37	2 層：ローム粒子を多く含み、ローム小ブロックを含む茶褐色土を主体とする／16・17Pに切られ、4Pと重複	遺物なし	中世以降
22 P	楕円形	(54)	43	63	4 層／撹乱を受ける	遺物なし	中世以降
23 P	楕円形	40	30	60	7 層／単独で検出	遺物なし	中世以降
24 P	不整楕円形	37	33	20	単層／346Dと重複	遺物なし	中世以降
25 P	不整楕円形	(46)	26	78	5 層／34Pに切られ、26・35Pと重複、撹乱を受ける	遺物なし	中世以降
26 P	隅丸方形か	(15)	25	84	覆土は不明／25P・27Pと重複、撹乱を受ける	遺物なし	中世以降
27 P	隅丸方形か	23	(21)	156	覆土は不明／26Pと重複、撹乱を受ける	遺物なし	中世以降
28 P	円形	36	34	45	5 層／単独で検出	遺物なし	中世以降
29 P	隅丸長方形	35	(25)	77	覆土は不明／12Pと重複、撹乱を受ける	遺物なし	中世以降
30 P	不整方形	60	55	83	4 層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む灰黒褐色土を主体とする／346Dを切る	遺物なし	中世以降
31 P	楕円形	30	25	18	3 層／単独で検出	遺物なし	中世以降
32 P	方形	30	26	29	2 層／単独で検出	遺物なし	中世以降
33 P	隅丸長方形	33	25	56	2 層／単独で検出	遺物なし	中世以降
34 P	楕円形か	32	(15)	10	単層／25・35Pを切り、12Pに切られ、36Pと重複	遺物なし	中世以降
35 P	楕円形か	(24)	24	39	3 層／25・34Pに切られ、36・39Pと重複	遺物なし	中世以降
36 P	楕円形か	38	(16)	80	単層／12・13・34・35・39Pと重複	遺物なし	中世以降
37 P	楕円形か	(28)	(11)	20	3 層／単独で検出	遺物なし	中世以降
39 P	楕円形か	(19)	14	24	2 層／35・36Pと重複	遺物なし	中世以降
41 P	楕円形	35	27	143	4 層／撹乱を受ける	遺物なし	中世以降
42 P	楕円形	46	36	100	4 層：ローム粒子を含む黒褐色土を主体とする／43Pを切り、44Pと重複、撹乱を受ける	遺物なし	中世以降
43 P	楕円形	(18)	34	81	単層：ローム粒子を多く含み、ローム小ブロックを含む茶褐色土／42Pに切られ、撹乱を受ける	遺物なし	中世以降
44 P	楕円形	38	32	80	3 層／42Pと重複	遺物なし	中世以降
45 P	円形か	(30)	35	65	3 層／46Pを切る	遺物なし	中世以降
46 P	不整楕円形	35	32	50	3 層／45Pに切られる	遺物なし	中世以降

規模の（　）内の数値は現存値

第５表　中世以降のピット一覧（１）

遺構名	平面形	規模(cm)			覆土及び特徴	主な遺物及び備考	時　期
		長軸	短軸	深さ			
47 P	楕円形か	(31)	(22)	62	4 層／攪乱を受ける	遺物なし	中世以降
48 P	長楕円形	42	(32)	75	単層／49P を切り、攪乱を受ける	遺物なし	中世以降
49 P	楕円形か	(27)	(17)	35	4 層／48P に切られ、攪乱を受ける	遺物なし	中世以降
50 P	隅丸方形か	32	(19)	27	4 層／12P と重複	遺物なし	中世以降
51 P	円形	25	20	25	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土／348D を切る	遺物なし	中世以降
52 P	方形	32	27	71	2 層／攪乱を受ける	遺物なし	中世以降
53 P	隅丸長方形	32	20	22	2 層／単独で検出	遺物なし	中世以降
54 P	不整方形	25	25	33	2 層／単独で検出	遺物なし	中世以降
55 P	不整楕円形	24	24	49	2 層／単独で検出	遺物なし	中世以降
56 P	不整楕円形	28	25	43	3 層／段切状遺構を切る	遺物なし	中世以降
57 P	円形	33	33	40	単層／単独で検出	遺物なし	中世以降
58 P	楕円形	35	30	31	単層／単独で検出	遺物なし	中世以降
59 P	不整楕円形	40	40	71	3 層／攪乱を受ける	遺物なし	中世以降
60 P	円形	20	20	17	単層：ローム粒子を多く含み、ローム小ブロックを含む茶褐色土／単独で検出	遺物なし	中世以降
61 P	不整楕円形か	34	(20)	17	2 層／62P と重複、攪乱を受ける	遺物なし	中世以降
62 P	長楕円形	31	22	58	単層／61P と重複	遺物なし	中世以降
63 P	円形	(30)	(30)	86	単層／349D を切り、攪乱を受ける	遺物なし	中世以降
64 P	楕円形	27	23	29	単層／単独で検出	遺物なし	中世以降
65 P	楕円形	40	27	69	2 層／68P と重複	遺物なし	中世以降
66 P	楕円形	32	29	62	4 層／単独で検出	陶器 1 点	中世（15c）
67 P	楕円形	40	30	59	3 層／単独で検出	陶器 1 点	近世（18c）
68 P	楕円形	(32)	(16)	51	4 層／65P と重複	遺物なし	中世以降
69 P	不整楕円形	35	32	49	単層／攪乱を受ける	遺物なし	中世以降
70 P	楕円形	35	30	54	3 層／段切状遺構を切る	遺物なし	中世以降
71 P	楕円形か	39	(30)	51	覆土は不明／攪乱を受ける	遺物なし	中世以降
72 P	円形	30	30	29	2 層／単独で検出	遺物なし	中世以降
73 P	円形	40	38	87	単層／単独で検出	遺物なし	中世以降
74 P	不整円形	30	25	63	4 層／単独で検出	遺物なし	中世以降
75 P	隅丸方形	46	35	76	単層／単独で検出	遺物なし	中世以降
76 P	長楕円形	50	30	34	2 層／単独で検出	遺物なし	中世以降
77 P	円形	35	34	35	覆土は不明／単独で検出	遺物なし	中世以降
78 P	楕円形	33	20	23	2 層／畝 1 と重複	遺物なし	中世以降
79 P	不整円形	25	22	26	単層／段切状遺構に切られる	遺物なし	中世以降
80 P	不整楕円形	40	25	48	単層／畝 1 と重複	遺物なし	中世以降
81 P	方形	20	20	46	単層／単独で検出	遺物なし	中世以降
82 P	隅丸楕円形	(30)	(20)	24	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む黄褐色土／攪乱を受ける	遺物なし	中世以降
83 P	不整形	(34)	(30)	77	2 層／攪乱を受ける	遺物なし	中世以降
84 P	隅丸方形	(32)	(25)	28	単層／攪乱を受ける	遺物なし	中世以降
85 P	隅丸方形	(40)	(30)	32	単層／攪乱を受ける	遺物なし	中世以降
86 P	方形	(25)	(25)	45	単層／攪乱を受ける	遺物なし	中世以降
87 P	不整円形	(27)	(23)	41	単層／攪乱を受ける	遺物なし	中世以降
88 P	方形か	(35)	(30)	64	2 層／攪乱を受ける	遺物なし	中世以降
89 P	円形か	(30)	(30)	70	単層／畝 20 と重複	遺物なし	中世以降

規模の（　）内の数値は現存値

第５表　中世以降のピット一覧（２）

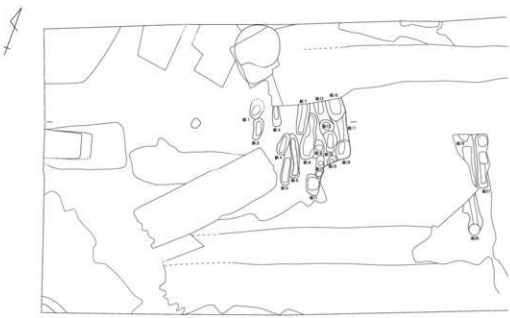
（５）畝状遺構

遺　　構（第15図）

今回、畝状遺構として、30本（畝１～30）を遺構として扱った。畝状遺構の走向方位は、概ね南北方向のＮ－20°－Ｗである。なお、畝22～30は第15図の断面には示したが、平面図には示すことが出来なかった。段切状遺構の覆土を掘り込んで構築される。覆土はしまりの強い黒褐色土を主体とする。

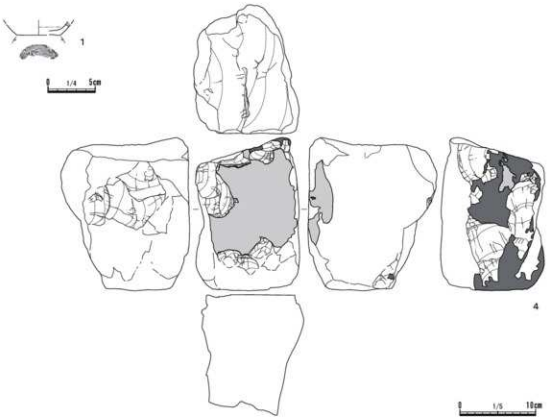
［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］段切状遺構の時期から、近世（18世紀代）と思われる。



1層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを微かに含む。しまり強。畝22.
2層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを微かに含む。しまり強。畝23.
3層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを微かに含む。しまり強。畝24.
4層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを微かに含む。しまり強。畝25.
5層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを微かに含む。しまり強。畝26.
6層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを微かに含む。しまり強。畝27.
7層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを微かに含む。しまり強。畝28.
8層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを微かに含む。しまり強。畝29.
9層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを微かに含む。しまり強。畝30.
10層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを微かに含む。しまり強。畝2.
11層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを微かに含む。しまり強。畝3.
12層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを微かに含む。しまり強。畝7.
13層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを微かに含む。しまり強。畝8.
14層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを微かに含む。しまり強。畝13.
15層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを微かに含む。しまり強。畝17.
16層　黒褐色土　ローム粒子を微かに含む。しまり中。
17層　黒褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含み、ローム小ブロックを微かに含む。しまり中。
18層　茶褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまり中。
19層　茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり強。
20層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを多く含む。しまり強。
21層　茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまり中。
22層　茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ローム小ブロックを微かに含む。しまり中。
23層　茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
24層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ローム小ブロックを微かに含む。しまり中。
25層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを多く含む。しまりやや強。
26層　茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまり中。
27層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを多く含む。しまり強。

第15図　畝状遺構（1／100）



第16図　348号土坑出土遺物（1／4・1／5）

挿図番号 図版番号	遺構名	種別	器種	法量 (cm)	製作の特徴等	推定産地	時期
図版6-1-1	段切状 遺構	陶器	皿	厚0.5	白色釉、貫入あり／内面に幅４mmの圏線あり／胎土：色調は淡黄色、精錬されている／口縁部破片	瀬戸・美濃	中・近世 (16c末～17c)
図版6-1-2	段切状 遺構	陶器	擂鉢	厚1.0	櫛目８本一単位程度か／内外面に灰褐色の釉がかかる／胎土：色調はにぶい黄橙色、砂粒を含む／胴部小破片	瀬戸・美濃	中・近世 (16～17c)
図版6-1-3	段切状 遺構	土器	焙烙	厚0.6	瓦質土器／平底／外面が被熱を受けている／胎土：色調はにぶい黄橙色、砂粒を多量に含み、角閃石を含む／底部破片	在地系	近世 (17～18c)
第16図１ 図版6-2-1	348 D	土器	皿	高[1.6] 底(4.6)	かわらけ／平底／ロクロ成形／底部に糸切り離し痕／内外面が黒く煤けている／胎土：色調はにぶい黄色、砂粒を僅かに含む／胴部～底部破片	在地系	中世 (16c末)
図版6-2-2	348 D	土器	土鍋	厚1.2	瓦質土器／内外面が黒く煤けている／胎土：色調は灰黄色、砂粒を多量に含み、石英・角閃石を僅かに含む／口縁部破片	在地系	中世 (16c)
図版6-2-3	348 D	土器	土鍋	厚1.0	瓦質土器／外面が黒く煤けている／胎土：色調は灰黄色、砂粒を多量に含み、石英・長石を含む／胴部破片	在地系	中世 (16c)
図版6-3-1	66 P	陶器	甕	厚0.7	外面に灰釉、タタキ痕あり／胎土：色調は灰白色、砂粒が含まれる／胴部破片	常滑	中世 (15c)
図版6-3-1	67 P	陶器	擂鉢	厚1.0	櫛目10本一単位程度か／内外面に暗赤褐色の釉がかかる／胎土：色調はにぶい黄色、砂粒を含む／胴部破片	備前系	近世 (18c)

第６表　中世以降の遺構出土陶器・土器一覧

第６節　遺構外出土遺物

ここでは、確認調査から出土した遺物、そして遺構の外・撹乱から出土した遺物を、遺構外出土遺物として扱う。今回、遺構外出土遺物としては、縄文時代の土器が出土した。

（１）縄文時代の遺物

［土　　器］（第17図１～９、図版６－４－１～９、第７表）

早期後葉、前期後葉、中期中葉・後葉の土器が出土している。各時代の点数は、早期後葉１点、前期後葉２点、中期中葉１点、中期後葉５点の合計９点である。

１は早期後葉の条痕文系土器である。２・３は前期後葉の諸磯式土器である。４は中期中葉の阿玉台式土器である。５～９は中期後葉の加曽利Ｅ式土器である。

第17図　遺構外出土遺物（1／3）

挿図番号 図版番号	器種 構別	部　位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎　土	時　期 型　式	出土遺構 出土位置
第17図1 図版6-4-1	深鉢	胴部 小破片	厚0.7	外傾する	横位条痕文の後に斜位条痕文	橙色／砂粒・繊維を含み、小礫を僅かに含む	縄文早期後葉 （条痕文系）	遺構外
第17図2 図版6-4-2	深鉢	胴部 小破片	厚1.0	外傾する	横位・縦位の半截竹管による連続横刺突文	赤褐色／砂粒を含み、角閃石を僅かに含む	縄文前期後葉 （諸磯式か）	348 D 覆土中
第17図3 図版6-4-3	深鉢	胴部 破片	厚1.0	僅かに外傾する	連続爪形文／R燃糸文を横位押圧施文	にぶい褐色／砂粒・角閃石を多量に含み、小礫を僅かに含む	縄文前期後葉 （諸磯b式）	348 D 覆土中
第17図4 図版6-4-4	深鉢	口縁部 破片	厚1.5	外傾し、内湾する	隆帯の中央及び両脇に沈線／沈線文、半截竹管による刺突文が施される	明黄褐色／石英・角閃石を多量に含み、砂粒を含む	縄文中期中葉 （阿玉台式）	遺構外
第17図5 図版6-4-5	深鉢	口縁部 破片	厚3.0	外傾し、内湾する	渦巻文の隆帯／口縁直下は無文	黄褐色／砂粒・小礫を含む	縄文中期後葉 （加曽利E1式）	347 D 覆土中
第17図6 図版6-4-6	深鉢	胴部 小破片	厚1.0	やや外反する	地文はL燃糸文を縦位施文	にぶい黄橙色／砂粒を含み、小礫を僅かに含む	縄文中期後葉 （加曽利E式）	遺構外
第17図7 図版6-4-7	深鉢	胴部 破片	厚1.0	外傾する	２本の沈線による磨り消し懸垂文／地文はLR単節縄文を縦位施文	明褐色／砂粒を含む	縄文中期後葉 （加曽利E3式）	遺構外
第17図8 図版6-4-8	深鉢	胴部 破片	厚1.2	僅かに外傾する	沈線による曲線の区画がなされ、区画間はミガキのよって磨り消される／地文はLR単節縄文を縦位施文	にぶい橙色／砂粒・石英を含み、小礫を僅かに含む	縄文中期後葉 （加曽利E3式）	遺構外
第17図9 図版6-4-9	深鉢	胴部 破片	厚0.8	外傾し、内湾する	数本の沈線による磨り消し懸垂文／地文は縄、LR単節縄文を縦位施文	黄褐色／砂粒を多量に含み、小礫・石英を含む	縄文中期後葉 （加曽利E3式）	確認調査 （1Tr内）

第７表　遺構外出土縄文土器一覧

第３章　田子山遺跡第173地点の調査

第１節　遺跡の概要

田子山遺跡は、志木市本町２丁目を中心に広がる遺跡で、東武東上線志木駅の北西約1.3㎞、柳瀬川駅の東約1.8㎞に位置している。本遺跡は、新河岸川右岸の台地上に立地しており、標高は約15m、低地との比高差は約10ｍで、南北方向に約480ｍ、東西方向に約210ｍの広がりをもち、面積74,030㎡を有している。

遺跡の周辺を眺めてみると、北側は際立った断崖地形になっており、その眼下には新河岸川が流れている。遺跡の現況は、古くから個人専用住宅を中心として小規模住宅が密集している地区であり、最近では、過去に埋蔵文化財保存措置を講じた地点の建替えや新たに分譲住宅建設を実施する計画の照会があるなど、今後も増加する見込みである。

本遺跡は、これまでに179地点の調査（令和６年１月31日現在）が実施され（第18図、第18表）、縄文時代草創～晩期、弥生時代後期、古墳時代後期、奈良・平安時代、中・近世、近代に至る複合遺跡であることが判明している。

第２節　調査の経緯

（１）調査に至る経過

令和４年６月、土地所有者兼土木工事主体者であるマックホーム株式会社（以下、工事主体者）から志木市教育委員会（以下、教育委員会）へ開発計画地内における埋蔵文化財の有無及び取り扱いについての照会があった。計画は志木市本町２丁目1695番７（面積240.92㎡）地内に木造３階建分譲住宅建設（４棟）を行うというものである。

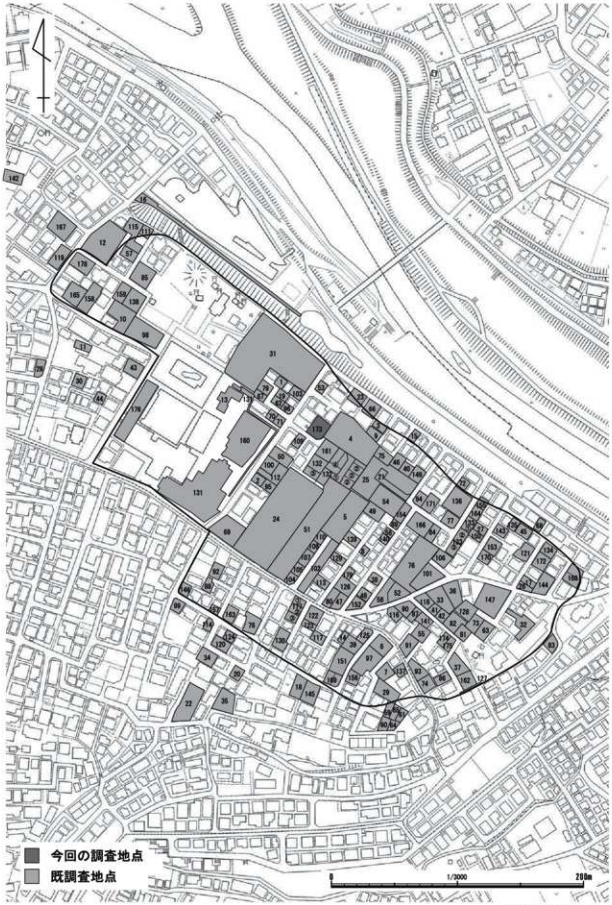
これに対し、教育委員会は、当該開発予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である田子山遺跡（コード11228－09－010）に該当するため、大旨下記のとおり回答した。

1．埋蔵文化財確認調査（以下、確認調査）を実施して、その結果に基づき、当該開発予定地の埋蔵文化財の有無及び取り扱いについて回答する。

2．上記１の調査の結果、埋蔵文化財が確認された場合、埋蔵文化財の保存措置を講ずること。また、やむを得ず埋蔵文化財に影響を与える工事を実施する場合は、記録保存のための発掘調査を実施する必要があること。

６月27日、教育委員会は、工事主体者より確認調査依頼書を受理し、田子山遺跡第173地点として、７月７・８日に確認調査を実施した。確認調査は、第19図に示すように調査区内に北東－南西方向に３本のトレンチ（１～３Tr）を設定し、バックホーで表土を剥ぎ、同時に遺構確認作業を行った。その結果、平安時代の住居跡５軒、平安時代以降のピット７本、中世以降の土坑１基を確認した。

教育委員会は、この結果をただちに工事主体者に報告し、保存措置について検討を依頼した。



第18図　田子山遺跡の調査地点（1／3,000）

調査地点	面積(㎡)	確認調査日	発掘調査期間	調査原因	遺構の概要	報告書No.(第３表)
第１地点	80.41	昭和63年５月16日	昭和63年５月17日～20日	個人住宅建設	(弥生後期)住居跡１軒	№９
第２地点	62.41	昭和63年８月18日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第３地点	84.70	昭和63年12月21日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第４地点	896.00	平成元年９月26日	平成元年９月27日～11月１日	共同住宅建設	(縄文)土坑１基(弥生後期)住居跡１軒(弥生・平安)住居跡９軒(中世以降)土坑１基	№13
第５地点	896.00	平成元年11月６日	平成元年11月13日～30日	共同住宅建設	(古墳後期)住居跡１軒(弥生・平安)住居跡９軒・土坑１基(中世以降)土坑２基	№13
第６地点	170.60	平成２年６月７日	平成２年６月７日～30日	個人住宅建設	(平安)住居跡１軒(中・近世)土坑１基	№12
第７地点	167.57	平成２年７月17日	平成２年７月17日～20日	個人住宅建設	(平安)住居跡１軒・溝跡１本?	№12
第８地点	42.80	平成２年８月４日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第９地点	102.36	平成２年８月21日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第10地点	313.83	平成２年10月16日	平成２年10月18日～11月14日	共同住宅建設	(縄文中期)住居跡１軒(弥生後期)住居跡５軒	№17
第11地点	394.52	平成２年10月26日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第12地点	676.58	平成２年12月６日	－	共同住宅建設	検出されなかった	－
第13地点	189.00	平成３年２月８日	平成３年２月13日～22日	校舎増築	(古墳後期)住居跡１軒	№17
第14地点	55.83	平成３年８月26日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第15地点	52.18	平成３年９月26日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第16地点	2,793.83	平成３年12月18日	－	親水公園整備事業	検出されなかった	－
第17地点	107.56	平成４年５月27日	－	個人住宅構築	検出されなかった	－
第18地点	168.04	平成４年６月29日	－	店舗併用住宅	検出されなかった	－
第19地点	63.54	平成４年６月29日	平成４年７月６日～21日	共同住宅	(縄文)土坑２基(平安)住居跡１軒(時期不明)土坑２基	№22
第20地点	69.56	平成４年７月23日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第21地点	104.20	平成４年９月７日	平成４年９月８日～28日	道路造成工事	(平安)住居跡４軒・土坑１基	№22
第22地点	492.00	平成４年10月26日	－	共同住宅建設	検出されなかった	－
第23地点	118.95	平成４年11月27日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第24地点	2,720.61	平成４年12月４日	平成５年５月13日～９月24日	共同住宅建設	発掘調査実施	未報告
第25地点	856.00	平成５年１月22日	平成５年２月24日～３月19日	共同住宅建設	(縄文早期)炉穴１基(平安)住居跡５軒	№22
第26地点	104.92	平成５年２月26日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第27地点	79.33	平成５年６月16日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第28地点	116.64	平成５年７月13日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第29地点	238.05	平成５年８月30日	平成５年８月31日～９月10日	個人住宅建設	(古墳後期)住居跡２軒(平安)住居跡１軒	№15
第30地点	157.14	平成５年10月20日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第31地点	2,944.95	平成６年３月28日	平成６年３月29日～10月21日	共同住宅建設	発掘調査実施	未報告
第32地点	181.21	平成６年７月19日	平成６年７月29日～８月12日	個人住宅建設	(縄文早期)土坑１基(弥生後期～古墳前期)方形周溝墓１基(時期不明)溝跡１本	№16
第33地点	298.18	平成６年11月11日	－	共同住宅建設	検出されなかった	－
第34地点	146.07	平成６年11月18日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第35地点	172.42	平成７年１月９日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第36地点	201.46	平成７年２月14日	－	店舗併用住宅	検出されなかった	－
第37地点	167.77	平成７年２月20日	平成７年２月27日～３月13日	個人住宅建設	(平安か)土坑２基 ※古墳の周溝の可能性あり	№16
第38地点	68.17	平成７年４月21日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第39地点	154.12	平成７年５月９日	平成７年５月16日～31日	個人住宅建設	(縄文早期)集石２基・炉穴２基(縄文)土坑３基(平安)溝跡３本	№18
第40地点	77.84	平成７年７月26日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第41地点	55.80	平成７年８月22日	平成７年８月28日～９月５日	個人住宅建設	(平安)住居跡１軒・土坑１基	№18
第42地点	55.80					
第43地点	185.25	平成７年８月30日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第44地点	82.68	－	－	個人住宅建設	工事立会	－
第45地点	128.50	平成８年２月６日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第46地点	125.43	平成８年６月４日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第47地点	114.32	平成８年６月12日	平成８年６月14日～20日	個人住宅建設	(平安)住居跡２軒・土坑１基	№20
第48地点	74.15	平成８年12月４日	平成８年12月９日～17日	個人住宅建設	(古墳後期)住居跡１軒	№20

第８表　田子山遺跡調査一覧（1）

調査地点	面積(㎡)	確認調査日	発掘調査期間	調査原因	遺構の概要	報告書No.(第3表)
第49地点	133.47	平成９年１月９日	平成９年１月13日～18日	個人住宅建設	(平安)住居跡２軒・土坑１基(中世以降)土坑２基(近・現代)土坑１基	№20
第50地点	229.39	平成９年11月27日	－	分譲住宅建設	検出されなかった	－
第51地点	1,475.17	平成10年７月22日	平成10年７月24日～８月14日	宅地造成	(縄文)土坑１基(古墳後期)住居跡２軒(平安)住居跡３軒・土坑３基	№75
第52地点	99.36	平成10年９月22日	－	個人住宅建設	盛土保存適用	－
第53地点	83.52	平成10年10月２日	－	分譲住宅建設	盛土保存適用	－
第54地点	414.00	平成10年10月19日	－	分譲住宅建設	盛土保存適用	－
第55地点	138.03	平成11年２月10日	－	個人住宅建設	盛土保存適用	－
第56地点	58.30	平成11年２月19日	－	個人住宅建設	盛土保存適用	－
第57地点	219.70	平成11年２月23日	－	分譲住宅建設	盛土保存適用	－
第57①地点	59.82		－	分譲住宅建設	盛土保存適用	－
第58地点	201.15	平成11年５月14日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第59地点	60.25	平成11年６月８日	－	分譲住宅建設	盛土保存適用	－
第60地点	60.89	平成11年８月２日	－	分譲住宅建設	検出されなかった	－
第61地点	80.13	平成11年８月２日	－	分譲住宅建設	検出されなかった	－
第62地点	73.44	平成11年８月９日	－	個人住宅建設	盛土保存適用	－
第63地点	179.85	平成11年９月24日	－	個人住宅建設	盛土保存適用	－
第64地点	89.92	平成11年８月26日	－	分譲住宅建設	検出されなかった	－
第65地点	67.50	平成11年８月26日	－	分譲住宅建設	検出されなかった	－
第66地点	160.00	平成11年９月24日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第67地点	60.90	平成11年12月６日	－	個人住宅建設	盛土保存適用	－
第68地点	79.85	平成12年１月27日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第69地点	121.32	平成12年４月24日	平成12年４月25日～５月11日	個人住宅建設	(縄文)集石１基(古墳後期)住居跡１軒(平安)住居跡１軒・溝跡１本	№26
第70地点	66.12	平成12年４月25日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第71地点	70.09	平成12年４月25日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第72地点	64.74	平成12年６月22日	－	個人住宅建設	盛土保存適用	－
第73地点	169.92	平成12年８月28日	－	個人住宅建設	盛土保存適用	－
第74地点	147.68	平成12年11月15日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第75地点	118.44	平成12年12月15日	－	分譲住宅建設	盛土保存適用	－
第76地点	475.87	平成13年２月16日	－	分譲住宅建設	盛土保存適用	－
第77地点	125.48	平成13年６月11日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第78地点	173.10	平成13年６月８日	平成13年６月13日～７月10日	個人住宅建設	(縄文)集石１基(平安)住居跡２軒	№28
第79地点	76.67	平成13年12月19日	－	個人住宅建設	盛土保存適用	－
第80地点	120.53	平成14年１月22日	－	個人住宅建設	盛土保存適用	－
第81地点	89.62	平成14年５月30日	平成14年６月10日～27日	個人住宅建設	(平安)住居跡１軒・土坑１基・溝跡１本 ※溝跡は古墳の周溝の可能性あり	№30
第82地点	176.55	平成14年12月５日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第83地点	95.99	平成14年12月18日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第84地点	101.53	平成15年５月20日	－	個人住宅建設	盛土保存適用	－
第85地点	339.97	平成16年２月13日	－	個人住宅建設	盛土保存適用	－
第86地点	84.61	平成16年３月29日	－	個人住宅建設	盛土保存適用	－
第87地点	92.00	平成16年８月27日	－	分譲住宅建設	検出されなかった	－
第88地点	110.49	平成16年11月４日	－	共同住宅建設	盛土保存適用	－
第89地点	46.82	平成16年11月26日	－	分譲住宅建設	検出されなかった	－
第90地点	113.66	平成17年８月２日	－	分譲住宅建設	盛土保存適用	－
第91地点	121.74	平成17年10月12日	－	個人住宅建設	盛土保存適用	－
第92地点	100.92	平成17年10月25日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第93地点	175.46	平成18年４月17日	平成18年４月24日～５月12日	個人住宅建設	(縄文早期)土坑１基(平安)住居跡３軒	№45
第94地点	101.44	平成19年１月24日	－	分譲住宅建設	盛土保存適用	－
第95地点	88.46	平成19年７月12日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第96地点	55.75	平成19年７月９日	平成19年８月20日	個人住宅建設	(縄文)土坑１基(古墳後期～平安)溝跡１本(平安)土坑１基・ピット１本	№45

第８表　田子山遺跡調査一覧（２）

調査地点	面積(㎡)	確認調査日	発掘調査期間	調査原因	遺構の概要	報告書No.(第3表)
第97地点	311.79	平成19年9月4日	平成19年9月25日～10月2日	分譲住宅建設	(平安)住居跡2軒・溝跡1本・掘立柱建築遺構1棟	No.40
第98地点	340.67	平成19年11月1日	－	個人住宅建設	盛土保存適用	－
第99地点	79.44	平成19年11月6日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第100地点	132.24	平成19年11月8日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第101地点	248.66	平成19年11月9日	－	分譲住宅建設	検出されなかった	－
第102地点	361.39	平成20年3月5日	－	宅地造成	盛土保存適用	－
第102③地点	88.83		－	個人住宅建設	盛土保存適用	－
第102⑤地点	87.89		－	個人住宅建設	盛土保存適用	－
第103地点	64.98	平成20年6月10日	－	個人住宅建設	盛土保存適用	－
第104地点	72.68	平成20年8月19日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第105地点	73.00	平成20年9月25日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第106地点	120.17	平成20年11月6日	－	個人住宅建設	盛土保存適用	－
第107地点	105.78	平成20年12月19日	平成21年2月5日～10日	個人住宅建設	(古墳後期)住居跡1軒(平安)住居跡1軒	No.55
第108地点	71.08	平成21年1月19日	－	個人住宅建設	盛土保存適用	－
第109地点	61.90	平成21年1月26日	－	分譲住宅建設	盛土保存適用	－
第110地点	62.74	平成21年2月5日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第111地点	59.61	平成21年4月20日	－	分譲住宅建設	検出されなかった	－
第112地点	55.06	平成21年6月8日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第113③地点	78.46	平成21年6月8日	－	分譲住宅建設	盛土保存適用	－
第114地点	55.65	平成21年9月17日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第115地点	185.03	平成22年5月25日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第116地点	81.20	平成22年5月7日	－	個人住宅建設	盛土保存適用	－
第117地点	100.14	平成22年6月28日	－	分譲住宅建設	検出されなかった	－
第118地点	93.33	平成22年6月28日	－	個人住宅建設	盛土保存適用	－
第119地点	166.00	平成22年11月12日	－	分譲住宅建設	検出されなかった	－
第120地点	179.16	平成23年3月10日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第121地点	145.73	平成23年3月9日	平成23年9月12日～28日	個人住宅建設	(縄文早期)集石1基・ピット5本・遺物包含層(中世以降)土坑1基・ピット1本	No.54
第122地点	198.35	平成23年4月11日	－	分譲住宅建設	盛土保存適用	－
第123地点	90.22	平成23年4月11日	－	個人住宅建設	盛土保存適用	－
第124地点	82.69	平成23年6月4日	－	分譲住宅建設	検出されなかった	－
第125地点	79.42	平成23年5月15日	－	分譲住宅建設	盛土保存適用	－
第126地点	171.00	平成23年8月6・7日	－	個人住宅建設	盛土保存適用	－
第127地点	84.96	－	－	擁壁設置	工事立会	－
第128地点	148.13	平成25年1月11日	－	分譲住宅建設	盛土保存適用	－
第129地点	69.75	平成25年8月22日	平成25年9月6日～9月13日	個人住宅建設	(縄文)集石1基(平安)住居跡1軒・土坑2基・ピット1本	No.96
第130地点	170.59	平成25年9月30日	－	分譲住宅建設	盛土保存適用	－
第131地点	2,196.00	平成26年2月26日～28日	平成26年6月2日～8月8日	校舎建替工事	(縄文)土坑4基・ピット12本(弥生後期)住居跡1軒(古墳時代後期)住居跡1軒(平安時代)住居跡3軒・掘立柱建築遺構1棟・溝跡2本・ピット13本	No.65
第132地点	884.00	平成26年3月13日～15日	－	分譲住宅建設	－	－
第132③地点	180.49		平成26年9月24日～11月10日	位置指定道路築造	(縄文)土坑2基・ピット7本・遺物包含層(弥生後期)住居跡1軒(古墳後期)ピット2本(平安)住居跡3軒・掘立柱建築遺構1棟・土坑7基・ピット134本(中世以降)ピット2本	No.69
第132②地点	207.24		－	分譲住宅建設	盛土保存適用	－
第132③地点	82.52		－	個人住宅建設	盛土保存適用	－
第132④地点	212.69		－	分譲住宅建設	盛土保存適用	－
第132⑤地点	151.93		－	分譲住宅建設	盛土保存適用	－
第133地点	430.92	平成26年4月21日	－	相続に伴う売買	－	－
第133①地点	105.33		平成26年8月20日～9月9日	個人住宅建設	発掘調査実施	未報告
第133②地点	105.26		－	個人住宅建設	盛土保存適用	－
第133③地点	105.38		－	個人住宅建設	盛土保存適用	－
第134地点	99.12	平成26年6月23日	平成26年7月14日～7月31日	個人住宅建設	発掘調査実施	未報告
第135地点	83.54	平成26年8月7日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第136地点	326.35	平成26年11月5・6日	－	分譲住宅建設	盛土保存適用	－

第８表　田子山遺跡調査一覧（3）

調査地点	面積(㎡)	確認調査日	発掘調査期間	調査原因	遺構の概要	報告書No.(第3表)
第137地点	66.66	平成27年5月11日	－	分譲住宅建設	盛土保存適用	－
第138地点	267.97	平成27年10月30日	－	共同住宅建設	盛土保存適用	－
第139地点	117.77	平成27年10月29日	－	個人住宅建設	盛土保存適用	－
第140地点	61.64	平成27年10月16日	－	分譲住宅建設	検出されなかった	－
第141地点	85.08	平成27年12月24日	－	個人住宅建設	盛土保存適用	－
第142地点	189.21	平成28年2月10日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第143地点	112.76	平成28年2月19日	－	分譲住宅建設	－	－
第143①地点	55.58		－	個人住宅建設	盛土保存適用	－
第143②地点	55.58		－	個人住宅建設	盛土保存適用	－
第144地点	299.99	平成28年4月1日	－	分譲住宅建設	盛土保存適用	－
第145地点	153.32	平成28年4月26日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第146地点	85.82	平成28年5月9日	－	個人住宅建設	盛土保存適用	－
第147地点	421.00	平成28年5月26・27日	－	分譲住宅建設	盛土保存適用	－
第148地点	1,219.20	－	－	多目的グラウンド工事	工事立会	－
第149地点	96.04	平成28年8月12日	－	個人住宅建設	盛土保存適用	－
第150地点	79.91	平成28年8月2日	－	個人住宅建設	盛土保存適用	－
第151地点	261.55	平成28年11月21日	－	分譲住宅建設	盛土保存適用	－
第152地点	84.08	平成29年1月16日	－	個人住宅建設	盛土保存適用	－
第153地点	107.93	平成29年2月16日	－	分譲住宅建設	検出されなかった	－
第154地点	133.55	平成29年6月29日	－	分譲住宅建設	検出されなかった	－
第155地点	89.43	平成30年2月27日	－	個人住宅建設	盛土保存適用	－
第156地点	113.86	平成30年3月26日	－	分譲住宅建設	盛土保存適用	－
第157地点	58.60	平成30年4月26日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第158地点	251.95	平成30年6月14・15日	－	個人住宅建設	盛土保存適用	－
第159地点	165.21	平成30年11月26日	－	分譲住宅建設	盛土保存適用	－
第160地点	1,910.00	平成30年12月19日～21日	令和元年5月7日～9月3日	校舎等建替工事	(縄文)土坑19基・炉穴1基・ピット1本(弥生後期～古墳前期)住居跡4軒・ピット1本(古墳後期)住居跡3軒・ピット10本(弥生・平安)住居跡6軒・竪穴柱建築遺構1棟・土坑43基・溝跡2本・ピット54本(近世以降)溝跡1本・土坑1基・ピット1本	№81
第161地点	179.60	平成31年1月24日	－	分譲住宅建設	盛土保存適用	－
第162地点	220.00	平成31年1月21日	－	宅地造成及び分譲住宅建設	盛土保存適用	－
第163地点	109.26	平成31年3月15日	－	個人住宅建設	検出されなかった	－
第164地点	100.15	令和元年6月3日	－	個人住宅建設	盛土保存適用	－
第165地点	193.36	令和2年3月17日	令和2年5月27日～7月13日	個人住宅建設	発掘調査実施	未報告
第166地点	263.65	令和元年11月19日	－	分譲住宅建設	盛土保存適用	－
第167地点	304.00	令和元年11月28日	－	分譲住宅建設	検出されなかった	－
第168地点	183.82	令和3年1月22日	－	分譲住宅建設	盛土保存適用	－
第169地点	120.72	令和3年1月26日	－	分譲住宅建設	盛土保存適用	－
第170地点	70.14	令和3年8月2日	－	分譲住宅建設	検出されなかった	－
第171地点	131.79	令和3年9月6日	－	個人住宅建設	盛土保存適用	－
第172地点	133.47	令和4年1月14日	令和4年4月5日～20日	分譲住宅建設	(縄文)早期住居跡1軒(弥生後期～古墳前期)方形周溝墓1基・ピット1本(中世以降)土坑2基・ピット6本	№94
第173地点	240.91	令和4年7月7・8日	令和4年9月8日～30日	分譲住宅建設	(縄文)土坑2基・ピット1本(平安)住居跡1軒・ピット8本(中世以降)土坑2基・ピット10本	本報告
第174地点	53.83	令和4年6月27日	－	分譲住宅建設	検出されなかった	－
第175地点	53.83	令和4年6月27日	－	分譲住宅建設	検出されなかった	－
第176地点	956.17	－	－	校舎建替	工事立会	－
第177地点	204.74	令和4年11月14日	－	個人住宅建設	－	－
第177①地点	68.09		令和5年1月16日～2月27日	個人住宅建設	発掘調査実施	未報告
第177②地点	68.46			個人住宅建設		
第177③地点	68.34		－	分譲住宅建設	検出されなかった	－
第178地点	162.63	－	－	個人住宅改築工事	工事立会	－
第179地点	56.19	令和5年3月22日	－	分譲住宅建設	検出されなかった	－

第８表　田子山遺跡調査一覧（４）

工事主体者と埋蔵文化財の保存措置について協議を重ねた結果、①・②・④号棟部分は盛土保存とし、③号棟部分（58.18㎡）については地盤改良工事が実施され、十分な文化財保護層が確保できないことから、発掘調査を実施することに決定した。

８月25日には、志木市埋蔵文化財保存事業受託要綱の規定により、工事主体者から志木市埋蔵文化財保存事業委託申請書が提出された。

８月30日、教育委員会は、志木市埋蔵文化財保存事業受託要綱第２条第２項に基づき、工事主体者と発掘調査実施に向けた事前協議を実施した。

同日、志木市と工事主体者の間で志木市埋蔵文化財保存事業に係る協議書が取り交わされ、９月８日に委託契約を締結した。

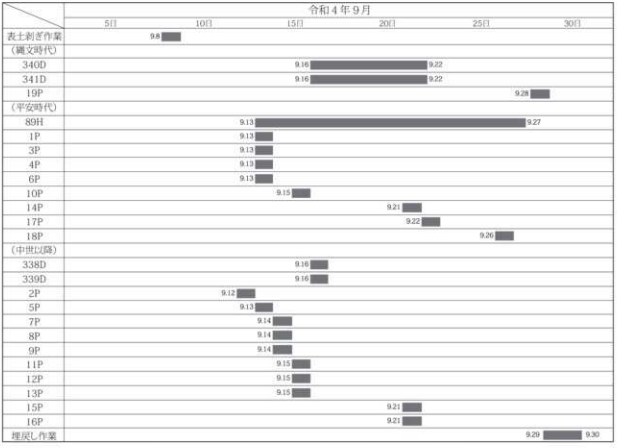
教育委員会は、８月26日付けで埋蔵文化財発掘の届出及び発掘調査通知を埼玉県教育委員会に提出し、９月８日から発掘調査を実施した。

（２）発掘調査の経過

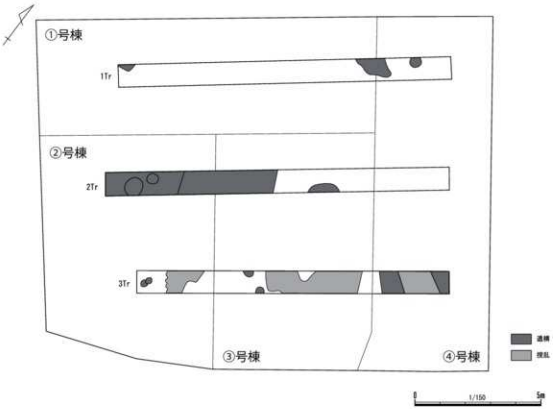
ここでは、発掘調査の経過について説明し、各遺構の精査経過については、第９表の発掘調査工程表にも示した。

９月８日　発掘調査を開始する。重機（バックホー）による表土剥ぎ作業を開始する。併せて、調査地周辺の整備も行い、残土置場は調査区外の南東側で処理した。

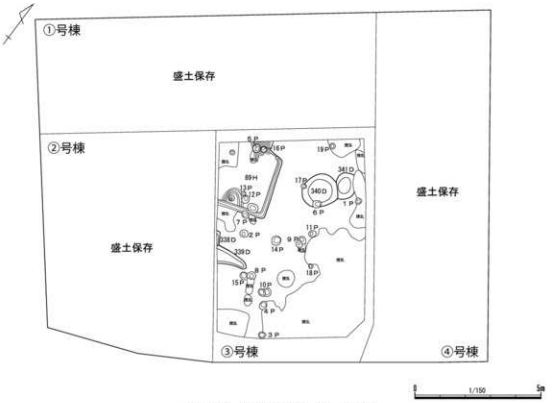
９日　本日から人員を導入し、調査器材の搬入、調査区の整備を行う。遺構検出作業を行い、



第９表　田子山遺跡第173地点の発掘調査工程表



第19図　確認調査時の遺構分布（１／150）



第20図　遺構分布図（１／150）

第20図のように平安時代の住居跡、縄文時代の土坑などを確認した。

12日　調査区全体の遺構検出の写真撮影を行う。中世以降のピット（２Ｐ）の精査を開始する。基準点移動を実施する。

13日　89Hに十字方向のセクションベルトＡ－Ａ'・Ｂ－Ｂ'を設定し、精査を開始する。カマドが北壁に付設するのを確認した。出土遺物から、平安時代の住居跡と判断した。平安時代のピット（１・３・４・６Ｐ）、中世以降のピット（５Ｐ）の精査を開始する。

14日　引き続き89Hの精査を行い、床面及び壁溝を検出する。中世以降のピット（７～９Ｐ）の精査を開始する。

15日　89HのＡ－Ａ'・Ｂ－Ｂ'セクションの写真撮影、実測図作成を行う。平安時代のピット（10Ｐ）、中世以降のピット（11～13Ｐ）の精査を開始する。

16日　89Ｈの遺物出土状態の写真撮影を行う。その後、遺物の地点上げ作業を行う。縄文時代の土坑（340・341Ｄ）、中世以降の土坑（338・339Ｄ）の精査を開始する。338・339Ｄは完掘状況の写真撮影まで行う。

21日　89Ｈに伴うＰ１・２、貯蔵穴を精査し、位置関係や規模から、Ｐ１は柱穴、Ｐ２は入口ピットと判断した。89Hの完掘状況の写真撮影を行う。340・341Ｄの断面の写真撮影、実測図を行う。平安時代のピット（14Ｐ）、中世以降のピット（15・16Ｐ）の精査を開始する。

22日　89Ｈのカマドの精査に着手する。340・341Ｄの完掘状況の写真撮影を行う。平安時代のピット（17Ｐ）の精査を開始する。

26日　89Ｈの掘り方の精査を行う。住居跡の四隅は貼床がなされ、中央付近は直床である状況を確認した。カマドの精査を引き続き行い、断面の写真撮影、実測図作成を行う。平安時代のピット（18Ｐ）の精査を開始する。

27日　89Hのカマドの平面図作成を行う。89Hの掘り方の完掘写真撮影を行うのと同時に、調査区全体の完掘状況の写真撮影を行う。

28日　縄文時代のピット（19Ｐ）の精査を開始する。本日で調査を完了する。調査器材の搬出を行う。

29日　重機による埋め戻し作業を開始する。

30日　引き続き重機による埋め戻し作業を行い、本日で発掘作業を終了する。

第３節　検出された遺構・遺物

（1）概　要

今回の調査では、縄文時代、平安時代、中世以降の遺構・遺物が検出された。

縄文時代の遺構として、土坑２基（340・341Ｄ）、ピット１本（19Ｐ）が検出された。

平安時代の遺構として、住居跡１軒（89H）、ピット８本（１・３・４・６・10・14・17・18Ｐ）が検出された。

中世以降の遺構として、土坑２基（338・339Ｄ）、ピット10本（２・５・７～９・11～13・15・

16Ｐ）が検出された。

また、遺構外からは、縄文時代、平安時代、中・近世の遺物が出土している。

（２）住居跡

89号住居跡

遺　　構（第21・22図）

［位　　置］調査区西端。

［検出状況］主に住居跡の東半分を検出し、北壁・東壁・南壁の立ち上がりを確認した。住居跡の西半は調査区外となる。５・７・12・13・16Ｐに切られる。攪乱を受ける。

［構　　造］**平面形**：方形。**規模**：長軸2.7ｍ／現況短軸2.3ｍ／遺構確認面からの深さ30㎝前後。**壁**：80°程度の角度で立ち上がる。**主軸方位**：Ｎ－25°－Ｗ。**壁溝**：北壁のカマド付設箇所を除いて全周すると考えられる。規模は上端18㎝前後／下端７㎝前後／深さ６～11㎝前後。**床面**：硬化面は入口ピット（Ｐ２）から北西側に展開する状況が確認された。貼床は住居跡中央付近にはなされず、住居跡四隅付近に５㎝程度の黒褐色・黄褐色土の貼床がなされる。**カマド**：住居の北壁に付設されている。主軸方向はＮ－10°－Ｗ。現況長さ63㎝／現況幅72㎝／壁への掘り込み36㎝。燃焼部はカマド南側に一部見られた。袖部は粘土で構築されているが、左袖のみが検出された。天井部は遺存していない。**貯蔵穴**：住居跡の南東隅で検出された。楕円形を呈し、規模は長軸43㎝／短軸34㎝／深さ18㎝。**柱穴**：１本（Ｐ１）が住居跡の北西側で検出された。円形を呈し、規模は直径20㎝／深さ26㎝。**入口施設**：入口ピット（Ｐ２）及びそれを囲む凸堤が住居跡の南端で検出された。Ｐ２は円形を呈し、規模は直径23㎝／深さ19㎝。凸堤の規模は長軸90㎝／短軸63㎝／高さ２～７㎝である。

［覆　　土］14層（２～15層）に分層された。覆土は黒褐色土を主体とし、自然堆積と考えられる。11層は壁溝埋土、12～15層は貼床である。

［遺　　物］遺物は、カマド周辺及び住居跡北東側を中心に分布する様子が見受けられ、須恵器・灰釉陶器・土師器・土製品（支脚）が出土した。ここでは図化し得る遺物を扱い、須恵器４点、灰釉陶器１点、土師器４点、支脚１点を掲載した。

［時　　期］平安時代（９世紀後葉）。

遺　　物（第23図、図版11－１、第10表）

１～４、６～９は土器で、１～４は須恵器、６～９は土師器である。５は灰釉陶器である。

［須 恵 器］（第23図１～４、図版11－１－１～４、第10表）

１は高台付埦形土器で、２～４は坏形土器である。

［灰釉陶器］（第23図５、図版11－１－５、第10表）

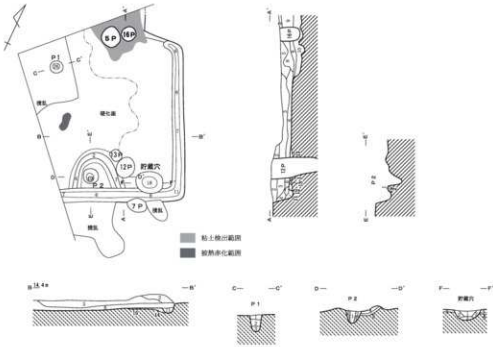
５は碗形土器である。

［土 師 器］（第23図６～９、図版11－１－６～９、第10表）

６～９は甕形土器である。

［土 製 品］（第23図10、図版11－１－10）

10は土製の支脚と思われる。方形を呈し、残存最長は4.8㎝で、一辺の幅は4.0㎝である。残存する全ての面にヘラ削りによる面取りがなされる。４面ある側面のうち、２面に白色粘土が付着する。住居跡中央の床面直上で出土した。



A－A'　B－B'

1層　表土層。
2層　黒褐色土　ローム粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり中。
3層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む。しまり中。
4層　黒褐色土　ローム粒子を含む。しまり中。
5層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロックを僅かに含む。しまり中。
6層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む。しまり中。
7層　黄褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまり弱。
8層　暗黄褐色土　ローム粒子を多く、焼土小ブロックを含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
9層　赤褐色土　焼土粒子・焼土小ブロック・粘土粒子を多く含む。しまり弱。
10層　黄褐色土　ローム小ブロックを多く含む。しまり強。
11層　暗黄褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまり弱。整備。
12層　黄褐色土　ローム小ブロックを多く含む。しまり強。貼床。
13層　黒褐色土　ローム小ブロックを含む。しまり弱。貼床。
14層　黒褐色土　ローム小ブロックを含む。しまり弱。貼床。
15層　黄褐色土　ローム小ブロックを多く含む。しまり強。貼床。

C－C'　P1

1層　暗褐色土　ローム粒子を含む。しまり弱。
2層　暗褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり中。
3層　暗褐色土　ローム粒子を含む。しまり中。

D－D'　P2

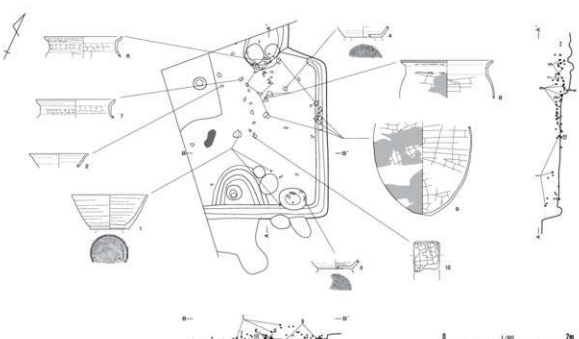
1層　暗褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む。しまり中。
2層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む。しまり中。
3層　黄褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまり中。
4層　黒褐色土　ローム小ブロックを含む。しまり弱。貼床。
5層　黒褐色土　ローム小ブロックを多く含む。しまり強。貼床。

E－E'　P2

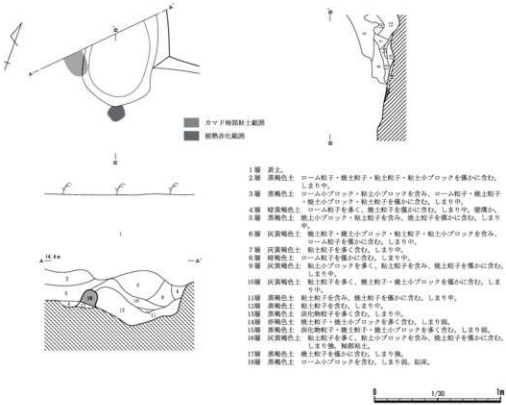
1層　黒褐色土　ローム小ブロックを含む。しまり弱。貼床。
2層　黄褐色土　ローム小ブロックを多く含む。しまり強。貼床。

F－F'　貯蔵穴

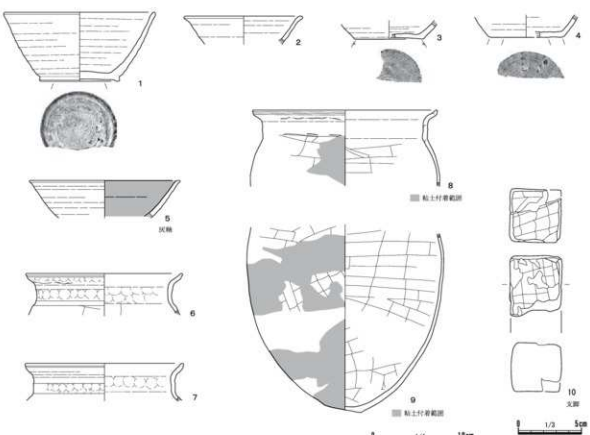
1層　黒褐色土　ローム粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり弱。
2層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、焼土粒子を僅かに含む。しまり弱。
3層　暗黄褐色土　ローム粒子を多く含む。しまり弱。
4層　黒褐色土　ローム小ブロックを含む。しまり強。貼床。
5層　黄褐色土　ローム小ブロックを多く含む。しまり強。貼床。



第21図　89号住居跡・遺物出土状態（1／60）



第22図　89号住居跡カマド（1／30）



第23図　89号住居跡出土遺物（1／4・1／3）

挿図番号 図版番号	種別 器種	部　位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎　土	出土位置
第23図1 図版13-1-1	須恵器 高台付 埦	50%	高7.3 口(16.0) 底(8.2)	底部から口縁部にかけて直線的に開く／口縁部は僅かに外反する／高台付／東金子窯産	ロクロ成形／ロクロ回転は右回転／底面に回転糸切り痕が残る	灰色／白色砂粒を多量に含み、小礫・長石を僅かに含む	南東側覆土中に散在
第23図2 図版13-1-2	須恵器 坏	口縁部 10%	高[3.0] 口(12.4)	口縁部はやや外反する／胴部は直線状に外傾する／東金子窯産	ロクロ成形／ロクロ回転は右回転	灰色／白色砂粒を含む	カマド付近床直上
第23図3 図版13-1-3	須恵器 坏	底部 30%	高[2.0] 底(7.0)	胴部は直線状に立ち上がる／底部は僅かに上げ底状／東金子窯産	ロクロ成形／ロクロ回転は右回転／底部に回転糸切り離し痕が残る	灰色／砂粒を含み、小礫を僅かに含む	貯蔵穴付近覆土中
第23図4 図版13-1-4	須恵器 坏	底部 50%	高[2.4] 底(7.6)	胴部は直線状に立ち上がる／南比企窯産	ロクロ成形／ロクロ回転は右回転／底面に回転糸切り離し痕が残り、周縁へラ削り調整が見られる	褐色／白色砂粒・白色針状物質を含み、小礫を僅かに含む	カマド付近床下
第23図5 図版13-1-5	灰釉 陶器 瓶	口縁部～ 胴部 20%	高[4.0] 口(16.0)	胴部から口縁部にかけて直線的に開く／口唇部が短く外反する	ロクロ成形／ロクロ回転は右回転／内面に灰釉が施釉	灰白色／黒色砂粒を僅かに含む	覆土中
第23図6 図版13-1-6	土師器 甕	口縁部 ～胴部 20%	高[4.5] 口(16.5)	口縁部は「コ」の字状／外面口唇部直下には幅3mmの沈線がまわる／いわゆる武蔵型甕	内面は連続指頭圧痕のち横ナデ／外面口縁部は連続指頭圧痕のち横ナデ、外面胴部には横ヘラ削り	褐色／白色砂粒・石英を多量に含む	カマド覆土中
第23図7 図版13-1-7	土師器 甕	口縁部 ～胴部 20%	高[4.0] 口(16.9)	口縁部は「コ」の字状／外面口唇部直下には幅1mmの浅い沈線がまわる／いわゆる武蔵型甕	内面は連続指頭圧痕のち横ナデ／外面口縁部は連続指頭圧痕のち横ナデ	明褐色／白色砂粒・石英を多量に含む	カマド付近覆土中
第23図8 図版13-1-8	土師器 甕	口縁部 ～胴部 20%	高[7.9] 口(19.5)	口縁部は「コ」の字状／外面口唇部直下には幅2mmの沈線がまわる／いわゆる武蔵型甕	内面口縁部に横ナデ、内面胴部に横ヘラナデ／外面口縁部に横ヘラナデ、外面胴部に横ヘラ削り／外面の一部に粘土が付着する	明褐色／白色砂粒・石英を多量に含み、角閃石・白色針状物質を少量含む	カマド付近覆土中
第23図9 図版13-1-9	土師器 甕	胴部上半 ～底部 40%	高[19.9] 底3.7	小さめの底部から立ち上がり、胴部は膨らみ、最大径は胴部中位／いわゆる武蔵型甕	内面胴部上半に横ヘラナデ、下半に斜位のヘラナデ／外面胴部上半に横ヘラ削り、下半に斜位へラ削り／外面全体に粘土の付着が著しい	明褐色／白色砂粒を多量に含み、石英を含む	北東側覆土中に散在

第10表　89号住居跡出土土器・陶器一覧

（3）土　坑

338号土坑

遺　　構（第24図）

［位　　置］調査区西端。

［検出状況］西半は調査区外に延びる。339Ｄを切る。

［構　　造］**平面形**：不明。**規模**：現況長軸0.59m／現況短軸0.13m／深さ16㎝。**断面形**：70～80°の角度で立ち上がる。**長軸方位**：Ｎ－38°－Ｗ。

［覆　　土］３層（２～４層）に分層された。黒褐・暗褐色土を主体とする。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から中世以降と判断した。

339号土坑

遺　　構（第24図）

［位　　置］調査区西端。

［検出状況］東西方向に延び、西側の立ち上がりは調査区外である。338Ｄに切られる。

［構　　造］平面形：溝状。規模：現況長軸1.33m／短軸0.70m／深さ11㎝。断面形：35°の角度で立ち上がる。長軸方位：N－80°－E。

［覆　　土］２層（５・６層）に分層された。暗褐色土を主体とする。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から中世以降と判断した。

340号土坑

遺　　構（第24図）

［位　　置］調査区北半。

［検出状況］341Ｄを切り、６・17Ｐに切られる。

［構　　造］平面形：円形。規模：長軸1.41m／現況幅1.26m／深さ26㎝。断面形：30～50°の角度で立ち上がる。長軸方位：N－35°－E。

［覆　　土］７層（２～８層）に分層された。焼土粒子を僅かに含む黒褐・暗褐色土を主体とする。

［遺　　物］出土しなかった。

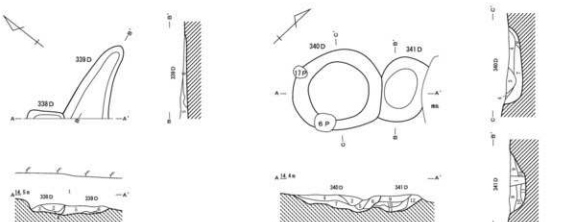
［時　　期］覆土の観察から縄文時代と判断した。

341号土坑

遺　　構（第24図）

［位　　置］調査区北半。

［検出状況］340Ｄに切られ、攪乱を受ける。



1層　表土。
338号土坑
2層　黒褐色土　ローム粒子を含む。しまり弱。
3層　暗褐色土　ローム粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり強。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子を多く含む。しまり中。
339号土坑
5層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小 含む。しまり中。
6層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。

338・339号土坑

1層　表土。
340号土坑
2層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む。しまり中。
3層　黒褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり強。
4層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む。しまり中。
5層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む。しまり中。
6層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、焼土粒子を僅かに含む。しまり中。
7層　暗黄褐色土　ローム粒子を多く含み、ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む。しまり強。
8層　黄褐色土　ローム粒子を多く含む。しまり強。
341号土坑
9層　暗褐色土　ローム粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり中。
10層　暗褐色土　ローム粒子を含む。しまり中。
11層　暗黄褐色土　ローム粒子を多く、焼土粒子を僅かに含む。しまり強。
12層　黄褐色土　ローム粒子を多く、焼土粒子を僅かに含む。しまり強。

340・341号土坑

0　1/60　2m

第24図　土坑（１／60）

［構　　造］平面形：楕円形。規模：長軸0.99m／現況短軸0.64m／深さ25㎝。断面形：35°の角度で立ち上がる。長軸方位：N－32°－W。

［覆　　土］４層（９～12層）に分層された。暗褐・暗黄褐色土を主体とする。

［遺　　物］縄文土器の小破片が出土したが、図化できなかった。

［時　　期］覆土の観察から縄文時代と判断した。

（４）ピット（第25図）

調査区域内から検出されたピットは、計19本（１～19Ｐ）で、そのうち縄文時代のピットが１本（19Ｐ）、平安時代のピットが８本（１・３・４・６・10・14・17・18Ｐ）、中世以降のピットが10本（２・５・７～９・11～13・15・16Ｐ）である。各ピットの時期は、出土遺物、遺構の切り合い関係、覆土の観察から判断した。

ここでは、平安時代の１・10・14Ｐから出土した遺物の記述にとどめた。ピット基本内容については第11表に示した。

１Ｐからは、須恵器の坏形土器２点、甕形土器１点が出土した（第26図３、図版11－２－１～３、第12表）。

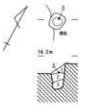
10Ｐからは、灰釉陶器の高台付碗形土器が出土した（第26図1、図版11－２－１、第12表）。

14Ｐからは、須恵器の坏形土器が出土した（第26図１、図版11－２－１、第12表）。

遺構名	平面形	規模(cm)			覆土及び特徴	主な遺物及び備考	時　期
		長軸	短軸	深さ			
１Ｐ	隅丸方形	(25)	(22)	(42)	３層／攪乱を受ける	須恵器３点	平安時代
２Ｐ	円形	33	29	12	２層／単独で検出	遺物なし	中世以降
３Ｐ	楕円形	(30)	(24)	45	３層／攪乱を受ける	遺物なし	平安時代
４Ｐ	楕円形	(33)	(30)	26	３層／攪乱を受ける	遺物なし	平安時代
５Ｐ	円形	39	29	44	３層／89Hを切る	遺物なし	中世以降
６Ｐ	楕円形	34	29	44	３層／340Dを切る	遺物なし	平安時代
７Ｐ	円形	32	26	55	３層／89Hを切る	遺物なし	中世以降
８Ｐ	円形か	34	(30)	26	３層／15Pと重複し、攪乱を受ける	遺物なし	中世以降
９Ｐ	不整形	(46)	20	17	２層／攪乱を受ける／２本の重複形	遺物なし	中世以降
10Ｐ	不整形	51	30	56	５層／単独で検出／２本の重複形	灰釉陶器１点	平安時代
11Ｐ	楕円形	31	26	12	２層／単独で検出	遺物なし	中世以降
12Ｐ	円形	32	30	80	４層／89Hを切る	遺物なし	中世以降
13Ｐ	不整円形	19	19	44	３層／89Hを切る	遺物なし	中世以降
14Ｐ	円形	38	36	22	２層／単独で検出	須恵器１点	平安時代
15Ｐ	円形か	(30)	30	14	単層／８Pと重複する	遺物なし	中世以降
16Ｐ	円形	23	23	13	単層／89Hを切る	遺物なし	中世以降
17Ｐ	不整円形	21	19	17	単層／340Dを切る	遺物なし	平安時代
18Ｐ	円形	(20)	18	20	２層／攪乱を受ける	遺物なし	平安時代
19Ｐ	円形	(23)	(23)	20	単層／攪乱を受ける	遺物なし	縄文時代

規模の（　）内の数値は現存値

第11表　ピット一覧



1層　暗褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり弱。
2層　黒褐色土　ローム粒子を含む。しまり強。
3層　暗褐色土　ローム粒子を含む。しまり弱。

1号ピット

1層　板混乱。
2層　黒褐色土　ローム粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり強。
3層　暗褐色土　ローム小ブロックを多く含む。しまり強。

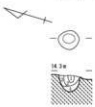
2号ピット

1層　暗褐色土　ローム粒子を含み、焼土粒子を僅かに含む。しまり弱。
2層　暗褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり弱。
3層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり弱。

3号ピット

1層　暗褐色土　ローム小ブロックを含み、ローム粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり弱。
2層　黄褐色土　ローム小ブロックを含む。しまり強。
3層　黒褐色土　ローム粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり弱。

4号ピット

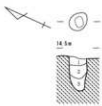


1層　板混乱。
2層　暗褐色土　ローム粒子・焼土小ブロックを僅かに含む。しまり強。
3層　暗褐色土　ローム粒子・焼土粒子を含む。しまり強。
4層　黒褐色土　ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロック・粘土粒子を僅かに含む。しまりや。

5号ピット

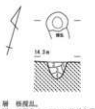
1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや。
2層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、焼土粒子を僅かに含む。しまり強。
3層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ローブロックを含む。しまり強。

6号ピット



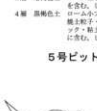
1層　茶褐色土　ローム粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまりや。
2層　暗褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり強。
3層　黒褐色土　ローム粒子を含む。しまりや。

7号ピット



1層　板混乱。
2層　暗褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり強。
3層　黒褐色土　ローム粒子を含み、焼土粒子を僅かに含む。しまり強。
4層　黒褐色土　ローム粒子を含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり強。

8号ピット



1層　黒褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり弱。
2層　暗黄褐色土　ローム粒子・ロームブロックを含む。しまり弱。

9号ピット

1層　黒褐色土　ローム粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり弱。
2層　暗黄褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む。しまり弱。
3層　黒褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり弱。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む。しまり弱。
5層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり弱。

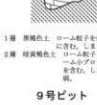
10号ピット

1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む。しまり弱。
2層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり弱。

11号ピット

1層　黒褐色土　ローム粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまりや。
2層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまりや。
3層　黒褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまりや。
4層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまりや。

12号ピット

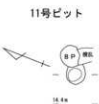


1層　暗褐色土　ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまりや。
2層　暗褐色土　ローム粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまりや。
3層　暗褐色土　ローム粒子を含み、焼土粒子を僅かに含む。しまりや。

13号ピット

1層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む。しまり強。
2層　黒褐色土　ローム粒子を含む。しまり強。

14号ピット

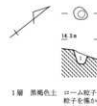


1層　黒褐色土　ローム粒子・ロームブロックを含む。しまりや。

15号ピット

1層　黒褐色土　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子を含み、焼土ブロックを僅かに含む。しまりや。

16号ピット

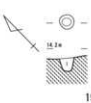


1層　黒褐色土　ローム粒子・炭化物粒子を僅かに含む。しまりや。

17号ピット

1層　暗褐色土　ローム粒子を含む。しまり弱。
2層　黒褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり弱。

18号ピット



1層　暗褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり強。

19号ピット

0　1/60　2m

第25図　ピット（１／60）

1号ピット出土遺物　　10号ピット出土遺物　　14号ピット出土遺物

第26図　ピット出土遺物（1／4・1／3）

挿図番号 図版番号	種別 器種	種別 器種	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	出土位置
図版11-2-1	1 P	須恵器 坏	口縁部 小破片	厚 0.4	口唇部は僅かに肥厚する／東金子窯産か	ロクロ成形／ロクロ回転は右回転／内外面に自然釉が付着	灰色／白色・黒色砂粒を含む	覆土中
図版11-2-2	1 P	須恵器 坏	胴部 小破片	厚 0.5	外傾する	ロクロ成形／ロクロ回転は右回転／酸化炎焼成	に示い黄橙色／白色砂粒を含み、小礫を僅かに含む	覆土中
第26図3 図版11-2-3	1 P	須恵器 甕	頸部 20%	厚 1.4 高 [6.2]	口縁部は外反する／南比企窯産	内面は頸部の屈曲部に粘土接合痕がみられる。屈曲部より上に自然釉が付着／外面は平行タタキ目が見られる。頸部の屈曲部より下に自然釉が付着	灰色／白色砂粒・白色針状物質を含み、小礫を僅かに含む	覆土上層の中央
第26図1 図版11-2-1	10 P	灰釉陶器 高台付碗	底部 20%	高 [2.1] 底 (8.0)	高台付	ロクロ成形／ロクロ回転は右回転／内面に灰釉が施釉／底部に回転糸切り痕が僅かに残る	灰白色／黒色砂粒を僅かに含む	覆土上層の中央
第26図1 図版11-2-1	14 P	須恵器 坏	底部 20%	高 [1.9] 底 (6.4)	高台が付くと思われる	ロクロ成形／ロクロ回転は右回転／底面に回転糸切り痕が残る／酸化炎焼成	橙色／砂粒を含み、石英・角閃石を僅かに含む	覆土中

第12表　平安時代のピット出土土器・陶器一覧

（５）遺構外出土遺物（第27図、図版11－３、第13表）

ここでは、確認調査から出土した遺物、そして遺構の外・攪乱から出土した遺物を、遺構外出土遺物として扱う。今回、遺構外出土遺物としては、縄文時代の土器、平安時代の須恵器、中・近世の陶器が出土した。

①縄文時代の遺物

［土　　器］（第27図１～３、図版11－３－１～３、第13表）

１～３は早期後葉の条痕文系土器で、１は野島式土器である。

②平安時代の遺物

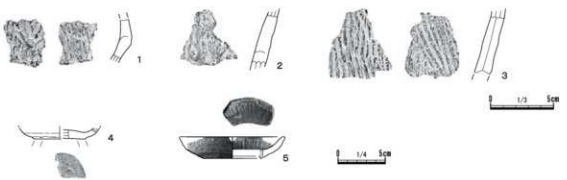
［須 恵 器］（第27図４、図版11－３－４、第13表）

４は須恵器の坏形土器である。

③中・近世の遺物

［陶　　器］（第27図５、図版11－３－５）

５は陶器の菊皿である。確認調査の２Trで出土した。口縁部～底部の破片で、遺存度は全体の30％程度である。厚さは６㎜で、口縁部の推定径は11.2㎝、底部の推定径は7.7㎝である。ロクロ成形で、ケズリ出しの高台をもつ。内外面に黄瀬戸の釉がかかり、内面に放射線状の沈線が施される。胎土は浅黄色で、白色・黒色砂粒を僅かに含む。産地は瀬戸・美濃と推測される。時期は中・近世の16世紀以降の所産と考えられる。



第27図　遺構外出土遺物（1／4・1／3）

挿図番号 図版番号	器種 種別	部　位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎　土	時　期 型　式	出土遺構 出土位置
第27図1 図版11-3-1	深鉢	胴部 破片	厚1.0	屈曲し、外傾する	内面には縦位・斜位の条痕文／外面に縦位・斜位の条痕文施文後、幅８㎜の沈線文とその脇に細隆起線文が施される	橙色／白色砂粒を含み、繊維を僅かに含む	縄文早期後葉 （野島式）	10Ｐ 覆土中
第27図2 図版11-3-2	深鉢	胴部 破片	厚1.1	外傾する	内面に横位の条痕文か／外面に縦位の条痕文	橙色／繊維・砂粒を含み、角閃石・小礫を僅かに含む	縄文早期後葉 （条痕文系）	遺構外
第27図3 図版11-3-3	深鉢	胴部 破片	厚1.2	外傾する	外面に縦位の条痕文	橙色／繊維・角閃石・白色砂粒を含む	縄文早期後葉 （条痕文系）	遺構外
第27図4 図版11-3-4	須恵器 坏	底部 30％	高［1.4］ 底(5.6)	平底／南比企窯産	ロクロ成形／ロクロ回転は右回転／底部に回転糸切り痕が残り、周縁へラ削りが見られる	にぶい赤褐色／白色砂粒を含み、白色針状物質を僅かに含む	平　安 （8c後半）	遺構外

第13表　遺構外出土土器一覧

第４章　自然科学分析

第１節　中道遺跡第97地点から出土した人骨について

１．はじめに

志木市中道遺跡第97地点では、人骨が出土した。ここでは、出土した人骨の同定結果を報告する。なお、同一人骨の一部を用いて、放射性炭素年代測定と炭素窒素安定同位体比測定も行われている（別項参照）。

２．試料と方法

同定した人骨は、346号土坑から出土した25点である（第14表）。出土人骨の時期は、中世以降と考えられている。肉眼で人骨を観察し、部位を同定した。

人骨は湿っており、カビが所々に発生している状態であった。一般的に、人骨は乾燥していると強く壊れにくいが、今回のような湿度が高い状態で採取・保管された場合は、脆く、破壊を受けやすい。そのため、修復は可能な部分において行い、他の部位は写真撮影を優先させ、破壊される前の状態の記録

出土遺構	試料No.	所見
346号土坑	1	頭骨片
	2	内耳岩様部
	3	頭骨及び上顎・下顎、歯
	4	不明骨片
	5	不明
	6	不明
	7	不明
	8	大腿骨
	9	寛骨
	10	膝骨骨体
	11	脛骨
	12	右大腿骨　上部は寛骨と思われる
	13	小骨片、部位不明
	14	不明
	15	不明
	16	不明
	17	不明
	18	不明
	19	不明
	20	一部肋骨と思われる
	21	一部肋骨と思われる
	22	肋骨と思われる
	23	肋骨と思われる
	24	橈骨と思われる
	25	上腕骨と思われる

第14表　人骨の試料No.とその所見

に努めた。写真を図版12に示す。

３．所見

下顎と上顎の一部及び歯を観察すると、右下顎犬歯、同第１小臼歯、同第２小臼歯、同第１大臼歯、同第２大臼歯、左下顎犬歯、同第１小臼歯、同第２小臼歯が認められた（図版12－２）。上顎は右上顎第２小臼歯、同第１大臼歯、同第２小臼歯、左上顎第１大臼歯、第２大臼歯が残存する（図版12－３）。歯の咬耗は、象牙質がかなり露出していることから、熟年期の個体と考えられる（Brothwell 1981）。また、性別については、寛骨がかろうじて残存しており、大座骨切痕の角度が広いことから女性とみなして良いと思われる（図版12－５）。総合所見として他個体の混入は無く、熟年女性１個体であると思われる。

[引用文献]
Brothwell, D. R. 1981　Digging up Bones. 3rd edition. 196p. Oxford University Press.

第２節　中道遺跡出土人骨の放射性炭素年代測定

１．はじめに

中道遺跡より出土した人骨の年代を明らかにするために、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。

２．試料と方法

対象試料は第97地点の346号土坑から出土したNo.11である。時期は中世以降と考えられている。この試料からコラーゲンを抽出し、測定した。抽出したコラーゲンは、安定同位体比測定用と^{14}C年代測定用に分割した。測定試料の情報、調製データは第15表のとおりである。

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-50660	第97地点 346号土坑 試料No.骨11	種類：骨 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン コラーゲン抽出

第15表　測定試料及び処理

コラーゲンの炭素含有量および窒素含有量の測定には、EA（ガス化前処理装置）であるFlash EA 1112（Thermo Fisher Scientific社製）を用いた。得られた炭素含有量と窒素含有量からC／N（モル比）を算出した。炭素安定同位体比（δ^{13}C）および窒素安定同位体比（δ^{15}N）の測定には、EAに連結した質量分析計DELTA V（Thermo Fisher Scientific社製）を用いた。

C／Nやコラーゲン収率に基づいて、コラーゲンの保存状態について評価した。

（米田　2005）に準じて、人が摂取したタンパク質が100％陸産物由来だった場合のコラーゲンのδ^{13}C を−21.0‰、100％海産物由来だった場合を−12.5‰と仮定し、人骨コラーゲンのδ^{13}Cから海産物

依存率を計算した。

^{14}C年代測定用のコラーゲンは、CO_2ガス化し、CO_2ガスの精製、グラファイト化を行った。グラファイトを、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた^{14}C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、^{14}C年代を算出した。

人骨コラーゲンの^{14}C年代は、人が摂取した海産物の割合に応じて、海洋リザーバー効果の影響を受けるため、海洋リザーバー効果の補正が必要である。^{14}C年代の較正にはOxCal4.4を用い、OxCalに付属する海洋リザーバー効果の補正機能を用いた。較正用データセットには陸産物用のIntCal20と海産物用のMarine20を混合させて用い、海産物依存率と、海洋リザーバー効果の海域差補正値（ΔR）を入力することで、海洋リザーバー効果を補正した暦年代を得た。

３．結果

3-1．炭素・窒素安定同位体比測定

処理前重量、コラーゲン回収量、コラーゲン回収率、炭素含有量、窒素含有量、C/N比、安定同位体比、δ^{13}Cに基づき海産物依存率を計算した値を第16表に示す。

コラーゲン収率は１％を下回り、C/N比（モル比）は正常値とされる2.9～3.6（De Niro　1985）の範囲外である。したがって、コラーゲンの変質や外部由来炭素の混入の可能性が高い。

第28図に炭素安定同位体比と窒素安定同位体比の関係を示した。人骨中のコラーゲンについては、食物からコラーゲンが合成される際に、δ^{13}Cが約4.5‰、δ^{15}Nが約3.5‰上昇する（Ambrose 1993）。第28図ではこの濃縮分を補正して食物グループと人骨との比較を行うため、食物グループの値を高くシフトさせている。

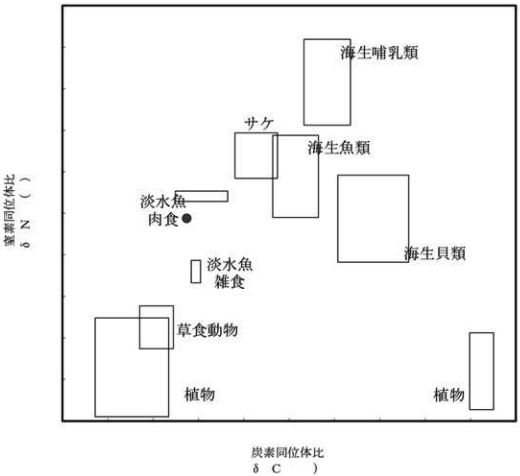
今回の試料は海生魚類、海生哺乳類、海生貝類などの海産物と草食動物、C3植物などの陸産物との中間にプロットされたが、コラーゲンの状態が悪く、炭素安定同位体比と窒素安定同位体比の関係を評価できない。

試料No.	試料種	処理前重量(mg)	コラーゲン回収量(mg)	コラーゲン回収率 (%)	炭素含有量(%)	窒素含有量(%)	C/N比(モル比)	安定同位対比 (‰)		海産物依存率(%)
								$\delta^{13}C_{PDB}$	$\delta^{15}N_{AIR}$	
PLD-50660	骨	1188.09	9.73	0.8	33.7	8.40	4.68	-18.5	11.8	29.2

第16表　炭素・窒素安定同位体比測定結果

3-2．放射性炭素年代測定

人骨コラーゲンの^{14}C年代は、人が摂取した海産物の割合に応じて海洋リザーバー効果の影響を受けるため、海産物依存率を推定した上で、海洋リザーバー効果を補正する必要がある。^{14}C年代の較正にはOxCal4.4を用い、OxCalに付属する海洋リザーバー効果の補正機能を用いた。較正用データセットには陸産物用のIntCal20と海産物用のMarine20を混合させて用い、海産物依存率と、海洋リザーバー効果の海域差補正値（ΔR）を入力して、海洋リザーバー効果を補正した暦年代を得た。海産物依存率と、海洋リザーバー効果の海域差補正値（ΔR）を入力して補正した暦年代値を、第17表に示す。表には、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（δ^{13}C）と、同位体分別効果の補正を行って暦年較



第28図　人骨コラーゲンの炭素・窒素同位体比と推測されるタンパク質源（米田譲2014に基づく作成）

正に用いた年代値、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した^{14}C年代、海洋リザーバー効果の補正を行った暦年較正結果を示し、第29図に海洋リザーバー効果の補正を行った暦年較正結果をそれぞれ示した。

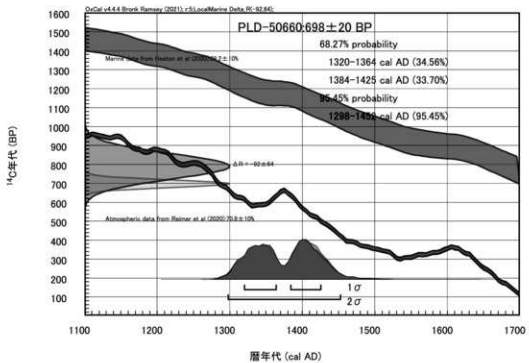
ΔRには、（Yoshida　2020）の東京湾におけるΔR（534±36 yr, 453±28 yr, 571±27 yr）をΔR計算サイト（http://calib.org/JS/JSdeltar20/）を用いてMarine20に対応するよう再計算し、得られた値（−98±37 yr, −152±28 yr, −34±27 yr）を加重平均した値−92±64 yrを用いて暦年較正を行った。

また、海産物依存率は、（米田　2005）に準じて、人が摂取したタンパク質が100％陸産物由来であった場合のコラーゲンのδ^{13}Cを−21.0‰、100％海産物由来であった場合を−12.5‰と仮定し、人骨コラーゲンのδ^{13}Cから海産物依存率を計算した。

^{14}C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。^{14}C年代（yrBP）の算出には、^{14}Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した^{14}C年代誤差（±１σ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の^{14}C年代がその^{14}C年代誤差内に入る確率が68.2％であることを示す。暦年較正に用いた年代値は下１桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

測定番号	δ13C (‰)	暦年較正用年代 (yrBP±1σ)	^{14}C年代 (yrBP±1σ)	^{14}C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
PLD-50660 試料No. 骨11	-18.73±0.18	698±20	700±20	Atmospheric data from Reimer et al (2020) & Marine data from Heaton et al (2020):29.2±10% (DeltaR=-92±64 yr) 1320-1364 cal AD (34.56%) 1384-1425 cal AD (33.70%)	Atmospheric data from Reimer et al (2020) & Marine data from Heaton et al (2020): 29.2±10% (DeltaR=-92±64 yr) 1298-1452 cal AD (95.45%)

第17表　放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果



第29図　暦年較正結果

4．考察

2σ暦年代範囲（確率95.45%）に着目してみると、1298-1452 cal AD（95.45%）の年代値を示した。これは鎌倉時代～室町時代に相当する年代値であり、試料の推定時期である中世以降と矛盾しない。ただし、今回の試料のコラーゲン収率は0.8％と、1％を下回っており、C/N比（モル比）は正常値とされる2.9～3.6（DeNiro　1985）の範囲外であった。したがって、コラーゲンの変質や外部由来炭素混入の可能性が考えられ、年代値の信憑性が低いため、年代値の取り扱いには注意を要する。

[参考・引用文献]

Ambrose, S. H. 1993　Isotopic analysis of paleodiet: methodological and interpretive concidcrations. In: Sandford MK, editor. Investigations of ancient human tissue: chemical analysis in anthropology. Langhorne: Gordon and Breach. 59-130.

Bronk Ramsey, C. 2009　Bayesian Analysis of Radiocarbon Dates. Radiocarbon, 51 (1), 337–360.

De Niro, M.J. 1985　Postmortem Preservation and Alteration of in Vivo Bone Collagen Isotope Ratios in Relation to Palaeodietary Reconstruction. Nature, 317, 806–809.

Heaton, T.J., Köhler, P., Butzin, M., Bard, E., Reimer, R.W., Austin, W.E.N., Bronk Ramsey, C., Grootes, P.M.,Hughen, K.A., Kromer, B., Reimer, P.J., Adkins, J., Burke, A., Cook, M.S., Olsen, J. and Skinner, L.C. 2020　Marine 20 —the marine radiocarbon age calibration curve (0–55,000 cal BP). Radiocarbon, 62 (4), 1–42, doi:10.1017/RDC.2020.68. https://doi.org/10.1017/RDC.2020.68 (cited 12 August 2020)

中村俊夫　2000「放射性炭素年代測定法の基礎」日本先史時代の ^{14}C 年代編集委員会編『日本先史時代の ^{14}C 年代』3-20 日本第四紀学会

Reimer, P.J., Austin, W.E.N., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., Manning, S.W., Muscheler, R., Palmer, J.G., Pearson, C., van der Plicht, J., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Turney, C.S.M., Wacker, L., Adolphi, F., Büntgen, U., Capano, M., Fahrni, S.M., Fogtmann-Schulz, A., Friedrich, R., Köhler, P., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen, J., Reinig, F., Sakamoto, M., Sookdeo, A. and Talamo, S. 2020　The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibrationcurve (0–55 calkBP). Radiocarbon, 62 (4), 1–33, doi:10. 1017/RDC. 202041. https://doi.org/10.1017 /RDC.2020.41 (cited 12 August 2020)

米田　穣　2005「有珠モシリ遺跡出土人骨における同位体分析」平成14年度～平成16年度科学研究費補助金（基盤研究（B）(2)）研究成果報告書『北海道続縄文人の系譜論的・生活論的研究－有珠モシリ遺跡出土人骨を中心にして－』（研究代表者　百々幸雄）

2014「炭素・窒素安定同位体比分析」『小竹貝塚発掘調査報告―北陸新幹線建設に伴う埋蔵文化財発掘報告Ⅹ―（第三分冊人骨分析編）』16–23　公益財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

Yoshida, K., Hara, t., Kunikita, D., Miyazaki, y., Sasaki t., Yoneda, M., Matsuzaki, H. 2010　Pre-Bomb Marine Reservoir Ages in the Western Pacific. Radiocarbon, 52 (3), 119 7–1206, doi: 10. 1017/S0033822 200046270. https://doi.org/10.1017/ S0033822200046270 (cited 18 July 2016)

第５章　調査のまとめ

第１節　中道遺跡第97地点の調査成果

本地点からは、縄文時代の土坑１基（345Ｄ）・ピット３本（19・38・40Ｐ）、平安時代の土坑１基（347Ｄ）、中世以降の段切状遺構１か所・土坑５基（344・346・348～350Ｄ）、ピット86本（１～18・20～37・39・41～89Ｐ）が検出された。

ここでは、中世以降について若干のまとめを行うこととする。

（１）土坑墓について

本地点では、346Ｄから人１体分の全身骨が出土した。346Ｄは長軸約１ｍで隅丸長方形を呈し、若干西方向へ傾くが概ね南北方向に主軸をとる。自然科学分析では、出土人骨は熟年層の女性で、年代測定結果の確実性は欠けるとされたものの、14～15世紀代の人物であることが示唆された。また、骨の出土位置から、仏教思想に基づく頭北面西の姿勢で、腕・下肢が折り畳まれて埋葬される、いわゆる「横臥屈葬」がなされていたことが判明した。

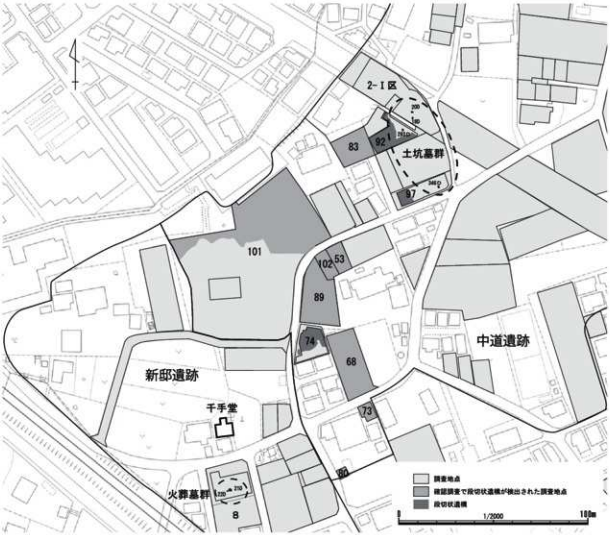
土坑墓は、本地点周辺の中道遺跡第２・92地点においても数基検出されている。

本地点北側の第２地点のⅠ区では、18・20号土坑（18・20Ｄ）から人骨が検出された（佐々木・尾形　1988）。18・20Ｄは長方形の土坑で、18Ｄは長軸0.96ｍ、南北方向に主軸をとる。20Ｄは北西－南東方向を主軸とするが、長軸0.95ｍを測る。

同じく、本地点の北側で実施された第92地点でも、293号土坑（293Ｄ）から人骨が出土し、293Ｄは長軸約1.02ｍの長方形で主軸をほぼ南北方向とする（尾形・大久保　2022）。

これらの土坑は、20Ｄを除き南北方向に主軸をとる長軸１ｍ前後の長方形の土坑の形態で、時期が判明している346Ｄは14～15世紀代に属する。このように、土坑墓が集中して検出された本地点及び第２・92地点を含む一帯は、中世期の14～15世紀代の墓域（第30図）であった可能性が指摘できる（大久保　2022a）。

また、同形態の長方形土坑墓は、本地点から北東へ約200ｍ離れた中道遺跡第37地点や、中野遺跡第49・109地点でも検出されている（第18表）。中道遺跡第37地点（佐々木・尾形　1997）の37号土坑（37Ｄ）や中野遺跡第49地点（尾形・深井・青木　2004b）の67号土坑（67Ｄ）、第109地点（尾形・徳留・大久保・市川・梶山・植月　2021）の487・492・503～505号土坑（487・492・503～505Ｄ）も１ｍ前後の規模の長方形で、概ね南北方向主軸であることから、「長軸１ｍ前後の長方形で、南北方向を主軸にもつ土坑」が、中世の志木市において一般的な土坑墓の形態であったと考えられる。南北主軸は仏教に基づく北枕から発生しており、１ｍ前後という規模は、成人以上の横臥屈葬を前提として掘り込まれたものと考えられる。過去の土坑墓の調査では、人骨は一部の遺存に留まっていたが、本地点の346Ｄは、人骨の残りが良く横臥屈葬の全体状況が把握できるため、当時の埋葬方法を復元する上での貴重な事例として評価できる。



第30図　中道遺跡・新邸遺跡の段切造成面範囲及び土坑墓・火葬墓分布（1／2,000）

調査地点	土坑名	平面形	規模(m) 長軸	短軸	深さ	主軸方位	主な遺物	人骨年齢	人骨性別	時期	報告書(第3表)
中野遺跡第49地点	67 D	隅丸長方形	0.85	0.65	0.35	N-S	人骨（頭骨・四肢の一部）	青年	女性	中近世	No.29
中野遺跡第109地点	487 D	長方形	0.9	0.48	0.41	N-1°-E	人骨片	不明	不明	中世	No.86
	492 D	隅丸長方形	1.1	1.02	0.6	N-7°-E	人骨（頭骨一部）銭貨3点	壮年後半	不明	中世	
	503 D	隅丸長方形	1.17	0.66	0.44	N-5°-W	人骨（頭骨・四肢）	壮年後半	不明	中世	
	504 D	長方形	1.11	0.66	0.47	N-16°-W	人骨（頭骨・大腿骨）銭貨8点	壮年後半	不明	中世	
	505 D	隅丸長方形	1.36	0.98	0.48	N-1°-W	人骨（大腿骨）	成人	男性	中世	
中道遺跡第2地点	18 D	長方形	0.96	0.55	0.44	N-5°-E	人骨（下顎骨・歯）	不明	不明	中世?	No.6
	20 D	長方形	0.95	0.66	0.48	N-65°-W	人骨片	不明	不明	中世?	
中道遺跡第37地点	37 D	長方形	1.02	0.59	0.46	N-5°-E	人骨（大腿骨・歯）銭貨5点	不明	不明	中世	No.18
中道遺跡第92地点	293 D	長方形	1.02	不明	0.18	N-7°-W	人骨（骨片・歯）	不明	不明	中世	No.88
中道遺跡第97地点	346 D	隅丸長方形	1.05	0.67	0.38	N-20°-W	人骨（全身）	熟年	女性	中世(14～15c)	本報告

第18表　市内の長方形土坑墓一覧

（２）地下式坑について

本地点では、地下式坑の竪坑部と主体部からなる348Ｄと、竪坑部の一部と考えられる350Ｄが検出された。348Ｄは、覆土中の出土遺物の時期から16世紀代に埋没したものと考えた。

本地点周辺での地下式坑の検出事例は、第２地点の16・19Ｄと、本地点北隣の第27地点の35・36号土坑（35・36Ｄ）が挙げられる（尾形・深井　2000b）。出土遺物から、16Ｄは14世紀、19Ｄは14～15世紀中頃、35Ｄは14世紀後半から15世紀、36Ｄは15世紀代とされる。348Ｄは、出土遺物から16世紀代に埋没したものと判断したが、近隣の地下式坑が14～15世紀代に位置づけられることから、348Ｄも同時期の築造時期に遡る可能性がある。

なお、16・19Ｄからは人骨が出土しているが、西原大塚遺跡第234地点の地下式坑である912号土坑で人骨が出土した事例（尾形・徳留・大久保・小林・福泉・石川　2022）のように埋葬によるもので、（１）で先述した墓域の中に含めることができるのか、今後の検討課題としたい。

また、348Ｄの竪坑部の覆土中で牛の歯３本分が出土し、16世紀代前後にこの近辺で牛が存在していたことが傍証された。市内における牛の遺存体の他の出土事例は、中野遺跡第49地点の地下式坑である71号土坑が挙げられ、竪坑部の覆土中に牛あるいは馬の四肢骨が出土している（尾形・深井・青木　2004b）。

動物の遺存体は、中・近世の地下式坑・地下室から出土する事例が多く、市内では城山遺跡第４地点の49号土坑で犬の頭骨（佐々木・尾形　1989）、城山遺跡第42地点の312号土坑で馬の中手骨もしくは中足骨（尾形・深井・青木　2005）、城山遺跡第60地点の496号土坑で馬の前腕骨（尾形・藤波・鈴木・中村　2008）、城山遺跡第63地点の780号土坑で同定不明の獣骨（尾形・徳留・坂上・青池・鈴木　2011）、西原大塚遺跡第234地点の912号土坑で人骨とともにタヌキの頭骨（尾形・徳留・大久保・小林・福泉・石川　2022）が出土している。動物の遺存体が地下式坑・地下室で出土する傾向にある要因については、不時の落下もしくは埋葬、廃棄、遺存条件などによるものなのか、今後の検討課題としたい。

（３）段切状遺構について

①造成時期と遺構の関係について

本地点では調査区西半で段切状遺構が確認され、段切造成がなされた範囲となされていない範囲の境目が把握できた。下記では段切状遺構に関連する中世以降の遺構形成の推移について、遺構の切り合い関係、出土遺物から段階ごとに見ていく。なお、本地点は攪乱が著しく、切り合い関係が不明瞭な遺構が多かったことを付記しておく。

１期：段切状遺構造成前後の時期（中・近世：16世紀～18世紀代）

段切状遺構の土層断面を観察すると（第８図）、ロームが多く含まれる貼床土（６～12層）の直上に覆土である１～５層が堆積する。貼床土に覆われる79Ｐは、段切状遺構形成時に掘り込まれたと推測されるが、遺物が出土しなかったため、詳細時期は不明である。段切状遺構の覆土中には16～18世紀代の遺物が含まれていることから、この時期が利用期間ないしは埋没期間と考えられ、造成時期は16～18世紀代もしくは16世紀以前と推測される。近隣の第92地点で検出された段切状遺構の造成年代も16世紀代もしくはそれ以前と報告されている（尾形・大久保　2022）。

２期：段切状遺構造成以後の時期（近世：18世紀代）

段切状遺構の覆土を切る、畝状遺構を対象とする。畝状遺構からは出土遺物がなかったため、詳細な時期は不明であるが、段切状遺構の出土遺物の下限が18世紀代であることから、畝状遺構はそれ以降に掘り込まれたと考えられる。近隣の第92地点で検出された畝状遺構も同じ18世紀代の所産とされる。

②中道遺跡における中世期の墓域について

中道遺跡において、発掘調査で段切状遺構が検出された地点は、本地点を含めて第74・92・97地点が挙げられ（第74地点－大久保・徳留・尾形　2023）、確認調査であるため今後の全体的な把握を必要とするが、本地点の近隣にあたる第53・68・73・80・83・89・101・102地点でも段切状遺構の可能性が高い遺構が検出されている。発掘調査・確認調査で検出された段切状遺構の範囲を第30図に示した。よって、中道遺跡の西部一帯は、中世期に段切造成がなされた、南北約200ｍ・東西約100ｍにも想定される広大なエリアとして評価することができる。

第74地点で土地造成が行われた（段切状遺構が形成された）背景について、現在は大塚千手堂として一部残るが、中世期には七堂伽藍が存在していたとされる「松林山観音寺大学院」（以下、観音寺）との関連が指摘されており（大久保　2023）、今後の更なる検討を要するが、中道遺跡西部はこの寺域に含まれており、広大な範囲で土地造成がなされた可能性が考えられる。ただし、第74地点の造成が行われた時期は14～15世紀代と位置付けられ、本地点及び第92地点の造成は16世紀代前後に行われたと推定していることから、段切造成が行われたエリアの中でも、場所によって造成時期や目的が異なっていた可能性も考慮すべきであろう。

また、（１）で先述したように、本地点及び第２・92地点では土坑墓が多数見つかっており、寺域北東部は観音寺に伴う墓場であった可能性が指摘できる。遺跡は異なるが、千手堂の南隣にあたる新郡遺跡第８地点においても、火葬墓である21・22号土坑（21・22Ｄ）が検出されており、観音寺に伴う墓場を検討する上で欠かせない事例である（尾形・深井・青木　2007）。

このように、近隣に寺院が存在し、中世期に段切造成が行われ、段切造成内もしくは付近に土坑墓・火葬土坑が伴うという事象は中野遺跡北部でも確認されており（大久保・尾形・木村・原野・石橋ほか　2023）、また、西原大塚遺跡北端にあたる第213地点（尾形・大久保・深井・青木　2019）・第220地点（大久保・尾形　2020）・第224地点（尾形・大久保・成島・西川　2020）においても、15世紀代の段切状遺構及びそれに関連する遺構が検出されている。市内における中世期の同時多発的な斜面地の造成は、歴史的事象を背景にして実施されたものと推測されるが、市外の類例調査も含め、今後の検討課題としたい。

第２節　田子山遺跡第173地点の調査成果

本地点からは、縄文時代の土坑２基（340・341Ｄ）・ピット１本（19Ｐ）、平安時代の住居跡１軒（89H）・ピット８本（１・３・４・６・10・14・17・18Ｐ）、中世以降の土坑２基（338・339Ｄ）、ピット10本（２・５・７・８・９・11～13・15・16Ｐ）が検出された。

ここでは、平安時代について若干のまとめを行うこととする。

（１）89号住居跡出土遺物について（第23図）

この住居跡からは、須恵器の高台付椀・坏形土器、灰釉陶器の碗形土器、土師器の甕形土器、土製品（支脚）が出土した。下記では、各遺物の編年的位置付けを述べる。

１の須恵器高台付椀は、開きが大きく、直線化しており、底部には回転糸切り離し痕が残る。この特徴の椀は鳩山編年（渡辺　1990）で鳩山Ⅶ期（９世紀後葉）に位置付けられる。

２の須恵器坏は口径12.4㎝に推定され、直線状に胴部が開き、口縁が外反する。３の坏は底径7.0㎝に推定され、回転糸切り離し痕が残る。４の坏は南比企窯産で、底径7.6㎝に推定され、周縁ヘラ削り調整がみられる。口径・底径ともに確認できる資料がないが、これらの特徴は鳩山編年（渡辺　1990・2007）を援用すると、２・３は鳩山Ⅵ～Ⅶ期（９世紀前葉～後葉）、４は鳩山Ⅳ期（８世紀後葉）に当てはめられる。

５の灰釉陶器碗は、口縁部～胴部上半の破片資料であるため高台の形態が確認できず、年代を絞り込めなかったが、猿投窯編年（齊藤　1998）の黒笹14号もしくは90号窯式（９世紀後半）に該当すると考えられる。

６～９の土師器甕は、いわゆる武蔵型甕で、６～８は「コ」の字状の口縁をもち、９は胴部中位に最大径がまわる。これらの特徴は根本編年（根本　1999）のⅦ期（９世紀後半）に該当する。

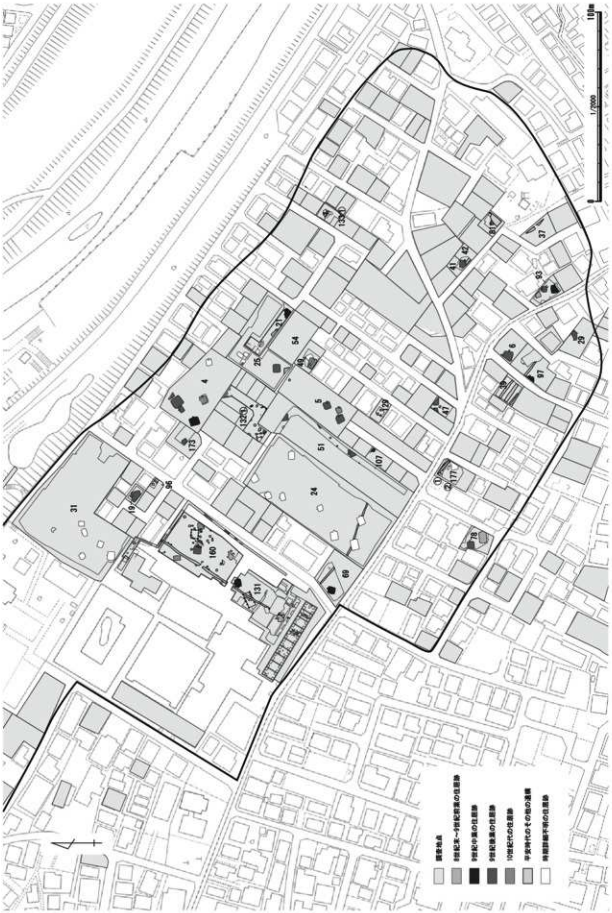
これらの年代相をまとめると、４の須恵器坏のみ８世紀後葉の古相を示すが、床下からの出土であることから混入の可能性も考えられ、総じて89Ｈの時期は９世紀後葉に位置づけられよう。

（２）田子山遺跡の平安時代の遺構について

志木市内の発掘調査において現在までに検出した平安時代の住居跡の数は、総計165軒であり、遺跡ごとの内訳は、多い順から田子山遺跡68軒、城山遺跡48軒、中野遺跡29軒、中道遺跡13軒、西原大塚遺跡６軒、富士前遺跡１軒となる（未報告地点を含む）。田子山遺跡の住居跡数は全体の約４割を占め、田子山遺跡は市内における平安時代の中心的な集落であったことが想定される。

現在までに、田子山遺跡で調査された平安時代の住居跡を第19表で一覧としてまとめた。田子山遺跡の平安時代の遺構は、住居跡のほか、土坑・溝跡・掘立柱建築遺構・ピットが検出されており、遺跡範囲の中央～南西部を中心に分布する傾向にある（第31図）。田子山遺跡の平安時代の住居跡の時期変遷については、８世紀末葉～９世紀後葉の間、時期が下るにつれて住居数が増える傾向にあり、９世紀後葉に急増するが（大久保　2022b）、時期ごとによる分布の傾向はみられず、全時期を通して遺跡の中央～南西部に散在する。

本地点で検出した89Ｈの時期について、（１）にて先述したが、９世紀後葉に位置づけられ、当該期の集落の様相を検討する上での事例を一つ追加することとなった。



第31図　田子山遺跡の平安時代遺構分布（1／2,000）

住居番号（地点名）	時期	規模(m) 長軸	規模(m) 短軸	カマド位置	出土遺物	備考	報告書（第3表）
１H（第４地点）	平安（９c後葉）	3.5	2.5	北	須恵器坏		No.13
２H（第４地点）	平安（９c中葉）	5.0	4.05	東	須恵器坏・埦・皿／土師器甕／鉄製品（鎌）		
３H（第４地点）	平安（９c後葉）	5.8	5.2	なし	鉄製品（刀子）	構築途中の住居か	
４H（第４地点）	平安	3.4	2.95	東	土師器甕・埦／炭化種子（ヤマモモか）	９Hを切る消失住居か	
５H（第４地点）	平安（10c前葉）	3.68	3.25	東	須恵器坏・皿・埦／灰釉陶器坏・壺／土師器甕		
８H（第４地点）	平安（９c後葉）	不明	3.65	調査区外	須恵器坏／鉄製品（刀子もしくは鉄鏃）		
９H（第４地点）	平安	4.7	3.7	北	（図化できる遺物なし）	５Hに切られる	
10H（第５地点）	平安（10c前葉）	3.0	2.74	東	灰釉陶器長頸瓶・碗／須恵器埦		No.13
12H（第５地点）	平安（９c後葉）	4.18	3.85	東	須恵器坏・長頸瓶・甕／土師器甕／鉄製品（刀子・鉄鏃？・馬具）		
13H（第５地点）	平安（９c後葉）	3.66	3.6	東	須恵器坏・甕／土師器甕／鉄製品（刀子）／石製品（砥石）		
14H（第５地点）	平安（９c前葉）	不明	不明	調査区外	黒色研磨坏	第25地点で調査消失住居か	No.22
15H（第６地点）	平安（９c後葉）	不明	4.8	北・東	須恵器坏・皿／土師器甕／土製品（土錘）／鉄製品（刀子）	須恵器坏に「手」という墨書あり	No.12
18H（第19地点）	平安（９c後葉）	不明	5.34	不明	須恵器坏・埦・耳皿／土師器甕／布目瓦／土製品（土錘・砥石？）／鉄製品（刀子・鉄鏃？など）	２回建て替え消失住居か	No.22
19H（第21地点）	平安（９c中葉）	不明	不明	北	須恵器坏／土師器甕／土製品（支脚）／鉄製品（釘）	１回建て替え消失住居か	No.22
20H（第21地点）	平安（９c前葉）	不明	4.7	東	須恵器坏・壺・甕／鉄製品（鞭）		
21H（第21地点）	平安	2.9	2.3	なし	須恵器甕	小竪穴状遺構	
22H（第21地点）	平安	不明	2.25	なし	鉄製品（釘）	小竪穴状遺構	
23H（第25地点）	平安（９c後葉）	4.2	3.9	なし	須恵器坏・甕／石製品（砥石）		No.22
24H（第25地点）	平安	3.6	2.2	なし	黒色土器坏／須恵器甕	小竪穴状遺構消失住居か	
25H（第25地点）	平安	3.25	2.17	なし	（図化できる遺物なし）	小竪穴状遺構	
26H（第25地点）	平安	不明	2.15	なし	（図化できる遺物なし）	小竪穴状遺構	
28H（第24地点）	平安	－	－	－	－	－	未報告
29H（第24地点）	平安	－	－	－	－	－	
30H（第24地点）	平安	－	－	－	－	－	
31H（第24地点）	平安	－	－	－	－	－	
34H（第24地点）	平安	－	－	－	－	－	
36H（第24地点）	平安	－	－	－	－	－	
39H（第24地点）	平安	－	－	－	－	－	
40H（第24地点）	平安	－	－	－	－	－	
43H（第29地点）	平安（９c後葉）	不明	不明	調査区外	須恵器坏・埦／布目瓦	須恵器坏に「芳」という墨書あり	No.15
45H（第31地点）	平安	－	－	－	－	－	未報告
46H（第31地点）	平安	－	－	－	－	－	
47H（第31地点）	平安	－	－	－	－	－	
48H（第31地点）	平安	－	－	－	－	－	
49H（第31地点）	平安	－	－	－	－	－	

第19表　田子山遺跡の平安時代住居跡一覧（１）

住居番号（地点名）	時期	規模(m) 長軸	規模(m) 短軸	カマド位置	出土遺物	備考	報告書（第３表）
50Ｈ（第41・42地点）	平安（9ｃ後葉）	4.56	3.9	東	須恵器坏／土師器甕／鉄製品（鏃？、鉄鏃）／同製品		No.18
51Ｈ（第47地点）	平安（9ｃ後葉）	不明	2.88	東	須恵器坏・甕／鉄製品		No.20
52Ｈ（第47地点）	平安（9ｃ後葉）	不明	不明	東	須恵器坏／土師器甕／鉄製品（刀子、鉄鏃？）／石製品（砥石）		
54Ｈ（第49地点）	平安	3.34	2.78	北	（図化できる遺物なし）		No.20
55Ｈ（第49地点）	平安（10ｃ中葉）	5.4	4.1	不明	須恵器坏／土師器甕	消失住居か	
57Ｈ（第51地点）	平安（9ｃ後葉）	4.25	3.3	北	須恵器坏・椀・皿／土師器甕／土製品（支脚）		No.75
58Ｈ（第51地点）	平安（9ｃ後葉）	不明	不明	調査区外	土師器甕／須恵器壺		
60Ｈ（第51地点）	平安（9ｃ後葉）	不明	3.5	調査区外	須恵器坏・皿・椀・壺・甕／土師器甕		
62Ｈ（第69地点）	平安（9ｃ中葉）	3.77	3.36	北	須恵器蓋・坏・皿・壺・甕／土師器甕		No.26
63Ｈ（第78地点）	平安（9ｃ後葉）	不明	3.66	東	須恵器坏・甕／灰釉陶器坏／土師器甕／鉄製品（鉄鏃など）／石製品（砥石）		No.28
64Ｈ（第78地点）	平安（9ｃ前葉）	5.9	3.95	北	須恵器坏・甕／土師器甕／ミニチュア土器／鉄製品（刀子・鉄鏃・鉄釘）／石製品（砥石・石皿）	２回建て替え 消失住居か	
65Ｈ（第81地点）	平安（9ｃ後葉）	2.7	2.1	不明	須恵器坏・長頸瓶		No.30
66Ｈ（第93地点）	平安（9ｃ中葉）	4.2	4.18	東	須恵器坏・甕／灰釉陶器／土師器甕／鉄製品（鉄釘など）／土製品（支脚）		No.45
67Ｈ（第93地点）	平安（9ｃ後葉）	2.88	2.7	北	須恵器坏／土師器甕		
68Ｈ（第93地点）	平安（8ｃ末～9ｃ初）	不明	2.65	北	須恵器坏・甕／土師器甕	須恵器坏に「十」、「上」、「る」もしくは「満」か「為」という墨書あり	
69Ｈ（第97地点）	平安（9ｃ中葉）	不明	不明	東	須恵器蓋・坏／土師器甕		No.40
70Ｈ（第97地点）	平安	不明	不明	調査区外	須恵器紡錘車		
71Ｈ（第107地点）	平安（9ｃ中葉）	不明	不明	調査区外	須恵器坏・甕		No.55
72Ｈ（第129地点）	平安（9ｃ後～末葉）	不明	不明	東	須恵器坏／土師器甕		No.96
73Ｈ（第131地点）	平安（9ｃ前葉）	3.5	3.3	北	須恵器坏／土師器甕／鉄製品		No.65
74Ｈ（第131地点）	平安（9ｃ中葉）	3.8	3.3	北・東・西	須恵器蓋・坏・椀／土師器坏・甕／鉄製品（紡錘車）		
75Ｈ（第131地点）	平安	不明	不明	調査区外	須恵器坏／土師器甕		
78Ｈ（第132①地点）	平安（9ｃ中葉）	不明	不明	東	須恵器坏・椀・甕／土師器甕		No.69
79Ｈ（第132①地点）	平安	不明	不明	東	須恵器椀・甕／土師器甕		
80Ｈ（第132①地点）	平安（9ｃ中葉）	不明	不明	北	須恵器坏／土師器甕	消失住居か	
77Ｈ（第133①地点）	平安	－	－	－	－	－	未報告
81Ｈ（第160地点）	平安（9ｃ末～10ｃ前）	3.4	3.1	調査区外	須恵器坏／土師器甕		No.81
82Ｈ（第160地点）	平安（9ｃ前葉）	不明	不明	北	須恵器蓋／土師器甕／鉄製品（刀子）	須恵器蓋に「山田二」という墨書あり	
84Ｈ（第160地点）	平安（10ｃ）	3.6	2.5	北東隅	須恵器坏／土師器甕／土製品（土錘）		
85Ｈ（第160地点）	平安（9ｃ後～末葉）	4.1	3.9	北・東	須恵器蓋・坏・長頸瓶・大甕／灰釉陶器瓶／土師器甕／鉄製品	須恵器坏に「万」という墨書あり	
89Ｈ（第173地点）	平安（9ｃ後葉）	2.7	不明	北	須恵器坏・椀／灰釉陶器碗／土師器甕／土製品（支脚）		本報告
90Ｈ（第177①②地点）	平安	－	－	－	－	－	未報告
92Ｈ（第177①②地点）	平安	－	－	－	－	－	

第19表　田子山遺跡の平安時代住居跡一覧（２）

[参考文献]

大久保聡　2022a「第５章　調査のまとめ」『城山遺跡第99地点　中野遺跡第114地点　中道遺跡第92地点　埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第84集　埼玉県志木市教育委員会
2022b「新羅郡の時代の志木市」『武蔵国・新羅郡の時代』シンポジウム「新羅郡の時代を探る」実行委員会
2023「第５章　調査のまとめ」『志木市遺跡群26』志木市の文化財第92集　埼玉県志木市教育委員会
大久保聡・尾形則敏　2020『西原大塚遺跡第220地点　西原大塚遺跡第222地点　西原大塚遺跡第227地点　埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第75集　志木市教育委員会
大久保聡・尾形則敏・木村結香・原野真祐・石橋佳奈ほか　2023『中野遺跡第122地点』志木市の文化財第94集　埼玉県志木市教育委員会
大久保聡・尾形則敏・徳留彰紀　2023『志木市遺跡群26』志木市の文化財第92集　埼玉県志木市教育委員会
尾形則敏・大久保聡　2022『城山遺跡第99地点　中野遺跡第114地点　中道遺跡第92地点　埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第84集　埼玉県志木市教育委員会
尾形則敏・大久保聡・成島一也・西川忠春　2020『西原大塚遺跡第224地点　埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第74集　志木市教育委員会
尾形則敏・大久保聡・深井恵子・青木　修　2019『西原大塚遺跡第213地点　中野遺跡第102地点　中野遺跡第104地点埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第72集　志木市教育委員会
尾形則敏・徳留彰紀・大久保聡・市川康弘・梶山真理・植月　学　2021『中野遺跡第109地点　埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第78集　埼玉県志木市教育委員会
尾形則敏・徳留彰紀・大久保聡・小林陽子・福泉　藍・石川安司　2022『西原大塚遺跡第234地点　埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第86集　埼玉県志木市教育委員会
尾形則敏・徳留彰紀・坂上直嗣・青池紀子・鈴木伸哉　2011『城山遺跡第63地点　埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第46集　志木市教育委員会
尾形則敏・徳留彰紀・深井恵子・青木　修　2012『城山遺跡第62地点　埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第78集　埼玉県志木市教育委員会
尾形則敏・深井恵子　2000a『志木市遺跡群10』志木市の文化財第28集　埼玉県志木市教育委員会
2000b『埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ』志木市の文化財第29集　埼玉県志木市教育委員会
尾形則敏・深井恵子・青木　修　2004a『志木市遺跡群14』志木市の文化財第36集　埼玉県志木市教育委員会
2004b『中野遺跡第49地点』志木市遺跡調査会調査報告第７集　埼玉県志木市遺跡調査会
2005『城山遺跡第42地点　埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告第10集　埼玉県志木市遺跡調査会
2007『新邸遺跡第８地点　埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告第11集　埼玉県志木市遺跡調査会
尾形則敏・藤波啓容・鈴木　徹・中村真理　2008『城山遺跡第58・60地点　発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告第17集　志木市遺跡調査会
齊藤孝正　1998「黒笹14号窯式」「黒笹90号窯式」『日本土器事典』雄山閣出版株式会社
佐々木保俊・尾形則敏　1988『中道遺跡発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告第５集　埼玉県志木市遺跡調査会
1989『志木市遺跡群Ⅰ』志木市の文化財第13集　埼玉県志木市教育委員会
1997『志木市遺跡群Ⅷ』志木市の文化財第25集　埼玉県志木市教育委員会
根本　靖　1999「所沢市東の上遺跡の基礎研究　Ⅱ」『あらかわ』第２号　あらかわ考古談話会
渡辺　一　1990「第４章　成果と問題点」『鳩山窯跡群Ⅱ』鳩山窯跡群発掘調査報告書第２冊　鳩山窯跡群遺跡調査会
2007「須恵器の生産」『鳩山の遺跡・古代窯業』鳩山町史編さん調査報告書第10集　鳩山町教育委員会

図　　版

1．調査前風景

2．確認調査風景

3．表土剥ぎ風景

4．前半調査区遺構検出状況

5．後半調査区遺構検出状況

6．TP 1 基本土層

7．TP 2 基本土層

8．345 号土坑

1．19号ピット

2．38号ピット

3．40号ピット

4．347号土坑

5．段切状遺構

1. 344 号土坑

2. 346 号土坑人骨出土状態

3. 346 号土坑人骨出土状態

4. 346 号土坑人骨出土状態

5. 346 号土坑調査風景

6. 346 号土坑

7. 348 号土坑竪坑部牛の歯出土状態

8. 348 号土坑竪坑部牛の歯出土状態

1. 348 号土坑調査風景

2. 348 号土坑竪坑部

3. 348 号土坑　竪坑部側から

4. 348 号土坑　主体部側から

5. 348 号土坑竪坑部　主体部側から

1. 349号土坑

2. 350号土坑

3. 66号ピット

4. 67号ピット

5. 前半調査区調査風景

6. 後半調査区調査風景

7. 前半調査区全景

8. 後半調査区全景

1.段切状遺構出土遺物

2.348号土坑出土遺物

3.ピット出土遺物

4.遺構外出土遺物

1．調査前風景

2．確認調査風景

3．表土剥ぎ風景

4．遺構検出状況

5．89号住居跡遺物出土状態

1．89号住居跡

2．89号住居跡カマド袖部

3．89号住居跡カマド

4．89号住居跡Ｐ１

5．89号住居跡Ｐ２

1．89 号住居跡貯蔵穴

2．89 号住居跡掘り方

3．89 号住居跡掘り方

4．89 号住居跡調査風景

5．338 号土坑

6．339 号土坑

7．340・341 号土坑土層断面

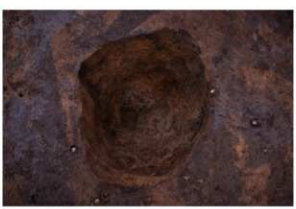
8．340・341 号土坑

1．1号ピット遺物出土状態

2．1号ピット

3．10号ピット遺物出土状態

4．10号ピット



5．14号ピット

6．19号ピット

7．調査風景

8．調査区全景

1.89号住居跡出土遺物

2.ピット出土遺物

3.遺構外出土遺物

1. 頭骨（右が前頭部、左が後頭部）
2. 上顎骨、下顎骨及び歯
3. 上顎の臼歯部
4. 右大腿骨
5. 左寛骨

346号土坑出土人骨

報 告 書 抄 録

ふりがな	なかみちいせきだい97ちてん たどやまいせきだい173ちてん まいぞうぶんかざいはっくつちょうさほうこくしょ
書　　名	中道遺跡第97地点　田子山遺跡第173地点　埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	志木市の文化財
シリーズ番号	第96集
編著者氏名	木村結香・尾形則敏（志木市教育委員会）　藤田　尚・伊藤　茂・加藤和浩・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・Zaur Lomtatidze・森　将志（株式会社パレオ・ラボ）
編 集 機 関	埼玉県志木市教育委員会
所　在　地	〒353-0002　埼玉県志木市中宗岡１丁目１番１号　TEL 048（473）1111
発行年月日	令和6（2024）年3月29日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 （°′″）	東経 （°′″）	調査期間	調査面積（㎡） （全体面積）	調査原因
なかみちいせき 中道遺跡 （第97地点）	しきし 志木市 かしわちょう 柏町 5丁目2978-1・3	11228	09-005	35° 49′ 45″	139° 34′ 6″	20230403 ～ 20230518	226.57 （316.91）	共同住宅建設
たこやまいせき 田子山遺跡 （第173地点）	しきし 志木市 ほんちょう 本町 2丁目1695-7	11228	09-010	35° 49′ 56″	139° 34′ 59″	20220908 ～ 20220930	58.18 （240.92）	分譲住宅建設

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中道遺跡 （第97地点）	集落跡・ 墓跡	縄文時代 平安時代 中世以降	土坑　1基 ピット　3本 土坑　1基 段切状遺構　1か所 土坑　5基 ピット　86本 畝状遺構　30本	なし なし なし 陶器・土器・石製品（板碑） 土器・石製品（砥石）・人骨・牛の歯 陶器 なし	中世以降の346号土坑（346Ｄ）から、14～15世紀代と思われる熟年女性の全身骨が出土した。
田子山遺跡 （第173地点）	集落跡・ 墓跡	縄文時代 平安時代 中世以降	土坑　2基 ピット　1本 住居跡　1軒 ピット　8本 土坑　2基 ピット　10本	なし なし 須恵器・灰釉陶器・土師器・土製品（支脚） 須恵器・灰釉陶器 なし なし	平安時代の89号住居跡（89Ｈ）は9世紀後葉の時期に位置づけられる。

要　約

中道遺跡は、旧石器時代から近世までに至る複合遺跡である。今回の第97地点では、縄文時代の土坑・ピット、平安時代の土坑、中世以降の段切状遺構・土坑・ピット・畝状遺構が検出された。段切状遺構は16～18世紀代に造成されたと考えられ、造成がなされた場所（調査区西半）となされていない場所（調査区東半）の境を検出した。346Dは土坑墓で、人の全身骨が出土し、自然科学分析の成果から、人骨は14～15世紀代の熟年女性と考えられる。骨の出土位置から頭北面西、横臥屈葬で埋葬されたと判断される。348Ｄは竪坑部と主体部からなる地下式坑である。

田子山遺跡は、縄文時代から近代までに至る複合遺跡である。今回の第173地点では、縄文時代の土坑・ピット、平安時代の住居跡・ピット、中世以降の土坑・ピットが検出された。平安時代の住居跡である89Ｈは、出土遺物から9世紀後葉の年代が与えられる。

志木市の文化財　第96集

中道遺跡第97地点
田子山遺跡第173地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

発　行　埼玉県志木市教育委員会
埼玉県志木市中宗岡１丁目１番１号
発行日　令和６（2024）年３月29日
印　刷　株式会社 白峰社